來、之に依つて表情研究の科學的方法を確立することが出來たと信じて居る。

かういふ考へ方は從來の方法に比しては些か破天荒で、一の飛躍といひ得ると思ふ。人生自身が或る程度の進歩の後には惰性が來る。多くの人は四十臺位までは進歩するが、五十臺以後は唯惰性で働いて居る。

この惰性を打ち破るものこそ飛躍であつて、行き當つては飛躍し、行き當つては飛躍する人のみ、死ぬるまで進歩を續け得る。

強き心臟

エヂソンが未だ子供の頃、友人のミカ公に沸騰酸を飲ませて苦しめたといふ話がある。それは彼が風船玉から思ひ出して、腹の中に瓦斯を作れば、ミカ公の身體が膨れ上つて空に浮ぶだらうと考へたのであつた。吾々は斯ういふ着想が、實は創意の源泉であることを忘れてはならない。

汽車の鋼鐵タイヤを作る機械も鋼や銅、眞鍮管を作る水壓押出機械も、共に原理は子供が粘土から、管や輪を作るのと全く同じやり方である。

鐵や銅や眞鍮を粘土と同じに視て、呑んで掛る時に始めてこの發明は成立する。大發明は對

象物に呑まれずに之を呑んで掛る自信がある時にのみ完成する。吾々は決して仕事に圧押されてはならない。技術に對してだけは人間は須く心臟を強く持つべしだと思ふ。

舶來の機械といへば、まるで呑まれてしまつて、頭から之を改善しようとしない樣な人に、大なる創意を望むことは不可能である。

五

技術上の創意は詩を求むる心と相通ずるものがありとするならば、獨創力の錬成には作歌の場合と同樣に、指導を要することは前にも述べたが、この指導如何に依つて、人の創造の力は極端に伸ばすことも萎縮せしむることも出來る。

自分の工場でかういふ例があつた。或る課長が一の發明を考案して、その一部を試作して上役の幾人かに見て貰つた。然るに皆が見たゞけで、賞めるでも叱るでも無く、又將來の指針を與へるでも無く、遂にその試作はそのまゝに放任されて居つた。

それから四、五ケ月後であつた。私は或る機會があつて其の試作品を見付け、運轉させて見たが中々面白い着想で、相當有望のものと感じたのであつた。そこで二、三の改良すべき點や、

調査實驗すべき項目等を指示し、今後の進むべき方針まで指示して置いた。

一週間にして、課長は命じて置いた改良や調査を終つたが、その結果は豫想以上に良好であつた。更に激勵して其の後の進路を相談して置いた。

それから更に一ケ月餘にして、追加試作せられた部分を見ると、之が一ケ月半や二ケ月の所産とは思はれぬ程の仕事を完成して居つた。

私はこの經驗に依つて、技術上の創意發揮に於ける指導者の責任が、如何に重いかを如實に痛感したのである。

若人の折角の才能も、經營者や指導者の無方針と無指導とに依つて、可惜これを萎縮せしめて居ることが如何に多いことか。之に反して善い指導者を得た者は、どし〳〵その才を伸ばし得る。昔の劍客の名手が、天下を武者修業して良師を求め歩いたのも實にこの爲であつた。

★

發明家等の本當の天才は、學校出身者よりも却つて實地家に多い。かういふ人達は一會社のみならず國の寶であるから、出來得る限り之を指導育成してやらなくてはならない。然るに狹量な學校出身技術者中には、往々にして實地家の名案をも理窟で言ひ負かして仕舞ふものがあ

る。これでは天才を充分發揮することを出來なくする。

故に天才的技術を有する人は理解ある溯達な指導者の下に、他の一切の干渉を除いて自由に働かしむるがよい。

尙技術の指導に就て最も肝要なことは、研究者に對して、寧ろ力に餘る如き困難なる課題を與へることである。如何なる困難の仕事も努力次第で、やがては實を結ぶ。而も擔當者自身としても、十の安易な仕事を完成するよりも、一の困難な問題を解決する方が、何程自身の技倆を高め自信を强めるか判らない。

恰も畫家が百幅の御座なりの席畫を揮毫するよりも、一幅の帝展出品を力作する方が、その技倆を向上するに役立つのと同じい。最困難なる課題こそ最良の指導者である。

實行は繼走式に

一度大戰があると、兵器に關する技術は大幅の飛躍をする。それは平時絕對に秘密に付せられてゐる各國の凡ゆる兵器が悉く戰場に出現し、更に實戰の結果を採り入れては、改良に次ぐに改良を以てし、新兵器を續出せしむるからである。

特に平素立後れて居た國の技術陣は敵の分捕品の研究模倣だけでも容易の業では無い。

最敏速に敵と對應して行かなければ、味方の損害は甚大となるを免れない。斯ういふ場合、研究や創意の實現は一刻を爭ふ。かゝる仕事を神速に遂行する爲に、私は繼走式執務法を案出した。

つまり仕事の前後や中間の一切の休閑時間を絶無とし、關係者全部連帶して最小正味時間の總和を以て仕事を成し遂げること、恰もリレー競走におけるごとく爲さうといふのである。これは特別に考案せられた繼走手帳を用ふる。

今日の急場こそ、實に全國の研究者技術者が、創意のバトンを以て走り繼ぐ可き時代であると私は思ふ。

（昭和十八年三月）

裁斷の物指

軍馬輸送

一

この間縣廳で開かれた翼賛會縣支部常務委員會に出席しての歸路、靜岡驛のプラットフォームに出て、西行の汽車を待つて居ると、丁度そこに軍馬輸送の列車が入つて來た。一つの貨車に馬が三頭づゝ向ひ合つて六頭居る。而して床に藁が敷いてあつて、氷の大きい塊が轉がしてある。兵隊さんが二人づゝ、馬と鼻をつき合せるやうな狹い處で馬の世話をして居る。時には午睡の夢を馬に蹴散らされる事もあらう。思ひ成しか氷の塊さへも何だか暑苦しくさへ見える。

丁度二人の兵隊さんが、辨當を欲しいと言つて居る。辨當屋は待合所近くに腰を掛けたまゝ

動かうとしない。私は見兼ねて兵隊さんの爲に辨當を買つてやらうとして、「兵隊さんが辨當が欲しいさうだから」と云ふと、「兵隊さんには賣る事が出來ないんです。話してもいけないんです」と云ふ。「あゝさうですか」と云つて居る間に汽車は出てしまつた。私は感慨無量その列車の後を見送つた。

貨車に積む軍馬の間に藁敷きて
夢多からめ眠る兵士は

藁の上に轉がりてある氷塊も
涼しきに似ず軍馬輸送車

馬嘶かず人は語らず肅々と
驛過ぎて征く今日も幾列車

西へ西へ幾列車征く人馬かも
目送しつゝ語る人も無し

敵の空襲來る幾日の後かなど
見送る吾の胸を去來す

本當に、お國の爲とは云ひ乍ら實に御苦勞の事であると私はこの人達の武運長久を默禱して、暫く其の場に佇んで居た。

二

東亞の風雲は今日本當に急になつた。所謂ABCD聯合は我日本に對する包圍陣形を益々強化して來た。日本も亦當然確固不拔の決意を以て一歩たりとも退くまいとの態勢を持してゐる。

かくて事變以來我々の同僚やその子弟の人達は隨分多數應召をした。兵役と應召の期間とを

合せれば四年も五年も全く自己を沒却し、仕事を捨て、命まで投げ出して　陛下の爲、お國の爲に奉公して居られる。最近も應召して行かれる人々を集めて私は送別の辭を述べた。「中には二度目の應召の人も多く、三度目の應召の方さへもある。私は諸君が人生五十年の中から、三年五年を全く御奉公の爲に、而も命を投げ出し萬事を放擲して國家の爲に、奮闘努力せらるゝ事を考へると、その勞苦と犧牲とに對して、心底からの感謝で一杯である　吾々一度も應召せずして銃後にあるものは、如何にも申譯無い樣に感ずる。どんなに骨折つても、諸君の勞苦の何十分の一にも及ばないと思ふ。せめて諸君の勞苦を思つて、滅私奉公銃後の御奉公をしようと思ふ」と誓つた事である。

廣く世間を見渡すと、果して人々は眞心から銃後の仕事に從事してゐるであらうか。商賣人は自らの儲けの多い事ばかりを考へ、働いて居る人は自分の給料の多少のみを考へ、餘りに我儘な暮し方をして居りはしないであらうか。若しそんな事があつたならば、吾々は三年五年間の生活を全部國に捧げ、馬と共に喪て征く兵隊さん（それは皆吾々の兄弟である）に本當に申譯が無いと思ふ。

三

私が丁度應召者を送つた夜の出來事であつた。或る會の歸りで雨のどしや降りの夜十時頃友人と三人で小型のタキシーを呼んで歸らうとした。友人の一人は高町に居るので、途中高町で一人下して貰ひ度いと云つた所が、運轉手は喰つて懸るやうな劍幕で、「木炭車だから坂なんか登れやしないから、高町へ行く人は下りて呉れ」といふ。「でもこの雨だから。若し坂を上れなかつたらば　その時に下車するから、動かなくなるまで行つて呉れ給へ」と云つて、猶ぶつ〳〵不平を云つて居る運轉手をなだめすかす樣にして乘つた事がある。私共はこの時、本當にこの運轉手の態度に憤慨した。戰線へ出たり、應召した勇士の事を思へば、雨中で困つてゐる人を一人載せた所が、自動車だから自分が骨折れる譯でも何でも無い。唯自動車が拂底だと云ふだけを笠に着て、我儘の爲し放題で、職業に對する忠實も忘れ、奉仕も無ければ親切も無く、唯我利我儘の外眼中に無い。日本人は一體之でよいのであらうか。

一體銃後の人として、吾々は何を爲さねばならないのであらうか。要するにあらゆる場合、あらゆる職業の人が、自己の仕事に忠實に、又世の中　人の爲に心からの親切を盡し、自己の

仕事を通じて人間を完成し、奉仕をする外に人生はあり得無いのである。混亂の時勢は人々を驅つて、無修養無理想に導き勝ちである。然し吾々は今の時代が如何に緊迫し、一觸卽發の危機に直面するかを考へれば考へる程、吾々の修養の必要を痛感する。確乎たる信念、不動の覺悟があつてこそ、如何なる大事變に遭つても泰然として善處して行く事が出來る。吾々はお互に顧みて更に覺悟をし直す必要がある。

（十六、八、五）

路上の拾ひ物

或る雜誌でこんな記事を讀んだ事がある。一人の老婆が街を歩いて居つたが、ふと路上に何かを見付けて、之を拾ひ上げ、丁寧に紙に包んで、そつと帶の間に挾み、何氣ない風をして歩いて行つた。丁度通り合せた巡査が、之を見て居つた。お婆さんを呼び止めて、「お前さんは今何を拾つたのか、見せい」。と、老婆は落ち着いて、帶の間から小さい紙に包んだものを取出した。巡査が開けて見ると、小さなガラスの破片が出て來た。「往來で子供が怪我でもするといけませんから、拾つて參りました」とお婆さんが曰つた。といふ話である。

私はこの話を讀んで非常に感心をした。若しガラスの破片が自分の家の座敷や、廊下にでも落ちて居ようものならば、如何なる人でも必ず、子供や家人が怪我をしないやうにと直ぐに拾つて捨てるであらう。之が座敷で無く、自分の家の庭先に落ちて居ても、同樣に直ぐに片づけ

るであらう

然るにこのガラスの破片が、門から一歩外に落ちて居たとしたならば、他人の子供が怪我をしてはならないからと、之を拾つて片附ける人が幾人あるであらうか。庭の中に落ちて居ても、往來に落ちて居つても、危險であるといふ點に於ては變りは無い　唯相違は、怪我をするかも知れない人が、自分や自分の家族であるか、又他人であるかの相違だけである。自分の子供の怪我は困るが、人の子供の怪我は平氣であるといふのでは、洵に淺ましい心では無いか。

東海道を汽車で渡る人は、濱名湖の辨天島の直ぐ西方に、鐵道と並行して走つて居る國道に架つたコンクリート橋の裝飾電燈が、二十一箇ほど破損して居るのを敷ふる事が出來る。私は之を見る度に自分等の通る國道に、自分等を照らす爲に、自分等の費用で作つた電燈を、自分等で破る國民のある事を衷心から恥かしく思ふ。誰か自分の家の座敷の電燈に、自ら石を打ちつけて、破るものがあらうか。それは吾自身の所有物であると考へるからである。然るにそれが公道に在るものとなると平氣で之を破る。公の　のだと思ふからである。「公のもの」とは何かと云ふに、結局吾々のものである。吾は世の中を構成する一人で、結局世の中は、幾人もの吾が集つたものである。即ち公とは吾々といふ事である。吾が複數となつて吾々となつただ

けの相違である。日本人は吾を愛する事は知つても、吾々を愛する事を知らない人が多い。

私は昨年五月から六月にかけて、四十日ばかり滿洲及び北中支の旅をした。その時に、往く先の町で街燈の破損に特に注意を拂つて見た。然るに新京に於て、二箇の街燈が破れて居るのを見つけたのみで、北京にも、青島にも、南京、上海にも支那の町では遂に一箇の街燈の破壞されて居るのをも氣付かなかつた。新京には日本人が多いから、之もひよつとしたならば、日本人が破つたのかも知れ無いと云ふ氣がした。

內地で街燈の破損されて居るのは、濱名湖鐵橋ばかりでは無い。大小都市の街頭で到る所に見る事が出來る。之を以て見ると日本人の公德心は、却つて支那人などよりも劣つて居りはせぬかと怪しまれる。洵に殘念な事である。

或る時私は田舍の親戚の法事に列席して、大勢の人と一緒に墓參をした。田舍の事であるから、狹い田圃道を通つて行つた。途中に幅三尺ほどの小溝があつて、之に橋が架つて、小さな閘門があつた。閘門の二枚の扉を取外して道の眞中に放つてあつた。見て居ると、先頭から三十人許りの人が皆、誰　人この扉を取り除けようとしないで、唯さへ狹い田圃道の端を、足でもすべらしさうな、さも窮屈さうな姿をして避けては通つて行く。その間に私の番が來た。私

は二枚の扉を取り除けて、道の傍に置いてやつた。

「最初に行く人が之を除けて呉れゝば、四十人の人が皆助かる。そしてこの四十人の人々が、歸り道にも皆避けなくてもよい。それを、扉をそのまゝにして、皆わざ〳〵窮屈な目をして、避けて行く。道を避けるのと、扉を取り除けるのと同じ位の勞であるのに、惜しい事である」と思つた。自分だけ通れゝば人はどうでも構はぬといふのが、この人達の無意識心理である。又閘門を外して道の眞中に置いた人も、他人の迷惑などは少しも心附かなかつたのである。共に洵に心無き仕わざと云はねばならない。吾々は道に邪魔物が横たはつて居る時は、どうしても之を捨てゝ置く事が出來ない。皆の邪魔になるであらうと思ふものは之を取り除けて置くべきである。之は社會に住む誰でもの責務では無からうか。

嘗て私は大阪驛から友人たる某會社の重役と一緒に、東京行の汽車に乘つた。二人でプラットフォームに出た所が、友人は汽車の標示板の尖端で頭をいやといふほど打つた。その標示板といふのは、次の列車は何時何分何所行と書いてある掛札で、札を掛ける板の先端が矢のやうに尖らしてある。五尺四五寸の高さにあるので、丈の高い友人は之に頭を打ちつけたのである。友人は、「僕は之で時々頭を打つんだよ」と云つて居る。私は「それならば、直ぐ直さし

て置くがよい」と云つて丁度居合せた驛員に、この札掛の尖端を丸く削つて置くやうに話した。「若し矢で示す必要があれば、ペンキで矢の印を畫いて置いたならば、如何です」と話して置いた。私の身長は五尺三寸程しか無いからこの札掛で頭を打つ心配は無かつたが、皆が頭を打つと聞いては、直して置いた方が親切だと考へたまでである。

私の動機に何等の私心は無い。

私心の無い注意は誰でも喜んで容れるものである。

その後一ケ月經てから、又大阪驛に來た。見ると、今度は札掛は、私の言つた通り、ちやんと先を削つて圓みを付けてある。大阪驛では之以來頭を打つ人は永久に無くなつたのである。

本當に僅かばかりの勞であるが、若し吾々が、世の中の爲になる事は、假令些事でも片端から實行して行かうと云ふ親切心——奉仕の心である——があるならば、世の中は現在よりも何程住みよい、より良きものとなる事であらうか。

世の中には、惡事さへ爲さなければ、積極的の善を爲さなくとも、善人であると考へて居る人が非常に多い。然し斯う云ふ人は獨善主義の人であつて、世の中に存在しても、しなくてもよい種類の人である。

悪しきことをせねば足れりとおもふらし
善きことせずて生くる甲斐やある

私はこの樣に思ふ。

聖書の中に「汝等は地の鹽なり、鹽若しその效力を失はば、何を以て之に鹽すべき」とキリストが其の弟子に敎へた言葉がある。私は學生の頃この言葉を讀んで深い感銘を受けた。

世の鹽となるとちかひし一生とて
いさゝかの味持ちて足りなむ

而して爾來些かでも世の鹽となつて、「道の上にあるガラスの破片」を拾ひ、又邪魔物を取り除けて歩き度いと云ふ念願を持ち續けて居る。

今や日本は後ればせ乍ら新體制に出發して居る。その標語の第一は公益優先である。公益優先はやがて奉仕の心である。東亞の盟主たるべき崇尊な責務を擔ふ吾々は、先づ心の底より奉仕の意義を味了すべきであらう。

永久に新鮮なるもの

自然又は人間の作品で、吾々は、自分で嘗て接したことの無いやうな飛び拔けて秀でたものに接する時、そこに非常な新鮮感を體驗する。例へば山水の景を見る。それが平凡なありふれた景色を遙かに拔んづる時に、思はず感歎の聲を上げる。物を喰ふ、その味が群を拔く時に、舌鼓を打つて新鮮味を滿喫する。

長い年月の淘汰を經て殘つて居る藝術的作品で、それが名作と呼ばるゝものは、繪畫であらうが、彫刻であらうが詩歌であらうが、何千年の昔のものが、今尙新鮮感を看る人に與へずには措かない。私は嘗てローマの博物館で、ミケール・アンゼロの大理石の彫刻を見た。それが遠い昔の作品とはどうしても考へられないほどの佳さを持つ。今日そこらの美術展覽會で見る所謂大家の彫刻が、之と比べて何所に新鮮味があるであらうか。省みて怯怩たるものがあら

う。

私は又住友家の古銅器の蒐集を見たことがある。三千年前の周時代に於ける名作が、今日も尙新鮮にひし〳〵と人に迫る。

斯ういふ古代の名作に接する時、「一體藝術なるものは、果して年と共に進歩するものであらうか」といふ疑ひを懷く。嘗て横山大觀氏に逢つた時、私は何氣なく「繪畫は明治以後餘程進歩したのでせうね」と尋ねた。が畫伯は平然として「同じです」と卽座に答へたのである。

私は彼の言葉の意味を、今でも次の樣に解して居る。成る程畫家の數は明治以後昔と比較を絶するほどに急增して來た。東京のみですら畫家と名の付くものは一萬人以上にも達するであらうと言はれる。そして此等畫家の水準は、平均して相當の高さまでは皆進んで來た。誰も彼も或る高さまでは達し、そしてそれが横の方には非常な擴がりをした。だから繪畫の總量からいへば、洵に百花爛漫の趣がある。然し乍らその本質より見て、永遠の歴史に時代を劃するごとき畫が、明治以後に果して出來たかと言へば、それは遂に見出すことが出來ない。「相變らず平凡である」と、かういふ意味であらう。

○

一體人間が一生の間に修得し、練磨し、己の身に着ける藝術は、形而下の物と異つて、肉體の死滅と共に終りを告げる。卽ち藝術は一代限りであつて、誰もが自身の一代の中に、零から出發して、新に自身のものを作り上げなければならない。之に反して科學に於ては、幾百千年の研究の成果は、皆後代に傳へられ、後輩は先輩の所産の總果を繼承し、利用し、更に之を發展せしむることが出來る。藝術と科學の著しい差はこゝにある。だから科學は發展の一路を辿るが、藝術は人材の出現の無い時には後退することがある。一代に傑出した名人の傑作が、百年千年後の作品を以てしても、又幾多の藝術家の制作の總和を以てしても、追隨を許さしめぬ理由もこゝに存する。然らば優れた作品は何故に新鮮感を與ふるのであらうか。それは名作はその質と高さ又は深さに於て、或はその佳さに於て、拔群であるから、平常凡庸の作品を見慣れた吾々の眼が、異常の驚歎を感受するからである。そこに常とは異つた或る新鮮味を感ずるのは當然であらう。而もその新鮮さは一度や二度の觀賞で消え失せる如き末梢輕微なものでは無い。

非凡、超凡の度が高ければ高いほど、又作品の佳さが大なれば大なるほど、新鮮味は永續する。若し千年に一人しか出でない天才が出現したとしたならば、その作品は千年を經ても最も

新鮮であるに相違なく、況んや大業の凡眼にはその作品は永遠の新鮮感を與へるに相違無い。

平凡の作品は之に接する度毎にその拙さが見えて來る。佳き作品は見る度毎に、讀む度毎に、益々その佳さが增して來る。

○

眞の佳作は永久に新鮮であると共に、萬人に對して共通の佳さを持つ。之は獨り善がりの佳さとは違ふ。特殊の人達が、偏つた趣味に立て籠つて新しがつて見ても、それは言はゞ一種の變り種子といふだけで、眞の佳さでは無い。

例へばこゝに誰もが今まで見たことの無い樣な珍らしい花があつたとする（さぼてんにはよくさう云ふ花がある）。それは唯珍らしい變り種子だといふだけで、當初の間こそ珍重せられるであらうが、本當の佳品で無い限り、他に幾つかの似寄りのものが出現する場合に、忽ちにして價値を失つてしまふ。珍らしいは無くとも、櫻の花こそ年々の春に新鮮味を加ふる傑作品で無ければならない。

斯ういつたことは、歌や俳句等にもよくある「てにをは」を變へて見たり、口語體を使つて見たり、人と變つた言ひ廻しをして見たり、彼れこれとひねり廻してみた處で、それは思想的

內容や詩としての佳さでは無くして、唯形をほんの一瞬間珍らしがらせるのみで、謂はゞ月並、凡俗を覆はむとするカモフラージュにしか過ぎない。

眼を上げて富士山を仰いで見よ。何時も同じ富士山であるが、「凡ゆる場合に富士は新鮮なり」としみじみ惟ふ。「千度見て千度めづらし」と昔の歌人も歌つてゐるが、幾萬年經ても富士の新鮮さは失せるものでは無い。私は月に藏回東海道を上下して、富士を車窓に眺める。春に佳し、夏に佳し、秋冬また宜しく、旭日によく、夕陽によく、雲にも佳い。

中身の美しい富士は如何なる衣裳を纏ひ、如何なる化粧をしても似合ふ。それは錦繡の衣やダイヤモンドの指輪で人の眼を眩ます貴婦人の美しさでは斷じて無い。永遠に新鮮なる富士こそは神の作品の中で、最高の傑作であると斷言して憚らない。

○

富士の佳さは特殊の人に限る嗜好では無い。一億の日本國民が例外無しに、日本の表徵としてこの神山を仰ぐ。恐らくは異國人と雖もその美を讃へぬものは無いであらう。

抑人間には感情の共通性がある。勿論ある人達は藝術に對して特に銳敏な感覺を持ち、他の人達は頗る鈍感である。然し乍ら狂人で無い限りは、悲しいことは誰もが悲しく嬉しいこと

は誰もが嬉しい。一人の暑いといふ感じは、他の人の暑い感じと同樣と思はねばならない。

勿論吾々の感情や感覺は、教養や訓練に依つて洗煉せられる。故に同じく美を味ふ中にも、深淺高下の別があり、又中には特に偏した趣味も少くは無い。兎もあれ如何なる人も皆相當の直感力を有するのである。赤坊でさへ自分の母を識別するが故に、他人を見れば泣き出す。

似顔畫家や彫刻家ならずとも、個々の顔貌を識別するからこそ、人の名前を記憶することが出來るのである。されば歌を詠まぬ人、繪を畫かぬ人、彫刻をしない人でも、皆美を直感し、藝術作品を或る程度まで鑑賞識別する力を有して居るものと認めなければならない。

秀でた藝術品が、誰に對しても新鮮の感を與ふる理由は實にこゝに存する。素人であるからとの理由で大衆の批判を蔑視するのは謬りである。假令時代の傾向、推移はあつても「佳きものは誰に對しても常に新鮮なり」との眞理は動かし得ないと思ふ。

○

政治、經濟、戰爭等の分野に於ても、皆それぞれに傑作はあり得るのである。吾々はこの千載一遇の大時代に、如何なる傑作を作り出すべきであらうか。眞珠灣の奇襲の如きは、確かに世界の戰史の上に殘る千古の名作の一であらう。この大時代を背景とする傑作が、今後尚續々

と各方面に躍出することを、吾々は期待して止まない。

○

百田宗治氏は先頃第一回藝術院賞を受けた詩人高村光太郎氏を評して「曼鑠鬢に霜を置いて、この人は未だ私達の先頭に立つて時代を導く。私達に言葉を與へる」と言つて居る。私は高村氏がどれだけの詩の偉材であるかを知らない。然し百田氏のいふ所は、彼の詩は常に新鮮で時代の先頭に立つといふ意味で、私の言つた「名作は常に新鮮なり」といふのと同じ意義である。又高村氏自身が「僕の前には道は無い。僕の後に道は出來る」と言つて居る。その意味は「指導者は獨創的であつて、世の爲に公式を作る。而して大衆は之に隨ふ」といふ私の說と合致する。

而して彼は又言ふ。〃死を滅ぼすの道、たゞ必死あるのみ〃と。蓋し「不滅の作品を得んとすれば必死の努力を要する」といふ私の平素の主張と符節を合するものである。

百點を望んで努力精進するものが、九十點を得ることは敢て難事で無い。然し最初より五十點あれば良いと甘んずる者には、四十點を得ることすら困難であらう。私の仕事に於ける目標は常に滿點主義である。

私は嘗て友人の一畫家に作家としての制作態度を尋ねたことがある。彼の答は「假令自分の技倆には餘ると思ふ場合でも、精一杯の大作を志す時、やはり一番佳い作品が出來る」といふのであつた。之は十を目指して十を獲んよりは、百を望んで九十を獲るといふ事に外ならない。

○

大東亞建設の事業は實に遼遠で、多難な仕事に相違ない。考へやうに依つては、日本の力に餘る程の大事業であるかも知れない。然し吾々國民が、藝術の制作態度に依つて、最上の精進を續ける時に、千古を通じて新鮮なる大傑作が成就しないと誰が斷言し得るであらうか。否、吾々は既に十に非ず、百に非ず、萬點を志して立ち上つたのである。絶體絶命、必ずや九十點の成果を收めなければ止まない。

之を達する道は何か。曰く「死を滅ぼすの道、たゞ必死あるのみ」である。

○

最後に私は歌壇の事に就て一言を付け加へ度い。明治から大正、昭和にかけて、短歌の廣く且つ多く詠まれて居ることは、洵に前代未聞である。盛んなりと言はねばならない。

然しながらこの無數の歌詠の中に、時代の淘汰を經て、永久の新鮮味を保ち得る名作が幾何あるであらうかを靜かに考へて見る時、いさゝか寂寥を感ぜざるを得ない。若しも歌壇の「横山大觀」をして言はしむるならば、「皆同じです」と評せられるかも知れない。

時局の歌も隨分澤山に詠まれ、毎月の雜誌を埋める歌の數だけでも幾萬あるか計り知れない。而も所謂大家の作品も多くは依然たるマンネリズムで、中には思想の空虛を思はしむるものが少くない。誦して愈佳さを增す如き名作が果して幾何あるであらうか。

一冊の歌集を最初から最後まで、一氣に讀み終へるだけの根氣を有する人は恐らくは滅多には無いであらう。お座なりの、同じ程度の歌を、數でこなして見ても、それは貴婦人の衣裳道樂に過ぎない。決して中味の佳さでは無い。

歌を眞の藝術と主張する人があるならば、その人達は須く藝術家の良心に立ち歸つて、「死を滅ぼすもの、たゞ必死あるのみ」の精進に立ち歸つて、マンネリズムと多作とを打ち破り、吾々後進に對し「吾の前に道無し、吾の後に道開く」の範を示して貰ひ度い。

（十七、四、廿五）

裁斷の物指

或る時私の友人AはBに七子を置かして碁を打つて居つた。それを見物してゐたCが傍から頻りに之を批評して居る。餘程の腕前と見たので、Aはその局を打ち終つてから、C君に一戰を挑んだのであつた。どの位の手合せかと尋ねて見ると豈圖らむやCはBに更に六子を置いて居るといふまだ筈の仲間にもなれない、所謂井目風鈴口であつたので、一同は驚いて開いた口が塞がらなかつた。

この話は、勝負と言ふ物指で直ちに腕前の高下が判る碁であつたから大笑ひに終つたのであるが、若し之が裁斷の物指の無い藝術の如きであつたならば事は中々面倒になる。目の無い第三者はCの批評を尤もなりとしてCを高く評價したかも知れない。少くとも本人自身はさう感じてゐたかも知れない。藝術は評價の標準がもともと人の感覺や主觀に出發するから評者の好

惡や時代の風潮等によつても樣々に變つて來る。だから不確定で、獨り善がりの妄評が許されたり、押しの强い者の主張が幅を利かせたりする場合が往々にある。

或る時私は星ヶ岡茶寮で友人數人と會食をした。席上で私はS氏の似顔畫を色紙に畫いてゐた。見物してゐた友人M君が頻りに「今晩は大變出來がよい」と言ひはやす　平常は下手だと言はむばかりに聞える。自分としては今晩と何時もとちつとも變りはないのだが、畫盲（音痴と同じ意味で畫の全然別らぬ人を畫盲といふ）のMは、平氣でそんなことを繰返す。私は些か情無く感じたが、S氏は「私はZ畫伯にも似顔を畫いて貰つたことがありますが、この方がそれよりもずつと能く似て居ます」と大喜びである。「Z畫伯は私の顔を畫く時に『あなたのお顔は特徴が少いから畫き惡い』と言はれました」とも付け加へた。

漫畫家などは人の似顔を畫く時に、自分の腕の拙さを辯解する豫防線に「あなたの顔は特徴が少いから畫き惡い」と大抵は前置きするのがお定りである。機械が寫す寫眞はどんなのつぺら棒の無特徴の顔でも寫し惡いなどとは言はず、又本人に似ない寫眞は無いのだから、「特徴が無いから」といふ逃口上は、要するに自己の技の未熟をカモフラージュするてれ隠しに過ぎ

ない。だから私は人の似顔を畫く時にそんなことは決して言はないことにして居る。

今は故人となつた私の一友人にF君といふのがあつた。宴會の席上等でよく客や藝者等の似顔を畫いて人を困らせたものである。そしてF君は何時も「どうだ甘く出來たらう。これを君に呉れてやるから持つて歸り給へ」と自分の畫を押し賣りするが、藝者などはそつと知らぬ間に歸つて誰一人その荷厄介ものを持つて歸る人が無い。可哀さうなのは色紙で、皆置いてけぼりである。「F君、人間は口には言はなくても案外正直者だよ　僕の畫は向ふから『先生どうぞ一枚』と賴みに來て、皆大事に持つて歸るが、君のは置いてけぼりだ。向ふから頼むやうにならなきあ一人前では無いよ。默つてゐても大事に持つて行くからね」と冷かしたものである。斯ういふ場合には、素人の目は案外馬鹿にならない。大衆は全體として自然に一つの物指を持つ。

或る音樂家が始めて個人演奏會を開いた所が第一部の終るのを待ち兼ねたかのやうに、聽衆席はすつかり空になつて終つた。かういふ場合大衆の持つ無言の物指は相當の正確さと深刻さとを持つ。

今より十五年餘前、私が日本樂器會社の經營を引受けるやうになつた最初の頃である。社に居るピアノの調律師が皆一癖の藝術家氣取りで、「調律の技術などといふものは素人に判るものか」といふ高ぶつた態度であつて、自然勤務振りなども面白くなかつた。中には一日働きに出かけて平均一臺の調律さへも出來ないで怪しみもしない者さへあつた。そこで私は調律師の技倆を測る物指を工夫して見ようと考へたのである。

私の考へた調律師の試驗法といふのはかうであつた。先づ幾臺かの同號のピアノを調子をわざわざ狂はせて置いて之を被試驗者に調律させる。そして立會試驗人を附けて次のやうな試驗をする。

一、一臺を調律するに要する時間を測る。

二、調律した即座に於ける音階の正確さを見る。

三、二晝夜放置後に於けるそのピアノの音階の狂ひの有無を檢する。

以上の三項を各人に就て比較すると調律師の技倆が明瞭に判る。もつと詳しく言へば、この外に音色調整とか線の取換へ等の事までも調律師の仕事に入るのであるが、之は調律といふよりも修理の仕事に屬するから、大體上の三條件だけを試驗することにした。

調律といふものの意義を全く知らない素人は、調律師が家庭に來てピアノを一日中いじり廻してゐるのを見て、今日來た調律師は非常に丁寧な仕事をして呉れたと喜ぶ人も無いでは無いが、之は大變な見當違ひである。技倆未熟な調律師は幾度もチューニング・ピンを締めたり弛めたりして時間を費し、却つてピン板の摩擦力を減らしピアノを惡くする。

だから、本當は最も短時間に手際よく仕上げて、而も音階が正確に出來れば耳も腕もよい證據となり、且つ之が二晝夜も置いて狂ひが出て來ないといふならば、本當の調律が出來た證據で技倆は申分無いといふ事になるのである。多數の調律師にこの試驗を課して見ると、個人々々の技倆といふものが、丁度學校の試驗成績表を見る如く一目瞭然となる。

隨つて、この物指によつて、調律師の我儘をすつかり封ずることが出來たのである。

我國には以前から舶來崇拜者が大分あつたから昭和の初年頃まで特にピアノなどは舶來品がよいと言ふ考へを持つた人が大分あつた。當時演奏に來た著名な西洋人のピアニストが却つて和製のピアノをステージで使用する事が屢々あつたが、反對に日本の音樂家が舶來品でないと演奏に使用しないと言ふ風潮があつた。

日本の洋樂器製造を擔當する責任者として、何とかこの弊風を改め、舶來品を驅逐してピアノの完全な國產化を期したいものと種々私は苦心したものである。當時、音樂の先生の和製品に對する非難は、音色がよく無いといふことと、最初の間は音色は善くても、長期の使用中に調子が持たなくなるだらうといふ二點にあつた。

或る時私は東京音樂學校に備へ着けてある和製ピアノは三年間で音が惡くなつたが舶來のピアノは十年間も使用して狂ひが來なかつたと言ふ話を聽いて、早速音樂學校に出かけて現物を見せて貰つた。そして實地に使用狀況を調べて見ると、驚いたことには、私の社の製品は學生が稽古の爲に朝から晩まで毎日八時間宛引切りなしに使つて居るのに、舶來のピアノは教授用といふので先生の室に大事に秘藏してあつて、一週間に三時間位しか使用してゐない。だから正味の使用時間を比較すると前者は後者の十六倍にも達する。和製と舶來との壽命がどうの斯うのと言つても使用條件を無視しては比較にならないことを發見した。ピアノの消耗の點から考へれば、前者の十年は後者の百六十年にも相當するのである。かう云ふ不正確な根據に基いて、品物の壽命を論ぜられては堪つたものでは無い。

そこで私は考へた。ピアノの壽命はキーを打つた正味の回數と同時に、キーを打つ强さとに拘るものであるから、同じ强さで何回打つたかといふ回數に依つて之を判斷すべきであるといふ結論に達した。依つて直ちにピアノの壽命試驗機なるものを作らせた。之は同一の强さで弦を叩かせる二種の機械から成る。一方の試驗は百萬回まで測れるメーターの着いたもので、主として打弦機構卽ちアクションの壽命を見るものであり、弦を打つハンマーのフエルトの磨滅度やアクションの破損等を觀察するに役立つた。他の試驗機は弦をピン板の上に張つて置いて機械力によつてハンマーを叩きつゞけ何十萬回まで音の調子が狂はないかを測るのである。この二種の試驗機に依る多數の試驗の結果は、和製品が調子保に於ても、磨滅に對しても、壽命が毫も舶來品に劣るので無いことを證明したのであつた。之に依つて從來のピアノの壽命に對する舶來崇拜の謬想を訂正することが出來たのである。

さて次には音色の問題である。之こそ耳の感覺の問題で、つて、この點だけは藝術家が自家の領域として素人の嘴を容るゝを許さない領域であつた。

そこで私は小幡重一博士に相談して音色を分析する音響記錄裝置を研究室に設備し、音の振動を寫眞に撮つて倍音の研究をさせて見た。だが當時これは未だ充分に所期の目的を達するまで

には到らなかつた。

偶々社內の調律師の中に極端な舶來崇拜者があつて、「舶來品は音色が非常によい」と平氣で口外して居るのを聞いて、私は甚だ苦々しく感じたので、彼の耳が果して、音色に對して正しい判斷をなして居るか、否かを試驗してやらうと私は考へた。

一體凡ての打樂器はハンマーで發音體を打つ。このハンマーの堅さに依つて、同じ發音體でありながら、音色が非常に異ることは周知の事實である。堅い金屬で打てば堅い音が出で、軟かい木で打てば音は軟かくなり、ゴムの如き柔軟なもので打てば、極めて柔かな丸味のある音が出る。ピアノの場合に於てはハンマーは木芯をフエルトで覆うたものであるが、この場合フエルトの堅さと厚さとが音色に絶大の影響を與へるのであつて、現に何れのピアノに於ても、高音部は厚さ一、二分に過ぎぬ薄い堅いフエルトを覆ひ、最低音部の如きは八分以上にも達する厚いフエルトを覆うてある。それは高音部は金屬音を要し、低音部は柔かい丸い音を要するからである。

私の考へた方法は、同型同大同構造のピアノに四種類の硬さの異つたフエルトを用ひたハンマーを裝置し、之を各種類二臺づつ、卽ち全部で八臺を用意し、之に暗號を附けて、交ぜ合せ

て置いた。而して調律師個々にこの八臺から二臺づつ全く同一な四種のピアノを選別せしめたのである。四種の異つた音色のものを耳で聞き別けることは仲々容易な業では無い。私は四十名ほどの調律師に全部この試驗を課して見た。

然るに其の結果はこの四十人の中で全部を正解し得た人は一人もなかつた。最も甚だしい者は四組全部を誤つて居つた。而も其の本人こそ皮肉にも先に和製のピアノは音が悪いと放言した調律師その人であつた。私は之に依つて、自ら通人振つて居る半可通の正體を見破ることが出來て些か痛快味をさへ感じたのである。恐らくは人間各個の心中を見破る破魔鏡といふものがあつたならば、腹と口とが正反對な者があつたり、又は世評と內實とが伴はないやうなものが多いのに驚かさるゝのでは無いかと思ふと、をかしくなる。自分に眞に賴む所のある人は、世間のいい加減の批評なるものは或る場合には決して氣にする必要の無いことを悟り得るであらう。

上述のやうな幾多の苦心が漸く酬いられて、ピアノは事變前數年に於て、既に殆ど完全に細來を驅逐することが出來たのは私として洵に嬉しいことである。

之と同じ樣な實話をも一つ加へて、この話の終りとしよう。或る時尺八の價格が問題となつたことがある。竹で作つたあの簡單な構造の尺八に格差がぴんから切りまであつて、最低一本數圓であるのに、最上は五百圓までも格付けのあるのは不可解だとあつて、或る筋で市場を調べて見た所が、市中の商品には二百五十圓以上のものは無かつた。そこで一體尺八の値段は何を標準として定めるのかといふ事になつたが、商賣人の言ひ分は「上等品は音色が全然違ひますと」言ふのにあつた。

然らばといふので多數の最上から最下までの尺八を交ぜ合せて、之を尺八の專門家に順次吹き別けさせて見たが、丁度調律師の耳の試驗の場合と同樣に結果は殆ど大部分が滅茶々々であつたといふのである。世の專門家と自稱する一部の職業人が、時々思ひも寄らぬ一寸した物指の裁斷で恥かしいやうな弱點を曝らすことが往々ある。お互にもつと深い不斷の精進が必要だと思ふ。

人生の循環小數

人は始めて一つの仕事に取りかゝる場合に、大なり小なり、誰でも考へ、計畫し、檢討をする。だから初期の慣れない間は、仕事をするのは或る意味に於て、事毎に努力であり、工夫であり、創造であり、向上であるが、次第に慣れるに從つて、遂に機械的となり、慣習的となり、無努力となり、無工夫となり、甚だしい場合は退歩惰眠でさへもある樣になつて來る。之を心の怠りといふ。洵に恐ろしいことである。

斯うして多くの人達は、向上はほんの最初の短期間のみであつて、その後は平凡な道を無意味に歩いて、やがて老衰退歩するといふのが普通の行き方である。多くの先輩から、「中年までにみつちり基礎を築き上げて置けば、それから後は惰性でやつて行けるものだ」と自分等も教へられたことがある。然し今となつて考へて見ると、之は本當に穿つた言葉ではあるが、同

時に惡魔の聲でもあつたと思ひ當る。惰性と言ふ言葉ほど向上せむとする心に對して恐るべき敵は無いからである。

然るにこゝに、神樣は墮ち行く人間を醒ますべく、反省再檢討の機會を時々に與へる。例へば學生時代に於ては、國民學校、中學校を出ると專門學校や高等學校への入學試驗、之を出ると又大學への入學試驗がある。そして大學を出れば更に就職といふ樣に、次から次へと安易を許さない反省の機會を人生の中に澤山織り込んで居る。

だが世の中に出てしまふと、今度は左樣に誂へ向きには外から鞭撻して呉れる者がなくなる。神樣は赤坊の間は手を取つて導いて下さるが、獨り歩きが出來るやうになると手を放してしまふ。學生の時とは異つて、側から注意し指導して呉れた先生が居なくなる。親も何時かは亡くなる。而して學校のやうに週期的に廻つて來る試驗といふ刺激が無くなる。この時代こそ恐るべき危險期なのである。この點に氣付かぬ人は、遂に安易と平凡に老い朽ちて行く。

斯ういふ場合に、人間を復活せしむる唯一の道は、日常行爲を自ら反省し、再檢討することである。一體自分はこの樣に安易に仕事をしてゐてよいものであらうか、自分の勉强努力が不足してゐないであらうか、同じ事のみ繰り返してゐて果して進歩があるであらうか、「得難い

「一生」を暮すのに之でよいであらうか、等々。

考へて見ると之ではいけない。吾々の一生は死ぬまで成長を續けねばならない。安易を捨て、沈滯を捨て、險阻と熱意とに進まねばならない。そして世の中と人との爲に何かの奉仕と貢獻とをせねばならない。斯う云ふ自己反省から、再び新しい努力、新しい希望、新しい工夫、新しい創造が生れて來て、こゝに始めて人間の再飛躍が實現する。「沈滯を氣付いたならば飛躍せよ」、之が私のモットーである。人生の行路に於て飛躍の高さが大きく、回數の多い人ほど大きな仕事をする。

要するに一生は努力、惰性、反省、飛躍の循環小數である。その循環の續く限り人の智能は成長する。

昨日の新聞に德富蘇峰翁八十歳の賀筵の記事があつた。先生が近世日本國民史を執筆し始めたのが五十六歳の年である。爾來今日までに七十二卷三萬六千餘頁の本を書き續けられた。この間と雖社會各方面の活動を續け、絶えず世の中を指導せられて來た事を思ふと、翁の超人的努力に頭が下がる。

翁は「六十一歳の時、近世日本史の執筆を完成するには、今後二十年を要するから、神祭に

二十年間の壽命を御願ひしたが、今日その二十年を終つて、未だ仕事が殘つてゐる。それ故今度は期限を切らずに、この仕事の完成するまで、神樣に健康を御願ひしよう」と自ら言つて居られる。この意氣でこそ、八十歳になつても少しも老耄もせずに生き伸びることが出來、超人的な大事業が出來たのである。

帝國海軍の猛訓練には一週の中に土曜日曜が無く、月月火水木金金であるといふ。人生の循環小數の中から惰性といふ項目を除き去つて、努力、反省、飛躍、とすることも考へられない事では無い。蘇峰翁の如きはその人であらう。

（十七・三・十七）

上品な金

この頃こんな事を云ふとインテリの女人から叱られるかも知れないが、昔から「女は魔物だ」と云つた。が「金も女以上に魔物である」やうな氣がする。それは時としては非常に魅惑的であり、時としては洵に汚らはしく、時としては非常に貴くもある。同じ金であり乍ら持つ人に依り、獲得する方法に依り、又使ひ方に依つて値打も違ひ、品位も違つて來る。

夏目漱石が一高の英語の先生をやつてゐた頃、吾々學生は英語を教はるよりも、先生のとぼけたやうなウイットに富んだ話を聽くのを樂しみにして、中には「先生今日は英語はその位にして、後はお話をして下さい」といふ樣な不心得者さへあつた。或る時先生が「外國のある文學者が『金なんて云ふものは儲ける人に依つて、値打を違へるべきものである』と云つたが、例へば立派な文學者が得る百圓と、成金などが儲けた百圓とは、同じ百圓でも非常に値打が違

ふから、使ふ時に價値を變へたらば宜しからう」といふ樣な話をした。この話は今も猶私の記憶に新しく殘つてゐる。

一體何が金の値打を左樣に相違せしむるのであらうか。朝七時から夜業までして來る女工さん達の給料が、一圓か一圓五十錢にしか滿たない事を考へる時、この人達の一圓否十錢でもが、全く血のにじむやうな貴い金であると惟はせられる。近來の如く自動車賃が高くなつて來て、ハイヤーに一回乘つても五圓も十圓も支拂ふときなどは、何時も私は女工さんの給料の事が頭に浮んで本當に申譯ないといふ氣分で一杯である。文學者や藝術家の得る金も亦同樣に貴いと思ふ。兎に角藝術家として一廉の名を得るまでの努力苦心といふものは一通りでは無い。汗と苦心とは多くの場合金を清くする。

然し同じ骨折つて獲得しても、質のよく無いのがある。泥棒の取る金がそれである。人の寢靜まる頃、場所もあらうに便所の汲取口からもぐり込んで、刑罰の危險を冒しながらするその行爲は、全く汗と苦心の結晶かも知れない。然しその金の汚れは汗と苦心だけでは拭はれないものがある。

統制の時代に入つて、賣惜しみや在庫値上りや、闇取引で暫くの間に巨萬の富を得た人がさ、

らにあると聞いてゐる。去年一年間に於ける東京だけの統制違反の被檢擧者は一萬五千人、取られた罰金が五百萬圓を越えてゐる。これ等の金は汗の洗禮を受けて居らない穢い金である。斯う云つた穢い金は同じ札でも何とか色別して置いて、使ふ時の値打が違ふやうにする方法は無いものであらうか。例へば昔の刑罰で惡人の顏に燒印を捺したと同樣に、そんな汚い人間の手に入つた罰として、紙幣の上に善玉、惡玉の燒印でも押したならば、どんなものであらう。

この正月に京都に行つた序でに川田順君を訪ねた。その時川田君は日本畫家の收入なんかは馬鹿げたものだねと云つた。それはK畫伯の一年の收入が八十萬圓もあつたといふ噂話である。他人の收入を彼れこれ云ふ譯では無いが、同じ畫家でも西洋畫家の惠まれないことを考へると、そこに何かしら道理に合はぬものがある樣な氣がするのである。讀者諸君の公平な判斷を聽きたいものである。

清貧といふ言葉は、丁度秋晴れの空のやうに心地よい響を持つ。之に對して濁富といふ言葉もあり得ると思ふ。今から二十年許り前オーストラリヤを旅行した時に、私と同行してゐた濠洲人のリーと云ふ男が、シドニーか何所かのホテルに居合せた有名な金持を指して「彼奴は智慧よりも金の方を餘計に持つて居る」と評した事があつた。甘い言葉があるものかなと感心した。

中學校の五年生の頃、私は論語に曲肱枕之、樂在其中。不義而富且貴者、於我如浮雲。といふ文句を敎はつて非常に氣に入つた。而して一時自分で「肱枕」といふ號を用ひてゐた事があつた。それからずつと後になつて南畫を習ひ始めて「肱枕」などは子供臭くて、畫家の雅號らしく無いと云つた友人があつたので、それならばと云ふので、下の句の如浮雲の「如雲」を取つて號とした。斯う云つた次第で、金に心を勞する事を私は好まない。況んや濁富なんといふものは蛇蝎の如く嫌ひである。

自分は實業界に居つて、常に正道を堂々と歩いて行き度いと念願して來た。今の會社の整理經營を引受けてから今日で十四年。過日或る席上で、某銀行の頭取が、私の社が好成績であると驚歎して、「川上さんの經營は綺麗に金を儲けるのが上手だ」と曰はれた。この一語を聽いた時こそ、私は今まで誰にも話した事の無い自分の苦心が酬いられたといふ快心の笑みを禁じ得なかつた。中學校の論語の文句、漱石の話以來三十餘年、一貫して「金は上品に」といふのが私のモットーであつたからである。

沈默の勝利

雄辯も確かに一の利器には相違ないが、默殺がそれ以上に效果のある場合がある。上手の人が碁を打つのを見て居ると、對者が妙手を打つて來て、之に應對する適當な手段が見付からない時には、敵の相手とならずに、知らぬ顏をして放つて置く。而して他所を打廻して居る間に、知らずに、味方の石を生かすやうに仕向ける。之は卽ち形の上の默殺であらうか。

之に反して下手の碁打は、敵の手に隨いて行つて、最初から見込みのない碁を最後まで打つて片づけて仕舞ふ。死んで仕舞ふまで打つては、最早起死回生の工夫は無い。而もその間に對者は、堅固な城壁を周圍に築いてしまふ。之では全局の勝負は立所に定つてしまふであらう。何事も後に殘る餘地なるものが、幾らかでも無ければ、直ぐに行き詰つてしまふ。

× ×

嘗て私が當會社の整理に乘り出した時の話である。當時會社は殆ど資本金と同額に近い借金を背負つて、幾期間も無配當をつゞけ、殆ど瀕死の狀態にあつた。私はその鄕國の產業の爲に是非とも整理をして貰ひ度いといふ懇請で、自分の持つて居た地位を捨てゝまで、之を引請ける決心をしたのであつた。就任の時に、貧乏會社の事であるから、私の報酬は前任の時の報酬を下らないと云ふ事と、將來この社の整理の爲、三年乃至五年間は無配當であつても異存は無いと云ふ證文を重役一同から取つて置いた程であつた。

然るに私が入社すると間もなく、重役の一人たりし△△君は意地惡くも　貴君は、社長として、この會社の配當が出來るまでの間は、重役賞與は辭退したらば如何だ。大體貴君の家計は何程かゝるか知らないが、その位の事は出來さうなものでは無いか」とか「會社は不成績で今につぶれて仕舞ふだらう。社長の整理案があるならば、詳しく說明して貰ひ度い」とか云ふ、非禮極まる暴言を、度々手紙で私に言つて來た。

私は「何のたわけ言を云ふか、自分達が無理に私を迎へて、貧乏會社を整理させて置き乍ら、而も私の就任の時に契約書に太鼓判を捺して保證して置きながら、忽ちに掌を返すが如くに私に只で働けと言へた義理であらうか。勿論私は、自分が經營を誤つて、會社にこの窮狀を來し

たものであつたならば、責任上喜んで報酬も辭退しよう。然し△△君達が自分で經營を誤つて置き乍ら、何といふ破廉恥な云ひ分であらう」と、心の中でこの男の愚鈍を笑ひ乍ら、無論辯解も爲さなければ、返事もせずに全部之を默殺してしまつた。

それは、私が堂々と整理案を辯じ立てゝ見た所で、若し實行が伴はなければ、恥を曝らすに過ぎない。「よし一言の辯解をせずとも、立派に整理改善の實を目の前に示してやらう」と固く決心したからであつた。

整理は思つたよりも迅速に出來て、一年後には既に配當が出來るやうになつた。斯くて歳は二年か三年流れて逝つた。無論△△君は任期の滿了を機として重役を止めて貰つた。會社の成績は益々好くなつて、內容は見違へる程に變つて來た。かうなつて來ると、流石の△△君も良心が咎めて來たに相違無い。或る時彼は、自分が書いた古い手紙のコッピーを讀み返したものと見えて、私に次のやうな意味の手紙を寄せた。「以前貴兄に非常に失禮な手紙を差上げた事があるが、洵に申譯無かつた。近々の中に右の件に就て、御了解を得る爲に推參するから」と。

私はあの頑迷で、人を人とも思はぬ△△君が、わざ〳〵遠路を辯明に來るのを考へると、流石に氣の毒に堪へなかつた。彼は私に送つた古い手紙を返して貰ひ度いとさへ、人を通じて賴

んで歸つて行つたのである。

人間は、良心を持つ限りは、決して空威張りすべきもので無い。威張つた方が最後は敗けである。言ひ足りなかつた言葉は後から補足することが出來る。溫和すぎた言葉は、後から强くする事が出來る。然し多すぎた言葉は、之を省く事が出來ず、强すぎた言葉は、之を打消す事が出來ない。

×　　×

今から十年許り前のことである。私の鄕里に輕便鐵道があるが、或る時私は午前九時發の輕便に乘らうとして、五分前に停車場に駈けつけた。この時汽車は既に、半町ほど先を走つて行つて居るのが見えた。規定の時間より後れる方は止むを得ないとしても、時間前に發車するとは、隨分亂暴な話である。如何に田舍とは云へ、之は現代未聞である。然し怒つて見た所で、最早及びがつく譯では無い。

町に戻つて人力車を雇ひ、輕便の後から悠々と出かけて行つた。私は道々車夫に輕便の經緯を話し聞かせた。車夫は「輕便が時間前に發車するなんかは、實に不都合な話です。貴下は驛員に怒つてやりましたか」と云ふ。「いゝや私は怒らなかつた」「そん時に怒らねば損ぢやあ

りませんか」「なあに、僕が怒つたとて、汽車は引戻して來る氣遣ひは無いから、怒らなかつたまでのことさ」

と、俥夫は「貴下は偉い。この邊の衆は、皆さう云ふ時には、大に怒つて、威張り散らす。さうせねば損だと思つて居ます」「汽車が戻つて呉れるならば、僕だつて大に怒つてやるよ。けれども怒つても無益な時には、怒るだけ損だから怒らないだけでちつとも僕は偉くは無いよ」と答へた事である。この俥夫は沈默が多辯に勝る事を、今まで知らなかつたのである。

× ×

これは一ヶ月許り前の出來事である。私の會社の私立青年學校生徒の教練査閲があつた。先づ開會の劈頭に、校長をして居る私が、運動場の眞中に作つた高い壇上に昇つて、型の如く一同の敬禮を受けた。七百人ばかりの生徒は、ずらりと運動場の三方に横隊を作つて、氣を付けの姿勢で立つて居る。聯隊區司令部から來た査閲官も、其の他の來賓も多數、生徒の正面に立並んで居る。水を打つた如き威儀整然たる靜けさの中に、教練の指揮者は、大きな聲で「勅語捧讀」と呼び上げた。私は壇上にあつて、主事が　勅語を捧持して來るのを待つて居た。三分經ても五分經ても、やつて來ない。

壇上に立つた私は氣が氣で無い。六分、七分、八分。　勅語は未だ來ない。運動場の生徒は無論のこと、査閲官も來賓も、しはぶき一つする人が無い。私はわき目も振らず、身動き一つせず、嚴肅に壇上に立ち盡した。心の中で思ふのに、私が今若し一寸でも動いたり、又は傍目をして指揮者に聞いたり、若しくは「元へ」の呼令を掛けさせたり爲ようものならば、この嚴肅の場面は全部崩れて、今日の査閲は滅茶々々になるであらう。而して査閲官は成績不良の判定を下すに定つて居る。よし、十分、二十分、三十分ででも待つて、またゝき一つもすまい、と腹を据ゑた。私はこの時勝海舟や、西鄕隆盛を心に思ひ浮べた。此所は私の腹一つである。若し私の態度に一寸も隙が無ければ、二十分でも三十分でもこの全體の緊張を持ち續け得るに相違ない。

果然十分ばかり經て、主事は漸く　勅語を捧持して來た。而して何事も無かつたかの如くに、私は靜かに　勅語を奉讀した。誰もが恐らくは、私の腹の中を知らなかつたであらう。而して誰もが、何事か行違ひがあつた事をも知らなかつたであらう。然し私はこの無言の十分間に、自分でも澤山の修養をした。私共は沈默の中に時として、語る以上のものを學ぶ事がある。

×

口を開けば卽ち金言を吐く人は極めて稀である。然らばとて、外國の諺の如く、沈默は常に金なりとも云ひ難い。要は沈默が金に値する場合は、口より出づべき金が、腹底に秘められて居る場合に限ると惟ふ。

思策

昨年早稲田大學高等工學校卒業式に當つて、私は一場の講演を頼まれた。山本忠興博士が總長代理として卒業生に、「諸君は卒業後も毎日少くとも一時間づゝは讀書をするやうに」と訓示を與へられた。私は次に立つて「諸君は一時間の讀書に加ふるに、毎日十分間づゝ考へて貰ひ度い」と話したのであつた。それは讀書を不要とする意味では無く、讀書に加ふるに、思策することに依つて、自己の知識と經驗を整理し、結合し、新しい構想を作る機緣を作れと云ふ意味であつた。

幾萬人の著者が年々幾十萬卷の書物を書くか別らない。それを片端から讀破することの不可能は言ふまでも無いし、又讀んで見た所で、自分の知識のインデキスが豐富になつたといふだけでは、書棚の上に新刊書の冊數が增したのを見て喜ぶの類である。

一體人間に、考へずに出來る何物があるだらうか。それは平凡卽ち惰性的マンネリズム以外の何物でも無い。凡ゆる着想、構想、思想、凡ての制作、獨創は思考から生れる。

獨想無き人生は生くる價値をさへ疑ふ。何かの出來事や困難な問題に逢着した時に、頬冠りをしたり、廻避したり、逃げ出す代りに、自分は敢然と之と取組んで考へる。それが自分の仕事に關する問題であらうと、自分の專門外の事であらうと、社會、國家の事であらうと、政治、經濟のことであらうと、問ふ所では無い。心を凝らしてじつと思考する時、曉の光の如く解決の道が必ずほのぼのとして開けて來るものである。

私の處に中途轉業の人が就職の依頼に能くやつて來る。さういふ場合私は眞先に、何時もその人の過去の經歷中、語るに足る仕事を爲したか否かといふ點を尋ねる。例へばその人が技術者であるとすれば、工場管理なり、技術の改良なりに何等かの貢献や、新機軸を出したか否か等を。然るに十人が十人と言ひ度いほど、その人達は何一つ爲して居らないことが多いのである。十年無爲に過ごす人は、次の十年も、更にその次の十年も無爲に過ごすものと思はねばならない。

斯うして人が考へるといふ事が無ければ人生に何一つの置土産をも殘さずに消えて行くのであるまいか。

（十七、十二、卅）

徹底

この夏は隨分暑かつた。初めの程は年齢の所爲かとも思つてゐたが、さうでも無かつた。だが夏の朝の日出前の涼しさは、何とも言へぬ爽快味がある。

私はこの早曉の涼味を滿喫すべく、毎朝五時前に起きて、芝生の小丘をしつらへた庭で、芝の間に交つた雜草を拔くのを樂しみとする。「今朝もトラックに三臺拔いたよ」と、寢坊の家內が起きて來た時に話す。トラックとは幅一尺長さ一尺五寸許りの薄つぺらな小さい籠の誇稱である。

さて芝生の間の細い砂礫道を上る所に、飛石の段々がある。不用意に歩いて行く時には、折々右足と左足とを間違へて踏む爲に、千鳥型に並べた飛石が、とても歩き惡いことがある。然し足を踏み替へて石並と合せた時は、しつくりと氣合ひがあつて、本當に落ち着くべき所に落

ち着いたといふ心地がする。人間の鋭敏な感覺は、眞に求むるものに行き當つた時、始めて滿足する。

吾々が凡ての事物に逢着する時に、何とは無しに、しつくりと身に添はない心地のする時は、それは必ず何かまだ本道に出で切らない所がある證據だと私は信ずる。最善の方法は、それが政治であらうと經濟であらうと或は日常の些事であらうと、必ず釋然として、しつくりと、誰もの心に、身に、合ふものである。——勿論この場合私心は一切論外である。——そして最善の方法を見付ける工夫は、事物を徹底的に解決するの外には無いのである。

倶樂部などで碁を打つ時に、よく經驗することであるが、大抵の碁盤は盤の反りの爲に、脚の坐りが惡い。がたつきを防ぐ爲に、多くの人は紙片やマッチの軸等を、最も短い脚の下に支つて、その場を凌ぐ。然しこの方法が姑息であることは、何遍使つても、盤を使ふ度毎にその支物を作らねばならないのでも明かである。之に反して若し倶樂部にあるだけの全部の碁盤を、足の長過ぎるものを一鉋づゝ削つて置けば、がたつきは、全部一度で永久的に解決せられるのである。近來東京からの急行列車が非常に混雜するので、ものゝ三、四十分も前から、プラットフォームに一列駢行をしても、最初から坐席を得られない事が往々にある。だから私は

此の頃は東京から歸る時には、午後三時の特急富士號に乘ることゝした。坐席の豫約が出來るからである。

然るにこの特急券が中々手に入らない。過日も、前日に東京驛へ急行券を求めに使を遣つたが、最早二等は賣り切れであつたから、三等の方を買つて來たとの話であつた。

當日私は乘車すると直ぐに、試みに二等車に行つて見ると、寢臺車には空席が三十も四十も殘つて居た。富士號の二等車は寢臺車二輛と普通車一輛とが連結せられてある。寢臺車のベッドは午後八時から作られるから、午後六時五十三分濱松着までは、この寢臺車は普通坐席として使用し得るのである。

そこで專務車掌に交渉して見ると、「二等に乘り替へても宜しいがその代り三等特急券は無效になります」といふ。「でもこんなに空席があるのに、驛では滿員だと言つて、三等券しか賣らなかつたのだから不都合だ」と言つて見たが、致方無かつた。

その次に上京した時は、私は以上の經緯を詳細に話して、濱松までの寢臺車輛指定の特急券を求めに使をやつた。然るに今回も亦二等車は滿員であるとて代りに三等券を求めて來た。

當日發車十分前に、私は自ら出札口の前に立つた。そして上述の特急券を要求した。出札係

は果して滿員を主張した。私は前回も滿員だと言はれて三等券を買つて乘車して見たが、寢臺車には三十も四十も空席があつたことを話した。すると、寢臺車輛の坐席は寢臺券を持たぬ人には賣り得ぬと主張した。「君では判らぬから、係主任に相談せよ」と言ふと、出札係は立つて主任の男を連れて來た。彼は直ちに濱松までの特急券を賣つて呉れた。

私は以上の詰らない小さな二つの實例を述べた。さて私はこゝで徹底の話に立戻る。通り一遍の仕事をして居る使者は、何度足を運んでも、「二等車は滿員です」と言つて歸つて來る。そしてそれ以上には一歩も出ないのである。次の回には入念に入智慧までしてやつたが、未だ手を空にして歸つて來る。

私は自分で特急券を求めようとした時、若し出札係が分らなければ主任に逢ひ、主任で要領を得なければ驛長に面談しよう。驛長で判らぬ場合は大臣にも話して見よう。當然餘つて居る坐席が求められぬ理由はあり得ないと確信したのであつた。

結局この問題の間違ひの原因は、出札嬢が寢臺車輛に對し、晝間の特急券を發行し得るといふ規則を知らなかつた過誤にあつたので、この過誤を根本的に改めない限りは、何百人の人が何百回試みても、凡ては徒勞であつたのである。この過誤は過去の幾年月續けられて來たか私

は知らない。然し私の場合で將來永久に解決せられてしまつた。丁度私が特急券を買つた直後に來た人も、濱松への特急券を求めて居たが、今度は何の文句も無しに直ぐに買ふことが出來たのを見て、私は善い事をしたと思つた。

見渡す所今日の我國に、根本的解決を要する難問題は澤山にある。生產擴充の問題にしても、物價問題にしても、國民能率の問題にしても、國民保健の問題にしても、教育にしても、何もかも未だ本當にしつくりと身に合ひ兼ねるやうな心地のするのは、唯私のみの感じでは無いであらう。

それ等は勿論庭の飛石を踏み違へてゐたのを踏み替へて、直ぐにしつくりとするほど簡單には行かない。凡ての問題は遙かに〳〵複雜多岐である。それであるが故にこそ、吾々國民は一切の問題に、もつと徹底した見解を持ち、徹底的に解決して行く必要がある。通り一遍の努力では凡ての問題を未解決、不手際のまゝに殘すの外は無いであらう。

（十七、一〇、一〇）

一事一則

凡ての現象は因果の法則に支配せられる。それが世間の出來事であらうと、將又自然界の現象であらうとも、事の起る原因があればこそ結果が發生する。隨つて如何なる場合にも、結果を觀察し、研究し、推理して行けば、必ず原因たる法則を突き止め得る筈である。

原因は一つの結果に對して、唯一つである事もあるが、又數箇又は數十百である場合もある。反對に一つの原因は、時として一箇の結果を來すこともあるが、同時に數箇又は數十百の結果を派生する事もある。一原因一結果の場合に於ては、結果を見て直ちに原因を突き止める事が容易であるが、然らざる場合は、高次の方程式を解く程の六ケ敷さとなる。多くの人が社會現象に對して、殆ど無關心なるかの如くに、投げ出してしまつて居るのは此が爲である。何となれば、大抵の社會現象は幾多の原因が交錯複雜して居るのが常であるからである。

私は常に社會の出來事から、高次方程式を解かうと努力する。一つの現象なり出來事から、少くとも最主要なる一法則を見つけ出さうと心掛ける。之を私は「一事一則」と呼ぶ。私の信念は、「同じ幾つかの原因が、同じ條件の下に作用する時は、原因の數の多少に拘らず、結果は常に同一である」と云ふ眞理に基いて居る。

この頃、某ボールベアリング工場を見學した。工場で鋼の球の彈性の均一度を檢査するのに一間位の高さから、球を毎秒一箇づゝ位の速さを以て、床上の鋼鈑上に自動的に落下させて、之を跳ね上らせて居る。直徑二分にも充たぬ小さな鋼球が、落つるや否や目にも見えぬ速さで六尺位も飛び上る。而して側にある、一寸位づつの高さの差を付けた受箱の中に飛び込んで行く。その受箱の床面上の高さに依つて、ボールの彈性の誤差を選り別けようとするのである。私は二分間許り立つて見て居つた。百餘の球が一箇の例外も無く、ぴよんぴよんと飛んで、後から後から、全部同じ箱の中に入つて行く樣は、曲藝師の球投げを見るよりも、遙かに〳〵巧妙で面白かつた。

私は、自分が平素主張する同一の原因は、必ず同一の結果を成すといふ眞理の適例を、目の前に見て實に愉快に堪へなかつた。

不精確な目は原因を見逃がす。不精確な目は物を偶然といふ事で、簡單に片づけて、原因を追及しようとしない。色々の研究をして居る間に、或は世の中を渡つて行く間にまぐれ當りで善い結果が出來たといふ事は、精確な機敏な目には、既に問題の解決である。

何となれば彼の目は闇夜の電光の物を照らし出す如く、瞬間にまぐれを捕獲する。まぐれとは各種の善い條件が出揃つた時の結果であるから、まぐれの場合の凡ての條件を探究すれば、それは既にまぐれの征服となる。

政治の貧困も、經濟の貧困も、思想、技術の貧困も、皆法則に對する探求心の缺乏から來る。若し吾々が一事一則の見地に立つ時、身邊萬事、森羅萬象悉く科學となる。人生を科學する境地は之から始まると私は惟ふ。

内閣の壽命と吏道

近衛内閣は三度目の辭職をした。この前の總辭職の時も國民は呆氣に取られたが、今度も亦少くとも國民の多數は面喰つたに相違ない。第三次近衛内閣の壽命は僅かに三ケ月に過ぎなかつたのだから。

近衛内閣更迭が、何時の場合も理由が不透明である。而して突然と來て國民を驚かす。勿論時局柄であるから、表に明らさまに言へない事情もあるのであらう。參考の爲に、私は我國歴代内閣の壽命を調べて見た。明治十八年十月に第一次伊藤内閣が成立して以來前内閣まで四十七代の中で、臨時總理七人を除いた四十代の總理中で、一年未滿の在任が十六代、二年未滿も同じく十六代。二年以上は四代、三年以上も同じく四代に過ぎない。實に過去五十六年を通じて内閣の平均壽命は僅かに一年五ケ月に過ぎないのである。

殊に驚く可き事に、滿洲事變以來の非常時十年間に、内閣が更迭した事は十三回、その平均壽命は僅かに九ケ月であると云ふ事實である。一體非常時代には國民が小異を捨て大同に就き、擧國一致の態勢を取るといふのが萬人の常識でもあり、國家の爲でもあらねばならない。指導者に相當の期間を貸すので無ければ、一貫した國策の遂行は困難であり、況んや非常時の難局を處理するには猶更困難な事は云ふまでも無い。

外國の例でも、ムッソリーニ、スターリン、支那の蔣介石すらも二十年、ヒットラー、ルーズヴェルトが共に九年目である。英國でさへ歴代の内閣は概して數年の壽命を保つ。之を我國の九ケ月内閣と比較したならば蓋し思ひ半ばに過ぐるものがあらう。

嘗て吾々は、「フランスはあの樣に政變が頻々として起つては國の興隆する道理が無い」と他國の事となると嘲笑の眼を以て眺めたものである。今吾々は恐らくはその嘲笑を諸外國から受けて居るのでは無からうか。自ら大に反省して見る必要がある。

内閣短命の副作用として、當然起るのは吏道頽廢の問題である。大臣は何時も、漸く椅子が溫まつたと思ふ頃には、忽ちその位地を去つて、又新しい大臣が來る。中間の官吏は「どうせ大臣などは、上に立つて居ても一年か半年の壽命だから、自分達の手で」といふ氣持に自然に

なる。大臣の影が薄くなり、威令が行はれなくなるのは當然である。現に某高官であつた人が私に述懷して、「この頃は上の者が指導するので無くて、下から持つて來た案に無理に同意させられるのだ」といふやうな話をした事がある。

かう云つた官吏も、實は一年半か二年で、どし〳〵轉任する。その結果は爲す仕事が自然無責任になり易い。少し位未熟の案でも、或は間違つて居つても構はない。「形だけでも少しく變つた仕事をすれば、出世の近道である」位に思つて居る者も無きにしも非ずである。

之に反して何時までも移動しないのは、最下部の屬僚だけである。だから屬僚は氣の毒だが見解が狹い。而して頭が古いから、種々の新しい法令が出てもその解釋は自然長年の習慣に依つて堺はれた形式主義、官僚主義に墮し易い。それ故に往々却つて立法の主旨に反した樣な獨善主義、形骸主義に走る。助長指導と云ふよりは、寧ろ抑壓とか取締とかゞ支配するやうになり勝ちである。而も實務に當るのは多くこの人達である。官廳の事務が停滯し能率が上らないと云ふ非難の原因は、多くは斯う云ふ所に胚胎してゐると思はれる。斯ういふ見方から云へば、吏道刷新の根本は、內閣の壽命の延長にありとも言へる。

今や徒らに口頭に國家の危機を唱ふる時代は疾に過ぎ去つた。吾々の爲すべき事は、唯國民

全部が體當りを以て國家の危機を打開して、眞の黎明を創り出すのみだ。この秋に當つて採るべき道は、結局は先見と信念と實行力とを有する指導者を內閣の首班に戴き、上部より下部に至るまで、終始一貫した大統率の下に、國民が總掛りで協力するの外は無い。

「フランス敗れたり」を讀んで吾々は慄然とした。吾々は如何なる事があつても、フランスの轍は踏んではならない。國際狀勢の危機は一日の偸安を許さない。今日吾々は自分達の指導者を疑ふよりも、先づ之を信賴し之に協力聲援して、彼をして思ふ存分の仕事を爲さしめねばならない。その時に應じて、適任者として推薦せられたる總理である以上、半年や一年にして直ちにその任に非ずとして、敝履の如く顧みない理由は無い筈である。國民は大きく信賴し、強く協力すべきで、之こそ大國民の襟度であり、又義務でもある。「誰を出しても信賴出來ぬ」と云ふ時代になれば、國の前途はそれで終りであると私は思ふ。

偶々東條首相は就任第一聲に於て、國民の信賴と協力とを求めて居るのは、大いに吾々の同感を禁じ得ない。

老後の暮し方

或る時私は上京の汽車中で友人のN代議士と一緒になつた。

「時にS君の病氣は近頃どうだね」「相變らずさ。未だ引込んだまゝで、外に出歩くまでにはなつて居ない」S君は二年許り前に輕い腦溢血をやつて靜養してゐるのである。多數の會社の重役をしてゐるが、無論その方も全然出席は出來ないでゐる。本年七十八歳であるから、先づ全快も六ヶ敷からうし、又大金持の事であるから無論疾くに勇退して然るべき人なのである。

「よい加減に引退する樣に君から忠告したらば如何だね」「いや、それ所ではない。自分が居らねばといふ感じを持つて居るし、又お互に地位を去るといふ事は中々思ひ切れるものぢや無いからね」とN君は答へる。N君も戀々組の仲間なのである。私は呆れてしまつた。

一體人間は、七十歳までも長命するといふ事は、それだけでも大なる感謝で無ければならな

い。況んや高い地位を占め、名譽と財とを兼ね獲る如きことは餘程の幸運で、勿論自分の力もあらうが、部下や社會のお蔭に負ふ所が多いのである。四十歳五十歳で死ぬ人も多く、多くの會社員達は五十五歳が停年である事を考へたならば、當然後進に道を讓るべきで、引退後の餘生は謝恩の意味からも、百パーセント世の中へのサービスに費すべきであると言ふのが私の持論である。

近年は各方面に停年制が出來て、重役でも六十歳で勇退する者が多くなつたが、昔はよく「急に仕事を離れると健康を害するから」と云ふ樣な、全然自己本位の考へから、天下の公器を私する老人が多かつた。私は若い頃、無能の先輩が、よく斯う云ふ自分勝手の口實を作つて、後進の道を塞いでゐるのを見て齒がゆく思つたものだ。「一體人は老後を如何に暮すのが正しいのだらうか?」よくこんな事を考へた。そして得た結論は老後は、謝恩の心持を以て、後進の邪魔にならず、世の爲になり、又人から喜ばれ、感謝せられるやうな種類の仕事を爲す可しといふ事であつた。例へば、

一、公共又は社會事業に盡す。

二、學生其の他後進の指導、養成、世話をする。

三、有用な學會や團體等を作つて、世に盡す。
四、有益な著述等を爲す。

等は餘生を送るに最も意義ある仕事だと思ふ。天下は廻り持ちで、老いて退き、若い人に讓る事は當然な事であるが、それさへ悟り得ぬ人が、N代議士の言を借りて言へば、先づ九〇パーセント以上であらうといふ。洵に度し難い世の中である。時には自分の地位に何時までも執着して、他から引摺り下されるやうな醜態を演ずる者さへある。財などは生活と事業との爲に必要な以上は用の無いもの丶様に思はれる。山と積んでも死んでから持つて行き得る金ではない。然るに惡い事には無教養の人々は趣味とか、眞の奉仕とか感謝とかの意味を理解しない。地位が全部であつて、之を離れると爲す事が無いから寂しさに堪へられないのだ。

「人の祝ぐ萬年の壽をもの憂しとまなこつむりて龜らはねむる」この心のゆとりを持ち得る人は幸福だと思ふ。

私は自分の敬愛する平生釟三郎さんを思ふ。氏こそは私の上述した理想を實踐してゐる一人である。川崎造船所の社長を引受けた時も社長としての俸給を辭退した。過般就任した日鐵社長の俸給七萬圓も辭退した。平生さんの辯に依れば、「自分は六十歳までは大體自分のために

働いて來たが、六十一歳後は、一切國家の爲に盡すことに決心してゐるから……」と言つたと辯聞に出て居る。平生さんが文部大臣や北支の最高經濟顧問等を引受けたのも皆七十歳以後の事である。その前から甲南病院の經營をしたり、又多數の學生を養成してゐた事は人も知る所である。殆ど全部奉仕である。平生さんの如きは當識と奉仕との偉大なる實行者と言つて宜しからう。

最近ある先輩が七十歳に達して、某大會社の社長を引退したので私は挨拶に行つた。「之から何をおやりになりますか」と尋ねると「今からぼつ〳〵考へようとしてゐる所です」と言ふ。私は參考の爲に上述したやうな老後の暮し方に對する信念を話した。先輩は「非常に善い事を伺つたから、私もその方針でやりませう」と答へたのである。「彼れ程の地位の人が」と考へられる人までが、老後の事――それは五十歳の時からならば、二十年後、六十歳の時からならば僅か十年後に誰にも當然來るべき命題――を、全く等閑に付してゐるのである。かくして人々は一生を何といふ意味も無しに、死んで行く。幾年前であつたか、正月を國府津の宿で送つた事がある。その時の歌に、

初濱の砂に殘せし足跡の

跡のこしつゝ生きむとおもふ

といふのがあつた。

（十六、十、十二）

汗の目方

今年は本當に暑い夏であつた。「一つ『汗』といふ隨筆を書いて見よう」と私は庭で一生懸命に芝を刈つて居る妻に話しかけた。「綸言汗の如しつて、あなた御存じですか」「知つて居るさ。汗が出たら拭くまでさ」「誤魔化したつて駄目です」「誤魔化すもんか。拭くだけで氣が濟まなきやあ、風呂に入つて流すまでさ」

×　　×

僕が一生の中で一番汗を澤山流した記憶は、大正十二年關東大震災の翌日であつた。別府に湯治に出かけて、有名なあの砂風呂に入つた時である。別府は溫泉が到る所から湧き出るが、その中に一箇所、大阪通ひの汽船發着所に程遠からぬ海岸と云つても護岸の裾に隅つこの樣な狹い砂濱から湯が湧いて居る。海水とすれ〳〵位であるが、滿潮の時は無論海の下に沒してし

まふ。

その熱い砂を湯女が鋤簾で鋤いて、丁度人間一人が寢ころぶ程の細長い淺い穴を作つて臭れる。浴客は一枚の浴衣のちやん〳〵こを着て、穴の上に寢ると、湯女は上から湯に浸つた熱砂を身體中に掛けて臭れる。木の枕をして十數人もの知らぬ同士の浴客が、並んでごろ〳〵して居る樣は、一寸土左衛門が濱に漂着した格好で、餘り見つともよい景色では無い。

身體は上下から溫められて、汗の流れること、顏から、頭から、だら〳〵と流れて眼を開けて居られなくなる。手の甲からも、毛穴といふ毛穴から、玉の樣な汗が滲み出でて、指の股からころ〳〵落ちる。精々もの〻十五分も經つと最早堪へられなくなつて來る。

何氣なく隣の客の世間話を聞いて居ると、この人は過去一年間九州帝大の病院にリューマチスで入院して居たが、人手を借りなければベッドから降りることすら出來なかつた。先生もしびれを切らして何時まで入院して居ても同じ事だから、退院して別府の砂風呂へでも行つて御覽なさいと推められたので、一週間前こゝへやつて來た。然るに今はこゝから二、三町先にある宿から自分で歩いて通へるやうになつたと言ふ。

僕はこの話を聞きながらこんな事を考へた。この人の話は溫泉宿の自己宣傳ではなくて、實

論談なのだから、砂風呂は現實にリューマチスに利くに相違ない。そしてその效能の原因を前述の汗に結び付けて考へて見た時、僕はひそかに思ひ當ることがあつた。

それは當時から數年前のことであつた。或る時日本染料會社の一職工が、足をすべらせて熱湯の中に落ちて、腰の邊まで浸つたが、直ぐに這ひ上つた。本人は案外平氣であつたが、之を診察した醫者曰く、可哀さうに、あの人は二日の間に死んでしまふ、と。果してこの人は二日目に死んでしまつた。一體人間の生存には皮膚の排泄作用が非常に重大な役割を持つもので、皮膚全體の二分の一以上火傷すれば必ず死んでしまふ。昔殘忍な白人が黑人の奴隸などを私刑(リンチ)に處する時、身體中にコール・タールを塗つたさうである。さうすると身體中の毛穴が塞がつて、皮膚の排泄作用が止るから、遂に兩三日で死んでしまふ。洵に殘酷な話である。

かう言つた大切な皮膚排泄が血行の促進と發汗に依つて非常に加速せられる。だから砂風呂に入る時は、この排泄作用が最高度に行はれる譯である。大體リューマチスは手足の關節部が痛む。關節部は血液が循環して最も行き渡り惡い所、譬へて言へば部屋の隅つこの如きものである。そこには普通の新陳代謝卽ち掃除位では箒が充分に屆き兼ねる。家具を取出し、疊を外して大掃除をする時にのみ、始めて一年中の塵が取り除かれるのみである。それと同樣

に砂風呂による發汗作用が最高度に達する時、關節部に溜つた積年の老廢物は悉く、汗に交つて取り除かれるのだ。汗の惡臭のあるのは、それが唯の水分で無い證據である。

僕は更に進んでかうも考へて見た。一體砂風呂ではこんなに發汗するのに、普通の熱い風呂に入つた時には何故に汗が出ないのだらうか。その解決は直ちに出來た。それは湯に入る時は、皮膚に湯が直接に觸れる。だから外部の水壓が高いから毛穴を塞いでしまふ。之に反して砂風呂の時はちやん〳〵こを着て居つて、濡れた熱砂をその上から載せてあるから、皮膚との間に空隙が出來て居つて、汗は自由に流れることが出來るのである。

更に一歩進んで考へて見ると、砂風呂はわざ〳〵別府まで行かずとも、自宅の風呂場に於ても濱砂を鹽水（出來れば海水）に漬けて之を溫め、彼の砂風呂と同樣の溫度と方法で、浸りさへすれば善いと言ふ結論に到達したのである。それは別府の砂風呂の溫泉は汀にあつて底は海水と續いてゐるからである。

數年前、僕は友人の名古屋醫大の勝沼博士を訪ねた。所が先生は不自由さうにびつこを曳いて居た。持病の神經痛を起してゐるのであつた。「神經痛の治療を敎へて上げませうか」と言つて、僕は上述の砂風呂論を一席辯じ立てた。「全部君の言ふ通りだ。浴衣を着てゐるから汗

が出るのだと言ふ理窟も正しい。西洋の本にも砂風呂、泥風呂、蒸風呂といふのがある」といつて、詳しい說明をして、私の理論に太鼓判を捺して呉れた。物の道理は素人が考へても、專門家が考へても筋だけはさう違ふものでは無い。

×

さて、今朝も僕は五時から起きて寢衣のまゝで庭草を取つてゐた。茅萱を拔くのには大變な力が要る。いつしか僕の着物は汗でびつしよりになつた。「序でに汗の目方を計つてやらう」とふとこんな事を考へて、濡れた寢衣の目方を測つて置いた。後で寢衣を乾かして差引いて見ると、丁度正味十匁の汗であつた。茶碗を臺衡の上に載せて、十匁の水を注いで見ると、正しく玉露呑の茶碗に一杯ほどの分量であつた。身體に附着して居つた部分、蒸發する部分等を計算しても、大方僕の一日に流す汗の量は一合にも達しないと思ふ。

恐らくは戰地で流す兵隊さんの汗の分量でも、二合か三合を餘り超すまいと思ふ時、つくづくと汗の價の貴さを知ることが出來る。

×

最後に僕はこつそり「言海」を引いて見たことを白狀する。禮記に「王言如レ絲、其出如レ綸、

王言如し綸、其出如し紵。綸言はみことのり。「綸言汗の如し」とは「綸言は一度發せられては返らずの意」とある。

一度出て歸らぬ例は唯に「鐵砲玉の使」や汗ばかりではなく、幾らでも他にありさうなものを、それにしては綸言を選りに選つて汚い汗に喩へたのは勿體無い話である。

（十七、八、二十）

活きた力

一足す一は二となり、五を二倍すれば十となると云ふことは國民學校の一年生でも知つてゐる。然し乍ら活きた力の働きに於ては、一足す一が時として四となり、五の力が二つ合はさつて百の作用をも爲す事があると言ふ事を知らない人が多い。

火事場では、平素の二倍もの力が出て、手に餘るやうな重い荷物を運び出す事が出來る。精一杯の力を出すからである。

人の筋肉の強さといふものは、材料試驗機に掛けて引張つて見れば、大した強さは無いのであるが、力持が氣合ひをかけてやると、強い鐵の鎖を腕で引きちぎつてしまふ。空氣やガスは一定の形といふものが無いから硬さが無い。故に若し「空氣でガラスを割つて見よ」と云はれば誰でもそんな事が出來るものかと言下に否定するであらう。然しその空氣が一旦急に膨脹

したり、振動を起したりする時は、硬いガラスを割る位の事は勿論、刄物を以ても切れないやうな強い鋼をずたずたに割いて仕舞ふ力が出る。空襲の爆弾が落ちると周圍の一町四方位のビルヂングの窓ガラスが粉々になつてしまひ、砲弾の中の火薬が爆發して急に容積を増す爲に鋼が切れ〳〵に飛び散るのは皆ガスの壓力に因るのである。

この道理を悟る人は、人間の生きた力は、決して一足す一は常に二で無くして、時には五となり十となり、爆發すれば百となり萬となり得る事を知るであらう。一人々々では如何にしても出來ない仕事が、協力してやれば樂々と出來ることもある。仕事に一致協力の必要な所以も判るであらう。

この頃私の會社の構内にある高壓線を、構外に移轉する工事費を調べさせた。所が移轉費が鐵塔を用ふれば二萬圓以上、木柱を用ひても九千圓はかゝるといふ。私は木柱ならば現在使用の分を、そのまゝ移轉するだけの事だから、工事費に千圓もあれば充分と思つたので、不思議に感じて尋ねて見ると、全部新しくやり直さねば移轉が出來ないと云ふのである。斯う云ふ人は非常時に應ずる工夫をする事を知らないのである。

若し自分がこの工事をするならば、電柱を立つべき新しい位地に穴を前日までにすつかり掘

つて置き、古い電柱の方も根本を大方掘り返し、尙電工、人夫、材料等一切の手當をして置いて、停電の日を待つて一擧に電擊的に作業をする。一日かゝらずに完全に切り替へが出來ることは請合ひである。そして材料は全部舊來のものを使用し得るから、隨つてかうすれば費用は十分の一で出來るに相違ないと話したことである。

嘗て自分の會社の東京支店が類燒をした時に、關係者は之を復舊するのに二―三ヶ月は掛るものと考へて、他に借家を求める準備までして居た。之は店の改造や、營業を二ヶ所で別けてする經費等を考へると非常な不經濟で問題にならない。私は翌朝東京支店に駈け着けて燒跡を三日で改築し、一週間で開店する目算を立て、清水組の技師に費用は奮發するからと云つて、非常時處置を依頼した。清水組は快く引受けて雨中を三日間徹夜して、約束通り八日目に開店をする樣になつて、銀座の人々を驚かせた事がある。要するに仕事はする人の熱と工夫とである。

何時でも一足す一は二で、五の二倍は常に十なりと定めて居る如き融通の利かぬ石頭となつては、非常時の大きな仕事は出來ない。普通の場合は不可能と考へられる仕事でも、やり通す意氣と熱意と創意とが欲しい。そしてこの熱意と創意とが爆發的威力を發揮する時に何十倍も

の仕事をなし得るのである。

今は非常時中の超非常時である。國民は皆通り一遍の考へ方や形式的な既成觀念を一切捨て去つて、眞理に徹するやうな本當の仕事を爲さなければならない時代である。

（十六、七、十一）

Y君を憶ふ

人間は逢つて見て、百花撩亂の櫻のやうな派手な人も、又色や香は無いが質實な果樹のやうな人も、或は花も實もない雜木のやうな人もある。我がY君は何と無く奥深くて、馥郁たる香氣をたゞよはし、而も立派に果實を結んで居たのであるから、洵に得難い名木であつたと云つてよい。一寸そんな木は實在しさうにも無い。

Y君自身が一見如何にも地味で、小心で引込思案でもあるかに見えて、その實默々として飽くまで目的を貫徹せねば止まなかつた實行力に到つては、洵に類例が稀である。

私が君と始めて相知るに至つたのは、大正三年春住友からドイツに留學して、ベルリンのシヤーロッテンブルクの工科大學に研究に行つた時の事である。澁谷君の紹介で逢つたと思ふ。當時君も同じ學校に聽講に來て居た。叔父さんが○○會社の社長であるといふ話を聞いて、金

持の息子がベルリンに遊學に來てゐる位に思つてゐた。その後日本に歸つて來てから、自分は仕友で電線製造に從事してゐた關係上、電氣協會の總會等で時々君と逢つた。又Y君の工場で作つた電氣計器類を時々會社でも使用して、あの大人しいY君がこんな物を作り始めたのかたあと不思議にさへ思つた事がある。

その後私は、日本樂器會社に移つてから、君の會社の某君が考案した電氣樂器の件で、君の新工場に出かけた事もある。又會社の音響研究室のオッシログラフも君の工場で作つて貰つた。

Y君は極めて淡白で、お世辭一つ言ふでも無ければ、大工場の持主だといふやうな顏をした事が無い。側から見てゐると傍觀者か、精々後見人位にしか思はれないやうな顏をしてゐた。或は金持の坊ちやんが道樂に事業を經營してゐるやうにも私には感じられた。それは君の頭がよくて、仕事を樂にやりこなして居た故でもあらうし、又君の性格が少しも自己宣傳を爲さず、地味に、大人しく、柔和な靜かな性であつたからにも因らう。然しあれ程の困難な仕事を爲し遂げるのに、異常な努力を拂はれた事は、知らぬ者にも想像し得る。

兎に角電氣計器類の製造に於て、君の工場が芝浦電機とかシーメンスとか東京電氣とか云ふ

大資本や外國の技術を利用する錚々たる會社に伍して、常に堂々と業界の先頭に立ちつゞけてゴール、インをした事を思ふ時、Y君の底力を敬服せざるを得ない。

人間の一生は朝顏の花の如くぱつと咲いて、直ぐに凋んでしまふものが多いが、君の仕事はY電機會社の名に於て永久に殘る。それは「相生の松」や「唐崎の松」が、數百年の壽を保つて萬一枯れる時があつても、世人はその名樹の名を惜しんで、その跡に再び第二代の松を植ゑ育てゝ、永久にその名を傳へて行くであらう如くに、君の足跡は人の世に永久に殘されるであらう。

事業を殘す事は世の中に對する大なる貢獻であり、從つて其の人の名譽と幸福とは羨むべきものである。この意味に於ても、君は實に惠まれた人と言はなければならない。君が逝かれて三年に垂んとするが、私には名木の馥郁たる移り香が今も殘つてゐるやうな心地がする。

死ぬる腹

落ちぬつゝ獨りふかくしひそみたる國の病のみなもと惟ふ
うつろなる强がり歌は氾濫すむしろ空虛と見しはひが目か
肱を張り眦上げて景色ばむへなへな武士の眞似はせさらむ
しづまりて深くも謀りをらむのみ音無く進む大事のまへに
折からに伊勢の行幸のゆゝしけれ昭に聽けと告らしたまはず
本土空襲きたるといふにみな人は死ぬる腹は已に据りてあるか
腹据り死ぬと思へばまたと無き時代に逢へる幸やあらたし
百%の自信を持ちて勝つといふ不遜なれども思はざる可からず
地球より抹殺すといふ暴言はひた擊ちに擊ち擊ちて答へむ

侍從御差遣

昭和五年五月三十一日我社に臨幸の事あり、
越年十七年六月十日また侍從を差遣せらる。

草莽の民草われら幸あれや天つめぐみの露のしげくて
おほみ寶と民をおぼさすみ心は天つ日の如今も光れる
今日の佳き光を浴みぬみ民われ薫風に舞ふ鳶のこゝちに
大みこゝろ唯に畏し子をおもふ親の心におもひ觸れつゝ
工場にあふれみなぎる眞劍味音さへ立ちてひゞくが如し
大君の民ならぬもの一人無し焰と揚がる眞劍味見つ
光榮の我社の史に黑々と大きく止めむかゞやく頁を
このほまれあだにやはせむ數千なる心は燃えて大き焰となれ

創意と指導

獨創への道

エヂソン傳を讀む

一、嚢中の錐

天才は生れ乍らにして素質が常人と異つてゐることは爭はれない。ダイヤモンドの原石は、その素質あるが故に磨けば光輝を發するのである。瓦は磨いても光を發し得ない。天才はダイヤモンドである。磨かざるダイヤモンドは一見して瓦石と異るところはないが、然しその素質が根本的に異る以上、或る機會にその光の片鱗は自ら顯はれて來る。例へば石の缺損した面は燦然と光り或はその大なる硬度が他の瓦石とを判別せしむるであらう。

エヂソンは十歳の頃、自分より三つ四つ年上のミカ公といふ友達に多量の沸騰酸を飲ませて苦悶させたことがある。彼は風船玉から思ひ着いて、沸騰酸で腹の中に多量のガスを發生させ

たならば、ミカ公の身體は膨脹して空中に浮び上るに相違ないと考へたのである。その考へ方が奇拔で、論理的で、深刻であるのに驚く。

又、五歳の頃彼の妻が見えぬので、父親は心配して方々を探して見ると、トムは納屋の一隅にしやがんでゐた。「何をしてゐるのか」と聞くと、「僕鶯鳥の卵を溫めてゐるの」と答へたので、父親も腹を抱へて笑つた。牝鷄の雛を孵すのを見て、自ら親鷄の代りとなつて實驗しようとしたのである。

かくの如き天稟の閃きを、教育者は直ちに見て取つて、これを哺み育てゝ行かなければならない。嚢中の錐は何時かその鋭鋒を顯はす、然るに凡眼はこれを見逃し易いのである。

天才と言はないまでも、將來頭角を顯はす如き人々は、必ず自己の創意に依つて、自發的行動をするものであると私は常に主張してゐる。エヂソンの如きも十二歳の時に、自ら兩親に乞ふて獨立して汽車中の新聞賣子となつた。滿業總裁の鮎川義介氏が帝國大學を卒業して、自ら進んで職工の作業を四年間續けた如きもその例である。

二、天才教育と凡庸教育

エヂソンは惡戯が好きで、學校に入學後益々これが烈しく、學校の勉强などは少しもしなかつた。だから入學後三ヶ月目に、受持の先生はエヂソンの母を呼び出して、「卒直に申しますと、トム君は……低能兒といふより外はないと、私には思はれます」といつた。

「天才は凡眼には餘りに大きい。裁縫の物指を以て、星までの距離は測れるものでない」

かくしてエヂソンは小學校入學後僅かに三ヶ月で學校を退學してしまつた。これが一生涯で受けたエヂソンの學校教育の全部である。

幸ひにしてトムの母は小學校教師をしたことのある賢婦人であつたから、退學後は家に引取つて本當の勉强をさせた。よく彼に向つて「世界一の人物になれ」といつたとエヂソン傳に書いてあるが、これは著者の作り話かも知れない。母にはエヂソンは低能兒どころか、時に非常に優れた素質を現はすことがあるやうに思はれてならなかつたのである。

ダイヤモンドも磨かねば玉にならない。千古の天才も、育てずんば遂に埋れ朽つる外はないのである。エヂソンの母の賢明であつたことは、彼の一生に取つて換へ難い幸運であつた。天才の卵を見付けるには、凡眼では駄目である。若し國家が眞に國の天才を殘りなく拾ひ上げて教育しようとするならば、各方面に夫々專門の第一人者を以て組織した委員を選んで、銓衡を

爲し、これに天才に應ずる特殊の教育を施さねばならない。學校教育は凡庸教育であつて、平均の常識人を造るに過ぎない。

「學校の成績は平均點主義である。故に一人一業又は一家一藝主義よりいへば平均點の高下は問題でない」と私は平素主張してゐる。若し學科別修了主義に改めたならば、生徒の負擔を輕減し、且つ遙かに能く生徒特有の才能を伸ばさしむることが出來るであらう。ニュートンもワットも學校では劣等生であつたと言はれる。「どんな劣等生だつて勉强すれば偉くなれる」といふ決心がエヂソンを勵ました。

エヂソンは學校を三ケ月で止めた後は、家や圖書館で自分の好む學科を一生懸命で勉强した。エヂソンの如き一生機械その他の科學的發明に從事した人でさへ、數學が不得意であつたといふのは、實に耳寄りな話である。自分の不得意の點に就ては人の智慧を借りるが宜しい。エヂソンはアプトンといふ偉い數學家を自分の相談相手としたのである。

何人でも、何も彼も凡てに熟達することは不可能であり、又その必要もない。エヂソン成功の秘訣は自己の長所を思ひ切り伸ばし、その短所を補つたところにある。そして一旦仕事に取りかかつたが最後、徹底的にやらねば止まぬといふ恐るべき熱心と努力とにあつた。

或はエヂソンは小學校で退學させられて、正規の授業を受けなかつたのが、彼の發明の天才を大成せしむる原因となつたとも言へないことはない。私はこゝにも平素の主張たる

平均點主義を排せよ

知らぬ事は專門家に聞け

物事は根本的に解決せよ

といふ各條の實行者の適例をエヂソンに見る。

三、慧眼

エヂソンは十二歳の頃新聞賣子をして居つたが、その時米國は奴隷解放の南北戰爭の最中であつた。デトロイトの市を歩いてゐると新聞社の前は大變の人だかりであつた。見ると「シローの激戰、死傷六萬、勝敗不明！」といふ掲示板が出てゐた。彼はこの時はつと思つた。それは掲示板の記事に驚いたのではなくて、群集の熱狂に驚いたのである。

忽ち電光の如く一の考へが、彼の頭の中に閃いた。「この掲示板を各停車場に貼り出して置けば到る處同様の熱狂が生ずるに相違ない。そしたならば新聞は飛ぶやうに賣れるぞ！」そし

て彼は直ぐに走り出して、停車場から電信を各驛に打つて、このニュースを豫め掲示させて置いた。彼は新聞社から千部の新聞紙を仕入れて行つたが、幾らでも買手があつた。最初一枚五仙を十仙に上げ、終には走り乍ら「エ、新聞は二十五仙！　新聞二十五仙！　殘部はいくらもありません」といつて、遂に全部を賣り盡してしまつた。

「豫め掲示板を出して置く」といふ一寸した思ひ着きで、エヂソンは僅かの間に莫大な金を儲けて急に成金になり、そしてその金で又自分の好きな實驗機械を買ひ入れたのである。これは安政六年即ち今より八十餘年前の事であるから面白い。

これと同じやうな思ひ着きを自分も經驗したことがある。私の會社で折疊式の椅子、卓子を作つてゐるが、最初椅子のみで、これと對となる卓子がなかつた。私はこれを組にすることを考案して新案特許を取つた。そして販賣する說明の方法を考へた。

從來折疊式椅子は、疊み込めば容積が小さくなるから、移轉する人に便利であるといふ說明をしてゐたが、人間はさうさう毎日引越ばかりしてゐる人はない。だからこれでは買手の頭にぴんと來ない。そこで私は、「日本の家は一つ座敷を食堂にも應接にも寢室にも幾樣にも使へるところに特徵がある。折疊式の家具は、應接を五分間で作ることが出來、客が歸つてしまへば、五分間で、丁度座布團を片づけると同樣に片づけ得る。これを西洋式に据ゑ着けのまゝの家具を置けば應接室一つ餘分の室を要する譯で、これが爲に家賃が高くなる。折疊式家具一組は優に家賃の差額の二ヶ月分だけで買ひ得るのである」といふ說明をさせた。そしてマネキン孃を使用して百貨店で宣傳させて見たところが、間もなく販賣高は從來の百倍に增加して來た。

人間は努力を必要とするが、これと同時に何ものか閃くものを要する。エヂソンの如き天才は閃くものを連發する。頭腦の閃きは、あらゆる經驗を即座に活かすことが出來る。閃き無きものは幾百千の經驗も、該博なる知識もこれを死藏するに終る。

エヂソンは電信技手であつた子供の頃、その勤めてゐた電信局の局長が、何かの嫌疑で投獄せられた時に、室の窓から見ると監獄の窓が眞向ひに見えたので、彼の頭には直ぐに一案が浮んだ。室の窓から腕を出して、局長に相圖をして、それからしきりに手を振つて、空中に線と點を描いて電信の信號を送つてやり、これで打合せをして、事件に必要な證據書類を取揃へて、遂に局長を救つてやつたのである。

又或る春先に大水の爲に河底の電線が切れて川向ひとの連絡が出來なくなつた事があつた。この時にエヂソンは汽車の汽笛を電信の記號の如く、長短に吹き鳴らして對岸との連絡を取ら

しめたといふ。電信といふ技術を學んでもカチカチといふ音を耳で聞き別ける事しか考へ得られぬ石頭では、一生たつても遂に何の工夫も出來るものではない。手でも、音でも、紙でも、タイプライターでも、電信技術といふ唯一つの經驗に結び着けて、當意卽妙・自由自在に活かし得る者にして、初めて宇宙の眞理は常住坐臥の間に捉へ得るのである。若し百千の經驗と知識とを幾重にも相關聯せしめて自由に活用する時、生じ來る結果の如何に大なるかは想像に難くないであらう。

四、頭腦の多角的活動

同時に幾つもの方面に頭を働かせ得る人は大きい仕事を成し遂げ得る。何か一つの仕事を命ぜられると、これをやつてゐる時は、他の仕事が全部お留守になる如き餘裕のないことでは、到底人の上に立つて大きい仕事をすることは出來ない。多數の部下にそれぞれ種々雜多な仕事を與へ、これを指導して行く爲には、どうしても多方面に頭腦を働かせ得なければならない。「忙しいから」といふ口實で仕事を後らす人が多い。これは一時に一つの事しか出來ない人に多い。將來を見通しての新しい研究等は、特に多數の研究項目に目を着けて、同時に並行して

研究を進めて行くのでなければ、時勢に後れてしまふ。

エヂソンは十二、三歲の頃新聞賣子をやつてゐる傍ら電信技手の技術を四ヶ月で立派に一人前に仕上げてしまつた。彼の頭はこの頃から既に、二樣にも三樣にも使ひ別けが出來たのである。

ニューワーク研究所にゐた頃は、働く時間が實に長い。一晝夜に二十時間ずつと働き續けて居つたのであるから、忙しいといへばこの位忙しい人はない。然し彼は、同研究所に勤務してゐたオット氏の話によれば、一時に四十五の發明を並行して行つてゐたことがあつた。「どの發明も順調に進行してゐます」といふ報告を、エヂソンは喜んでゐたといふことである。

彼が一九一四年までに取つた發明特許の數だけでも、一、三二八件といふ驚異的數に上つてゐる。これは約十一日間に一の特許を完成したことになる。彼の發明的活動が最高調に達した三十六歲の時（一八八二年）には、一年間に特許出願數一四一件で、卽ち一ヶ月に十二件、或は三日間に一件以上の割合に相當したのである。

斯ういふ發明をするとすれば、同時に幾十百の研究項目を持つて居らなければ、直ちに發明の種子切れとなるであらう。一年に一事は愚か、十年に一事、否一生に一事をも爲し得ぬ人

は、愧死せねばなるまい。

五、事業は人次第

エヂソンが青雲の志を懷いて紐育に着いた時は全く無一文であつた。賴りにして訪ねて來た友人も失業してゐたので、取りあへず金貨標識會社に來て、ぶらぶらして就職の機會を待つてゐた。丁度その時この會社が機械の故障で大混雜を來したので、エヂソンはその烱敏な頭で、一時間にしてその故障を直してやつた。これが緣となつて會社の經營者ロース博士が、いろいろとエヂソンから話を聞いた。彼の言葉によると、

「その翌日行つて見ると、私の顏を見るや否や、ロース博士は設備全部を君に任せることに決めた。月給は三百ドル出さうと言つた。私はこれほど急激に給料が飛び上つたことがないので、暫くは啞然として口も利けなかつた。私はこれでは餘り多すぎて、永續すまいと考へたが、なアに一日二十時間一生懸命に働いたら、給料だけの仕事が出來るか出來ぬか、一つやつて見ようと決心した」

といつてゐる。私は當時二十三歲の電信技手を、普通よりも十倍の給料で雇つたロース博士

も偉いと思ふ。要は事業は人次第である。價値ある人が一人あれば、百萬圓、千萬圓は愚か、一億圓の仕事も起り得る。

人の給料の高下はその人の爲すサービスの多寡に依る。百圓の給料でも無能の人には高すぎるし、一萬圓の俸給も十萬圓、百萬圓の仕事をする人には安すぎると私は常に考へてゐる。

エヂソン自身も、その後幾何も無く、研究所と工場とを始めたが、その工場の一部に同居してゐた他の工場の一人の機械工が、素晴しい職工であることを見出した。即ち彼はこの男は二十四時間ぶつ續けに働くといふことに氣付いた。彼はかういふ雇人を探してゐたのだ。だから一週二十一ドル半の給料で働いてゐたこの男に、前からの工場は晝勤、自分の方は夜勤で、兩方の工場長兼務といふことにして、一週六十ドルで働いて貰ふことにした。その男は果して三ケ月の間に工場の生產力を二倍にした。

善い人物を得る爲には勞と金を惜しんではならない。事業が起るのも衰へるのも、或は時勢に魁けるのも後れるのも、凡て繫つて人にある。

六、周到なる準備

困難な仕事を完成するには最初に於ける準備を周到にせねばならない。エヂソンの如き天才の發明家にして、尙かつ物事を忽せにせず、如何に周到なる準備をしたかの一例は白熱電燈の研究に於て見ることが出來る。

當時用ひられたガス燈は熱が高く、光が搖ぎ、かつ惡ガスが發生する。アーク燈は室内用としては熱が高過ぎ、炭素棒が間もなく消耗する。故に電氣を分配して小さい便利な理想的の光を得ようとするのが、エヂソンの目的であつた。彼はメロン・パークの研究所で萬事を放擲して照明の研究に取り掛つた。

第一に始めたのはガス燈の研究で、彼は終日書庫に閉ぢ籠つて、照明に關する雜誌、論文、技術學會の報告等の綴り込みを、一々丹念に讀み始めた。その時作つた研究のノートが二百冊に上り、頁數が四萬頁以上に達したといふのであるから、その熱心と精力とに驚かされる。

彼の實驗に供した鑛物、金屬の類は千六百種に上つたが、それでも遂に金屬線電球には失敗してしまつた。然しエヂソンは失望しなかつた。「牆外道あり坦として長安に通ず」といふ語があるが、エヂソンは如何なる場合でも切羽詰ると、卽座に且つ正確にその難關を突破する方法を判斷する不思議な力を有してゐた。これは不撓不屈の精神を有するもののみに與へられる

特權であると私は信ずる。

一八七九年十月二十一日彼は最初の白熱電燈の光を見ることが出來た。時を費すこと十三ケ月實驗費四萬ドルであつた。この日から彼は世界中の凡ゆる炭化し得べき物責を蒐集して、炭素フイラメントを作つて見た。たまたま机上にあつた團扇の骨より思ひ付いて、日本にも人を寄越して竹を求め、これから實用し得る炭素フイラメントを作ることが出來た。

一方日本竹をもつて纖條を製造しつゝも、他方にこれ以上のものを求めんとして、人をアマゾンその他南米各地に派し、又印度、南洋にも人を送つて材料を求めたが、遂にこれらは效果を齎さなかつた。

かのソ聯が近年植物探檢隊を六十隊も世界各地に派遣して、三十萬種の植物を蒐集し、世界一の植物標本のコレクションを作り、各種の穀類、果樹等の優良新種の完成に成功したのと好一對であると私は思ふ。

斯くして彼が炭化を試みた植物の品種は、實に六千種に達したといふことである。本當の研究は準備を徹底的にして掛る時にのみ達成せらるゝものである。

七、信　念

鑛山事業に失敗した時に得た經驗を利用して、セメント事業には全然素人たるエヂソンが、セメント製造事業に取り掛つた。一九〇九年百五十呎以上の高さを有する燒成窯の特許を獲得し、從來のものに比し一躍五倍の能力、卽ち一晝夜に一千樽のセメントを造らうといふ設計をした。

內徑九呎、高さ百五十呎の窯を作つて實驗したが、四百樽しか出來なかつた。部下のマロリーがそのことを報告すると、「馬鹿なッ。も一度やつて見ろ」そこで何度も試みて、多少窯の使用法に慣れて來て、五百五十樽までに生產が上つて來た。そして間もなく更に一日六百五十樽まで上つた。

マロリーは喜んで、エヂソンの實驗室まで出かけて行つたが、彼は非常に不滿である。「惡いのは窯ではない。その使用法だ」といつて、尙最初の設計通り一日一千樽は必ず出來ると頑張つて聽かなかつた。

それが次第に七五〇樽、八五〇樽と增し、種々工夫したり、慣れた結果、九百樽、千樽、最

後には千百樽にさへもなつて來た。

彼の直覺力は、その最後の結果を豫見してゐたが故に、少しも疑ふところなく、强い信念となつて現はれたのである。

道理上左樣あるべき事は、必ず道理の通りになる。己れに確信のある人は、他人が何と言はうとも、びくとも動かない。若しも道理の通りにならない場合がありとすれば、最初道理と考へてゐたところが、道理でなかつたからである。エヂソンの如き明晳な頭腦に、道理を見誤る筈はないのであるから、かうした信念が生れて來るのである。

八、觀察力と洞察力

エヂソンがセメント工場を作つた時、或る朝汽車で工場に行き、碎石工場から最後の荷造工場まで全部檢分し、夕方五時の汽車でオレンヂの研究所に歸つて來た。やにはにノート・ブックを取り出して、晝間に檢分した注意事項を、全部自分の頭の中の記憶から徹夜で書き始め、翌日午後にやつと書き終つた。その項目だけが驚く勿れ六百ほどあつた。彼の記憶力の大なることは驚くべきものであるが、それと共に觀察力の鋭いのに驚かされる。

觀察力の鋭敏なものには、一目見ると色々の改良すべき點が直覺的に判る。そして夫れから夫れと類推して行くと、丁度數學の式を解く場合の如く、最後の解答まで推理して行くことが出來るのである。そして觀察力の鋭敏こそは、凡ての研究、工夫の基本を爲すものであると私は思ふ。

マロリーは曰く、「エヂソンは何時でも材料の差異を見別ける不思議な視力を有してゐる。普通の人はいろいろ說明して貰つて漸く判るやうなことを、彼は直ぐに見付けてしまふ」と。或る眼科醫がエヂソンの眼を診察して、「彼の如き視神經を見たことがない。普通の視神經は縱糸ほどのものが、この人のは恰も綱のやうです」と言つたといふ。視神經云々は果して醫學上そんな事があるか否かは疑問であるが、兎に角話としては面白い。

エヂソンの股肱の一人なる數學者アプトンは、「私のエヂソンから受けた主なる印象の一は、彼の豫想の驚くべき正確さである。彼は數學的計算に依つて達し得るよりもずつと前に、その結果の一般の性質をちやんと見透してゐるのだ」といつてゐる。又フランクは、「エヂソンは山積した種々の報告の中から、卽座に誤りを指摘する驚くべき力を有してゐる」ともいつてゐる。

卽ち彼は物を見貫く力、物の根源まで貫き見る力を有してゐる。これは偉大なる洞察力である。エヂソンの如き非凡なる洞察力は素より凡人の企及するところでないが、ただ吾々も平素注意力觀察力を養成することによつて、或る程度までこれを發達させることが出來るものだと思ふ。

私自身の經驗に依つても草花や人の顏等のスケッチを二、三萬ばかりしたので、その練習の結果、形や釣合に對しては、比較的鋭敏な感覺を養ひ得たと思ふ。同樣に統計や、報告書等の見方、仕事の整理、改良等に於ても、訓練に依つては、或る程度まで洞察力を增し得るものである。

九、想　像　力

エヂソンは曰く、「想像力が考へを供給し、技術的知識がそれを實現するのだ」と。

實に私はその通りだと思ふ。私共は時々自分で種々の想像をし、構想をして、技術者に話して見る。然るに多くはこれを試みて見ようとする勇氣に乏しいから實現が出來ない。然しかういふいろいろの着想が誰かに依つて數年又は十數年後に到つて、實現せられて來ることが往々

ある。

哲人エマーソンは想像力なきものは一歩も前進することは出來ないと言つた。エヂソンは凡ての巨人と同樣に、この想像力を最も多分に惠まれてゐた。然し想像力の偉くなれば偉くなるほどこれを實現するには偉大なる努力と精神力とが必要である。若しエヂソンにして努力を缺いたならば、彼の努力も畢竟は彼をして凡庸なる實利主義者たらしむるに止まつたであらう。若し又彼にして想像力を缺いたならば、彼も單なる一の夢想家として終つたであらう。

想像力と努力と結婚する時、始めて偉大なる發明が生れる。

エヂソンこそ實にその實例であつたのである。

一〇、研究心と熱意

熱意のある人、積極的に仕事を追及する人でなければ、本當の仕事といふものは出來るものでない。故に私の會社は新しい社員の採用の第一條件として、熱意と積極性あることを要求してゐる。

エヂソンは自ら言ふ。「私の野心は自分の事業的能力の約四倍はあつた」と。あれ程の實行

力のあつた彼が、その熱意が更にその四倍もあつたと言ふに到つては、洵に彼の探求心の旺盛さに驚かざるを得ない。彼は己れ自身を抑さへ切れない程の研究的慾求に驅り立てられてゐたのである。

だから彼は電話機を發明して特許權を賣り渡した時、相手が十萬ドルの特許金を一時に拂はうと言ふのを、わざわざ十七年の年賦にして貰つた。それはこの大金を一時に貰つてしまふ時は、彼は直ちに全部自分の實驗に注ぎ込んで仕舞はずには居られぬことを知つてゐたからである。延拂にして貰へば、十七年間金の苦勞から救はれると考へたのだと彼自身告白してゐる。それ程に彼の心奥の研究心は燃え盛つてゐた。

活動寫眞機はエヂソンの發明したものであるが、これとて決して一朝一夕に出來たものではない。或る時メイブリッヂといふ競馬狂が、友人と「馬が全速力で駈ける時、四本の足が同時に地を離れて、胴體が一時宙に浮ぶだらうか、それとも後足が跳ね上つてゐる時には前足の一方が地に着いてゐるといふやうに、地から離れないだらうか」といふ賭をしたのが初めで、これを實證する爲に、寫眞機を多數並べて置いて馬が走つて通る時に、順次にシャッターが落ちるやうに仕掛けて寫眞を撮つた。

これが活動寫眞の基である。その副産物として、犬や鳥などの飛ぶところも撮影して、ソエトロープと同樣に圓筒に仕掛けて、幻燈機で映寫した。然しこの幻燈では馬や犬は走る格好だけはするが、畫像は映寫幕の中央に止つて足踏みをするだけで走らない。

エヂソンは、これは寫眞機を何臺も使用して撮影するからいけないといふことに氣付いた。普通の人は假令この着想が出來たとしても、これに直ぐに飛び着いて行つて、物に仕上げるだけの研究心がない。又それだけの熱意もないのだ。さてこの場合、一つのレンズを以て、少しづゝの時間をおいて、順々に連續撮影する爲には、(一)乾板の感光度が非常に鋭敏なことゝ、(二)乾板が非常に輕くて壞れないことゝが必要であるとエヂソンは考へついた。

幸ひにしてイーストマンがコダック寫眞機とフヰルムとを發明したので、エヂソンはこれを利用して遂に自分の着想を活動寫眞に實現することが出來たのである。

世の中の多くの人は、恐らくは誰でもかういつた着想だけは、時々考へ付くことがあるであらう。然し研究心が極度に旺盛な人でなければ、着想は常にそのまゝ葬り去られてしまふのである。若しも凡ての着想が、さう易々と實現出來るものならば、世界中にエヂソンは無數に出現するであらう。然し實際はそこに非常な困難が伴ふからこそ、その試練に堪へ得る熱と研究

心の所有者のみに榮冠の特權は許さるゝのである。

一一、不撓不屈の努力

前人未踏の天地を進まんとするものは、荊棘を自ら切り開かねばならない。皇軍の馬來攻略は、人跡の入らないジヤングルを切り開き百難を凌いで進んだからこそ出來たのである。良質の礦石を得むとするならば、數百尺數千尺の地盤を掘り下げねばならない。五尺十尺を掘つて見ても、出づるものは砂礫や泥土に過ぎない。

エヂソンの肉體中には、困難な仕事を克服するに最も必要な一の性質即ち「不撓不屈の精神」が宿つてゐた。彼は獨自の貧鐵鑛處理法を發明し、これを實地に工業化する爲に、あの巨頭を以てしても、八年間の日子を費した。然し乍ら彼が一度かうと目標を定めたならば、如何なる障碍や失敗があらうと、その目的を貫くまでは飽くまでも突進する。

世の多くの人達の爲すところを靜かに見てゐると、百段の石階を上る場合、一段二段目で骨が折れるからとて、下りて來る人が七、八十%を占めるやうに思はれる。百段の頂上まで上り切る人は、百人中一人位しかないやうに思ふ。だから本當の困難な仕事を仕遂げ得ないのは寧

ろ當然と言はねばならない。

エヂソンが數知れぬ發明中で、最も苦心したのは蓄電池の發明であつた。これを完成するには十五年を費した。鉛と硫酸を用ふる蓄電池には種々の缺點が伴ふので、これを改良しようとして全く前人未踏の道に新しい出立をした。あらゆる材料を試みて、「鐵とニッケル」を用ふる所謂エヂソン蓄電池を發明するまでに、實驗の回を重ねること實に一萬回であつた。つまり一萬の石段を上り切つたのである。

「大抵の事は同一の事を一萬回繰り返して練習すれば、その道だけでは日本一になり得る」といふのは、私の貧しい體驗から得た信念である。況んや天才エヂソンの一萬回の實驗から、偉大な產物が生れ出でない筈はないのである。

エヂソンは天才とは一%の靈感（インスピレーション）と、九十九%の汗（パースピレーション）であると言つてゐる。百折不撓の努力がなくては、如何なる天才も大成するものでない。彼は人から發明の祕訣を尋ねられた時に、

「うんと考へて、うんと勞することだ」

と答へたのである

一八九五年X光線が發明せられると間もなく、エヂソンは助手と共に、各種の化合物の結晶を試驗し始めた。その集めた結晶の種類は八千に上つたといふ。又X光線により螢光を發する物質を探したが、さういふ物質は千八百種あつた。これを應用して透視鏡（フルオスコープ）を作つた。これはX光線の效果が目に見えるやうになる裝置で、人體用のX光線寫眞はエヂソンの發明である。

吾々の心は泉の水の如く枯渴せしむること勿れと私は常に叫ぶ。エヂソンの努力もさる事ながら、枯渴せざる流水の如く、如何なる障碍が道に横はつても、或はこれを乘り越え、或は下を潛り拔け、或は廻り、或は瀧と落ちて流れずには止まぬ彼の智慧の泉に私は驚歎する。

一二、電擊的の仕事

爲す價値のある仕事は一日一刻も早く爲すに越したことはない。一つ一つの仕事の合間々々の無駄が、一日に出來る仕事を一ケ月に、一ケ月に出來る仕事を一年に、一年に出來る仕事を一生に引き延ばす。だから仕事の下手な人や、怠け者の仕事は間隙だらけで、正味は殆ど零に等しい。

私は嘗て「電擊戰の眞理」といふ隨筆を文藝春秋に書いたことがある。ヒットラーの電擊戰といふのも、一の行動から次の行動の間に、息をつく暇さへ與へぬ正味行動の連續であることを述べた。私の自宅から濱松驛で汽車に乘るまでに、自動車があればぎりぎりの正味時間は五分で間に合ふのだ。然し計畫が粗であつて、行動に敏活を失へば、二十分あつても乘り後れてしまふであらう。無駄の時間（アイドル・タイム）こそは仕事の敵である。

仕事を先に延ばすことは怠慢、遲滯の基である。故に「即時即座に片づけよ」と私は常に主張する。

エヂソンの仕事振りは、それこそ電擊的である。何か研究用の材料を要する時など、即座に取り寄せるのが彼の流儀である。この爲に特別の使者を出す位のことは平氣である。電燈の發明に沒頭した初めの頃、電球内の空氣を排除する水銀眞空ポンプが必要になつた。彼はゼールといふ人をプリンストンに買ひにやつた。その日遲くメッチエンに歸り着いたゼールは、その夜ポンプを背負つて研究所に歸り、直ちにこれを組み立て、徹夜で仕事をして、翌日になつて結果を得たといふ話である。仕事の連續であつて、そこに間隙といふものが寸分もない。

一八八一年エヂソンが巴里萬國博覽會に、電燈を出品した時の如きは、大きな發電機を運結

した機械を作つた。夜を日に繼いで仕事したが汽船の出帆に三日しか餘日がない。彼はタマニーに運動して警察の了解を得、紐育の大通りに多數の警官隊を並べて、街の交通を遮斷して貰つた。そして四時間前にやうやく試運轉を終ると、電動機の上に待ち受けてゐた六十人の者が直ちに解體に着手し、荷馬車に積んで、消防ベルを先頭に立てゝ波止場に駈けつけた。一方波止場には五十人の人夫が船積みの用意をして待つてゐて、直ちに船積みに取り掛つたので、出帆までは悠々一時間を餘して間にあつたといふ。全くのリレー競走である。この用意の周到さがなければ電擊的の仕事は出來ない。

又一九一四年世界大戰の初期に、從來ドイツよりの輸入に待つてゐた石炭酸（フェノール）の輸入がはたと止つたので、蓄音機のレコード製造用原料に困つた。そこで彼はフェノール工場を研究所の一隅に建てたが、工事を始めてから、八日目には最早工場は活動を始め、一日に一千ポンドのフェノールを製造し得るやうになつた。そして一ケ月後に一日一萬ポンドの生產能力があるやうになつたといふのであるから、その電擊ぶりは驚くべきである。

我國は近來生產擴充に日もこれ足らざる非常時であるが、一通の許可證を得るに二ケ月、三ケ月を要すること珍らしくなく、又工場一棟を建てるのに、半年、一年を要する現狀に思ひ比

べると、誠に國民の猛反省を促さざるを得ない。國民は凡ての仕事の合間々々のアイドル・タイムを零として、電擊的急進行をせねばならない。

一三、良き指導者

エヂソンの研究所、工場は所謂勇將の下弱卒なしで、その猛烈な晝夜不休の仕事振りに、自然有能な助手が多數養成せられたのである。殊に電氣工學に於ては、エヂソン研究所は何れの大學よりも偉大な大學であると言はれた。その助手達は「エヂソン・パイオニーア」として全世界に活躍するに至つた。ベルリンの電機製造會社主ベルクマンや、ジエネラル・エレクトリック會社のジョン・クルージュや、ドイツのシュツカルト等はその錚々たるものである。

「私は彼等に長時間の勞働と駈け足の研究といふ立派な訓練を施して置いた」とエヂソンは言つてゐる。

その後一八七六年から一八八六年まで十年間、メロン公園に研究所を置いた。こゝに天才エヂソンを首長とする發明家百人が集つて、晝夜ぶつ續けに、白熱電燈に對して總攻擊を行つた。數學方面にはアブトン、相談相手としてはジョンソン、その他にはアンドリユース、ハム

マア、リーブ、クラーク、アーキソン等錚々たるものであつた。これ等の人がよく協力して、良く有機的に指導者原理が行はれてゐるのであつた。

アブトンは曰く、「しかしそれにしても研究所員百人が、よくもあれだけ氣を揃へて、こんな難業苦行に堪へながら、白熱電燈の發明に精力を集中することが出來たものである。それは實際に驚歎に値する。

そこにエヂソンの偉い所がある。私は當時の研究所員に敬意を表すると共に、こゝまで彼等を心服せしめ、その士氣を鼓舞しつゝ、最後の目的を貫いたエヂソンの統率力に驚歎せざるを得ない」と。

或る人はエヂソンの統率力をナポレオンに譬へてゐた。實際ナポレオンはエヂソンと同樣に、精力絶倫の人であつた。戰爭の前になると三日でも四日でも眠らなかつた。當時の軍隊でナポレオンの部下ほど、肉體的に酷使せられた者はあるまい。それにも拘らず彼はその軍隊に神の如くに敬はれ、親の如くに心服せられてゐた。それは彼が自ら陣頭に立つて、勞苦を衆に先んじて嘗めたが故であり、又知識、技能、見識、自信、いづれから言つても、彼が誰よりも拔んでて尊敬、信頼に値するものであつたからであると私は思ふ。

エヂソンの場合に於ても、同様の事をいひ得ると思ふ。何れにしても上に立つものは、統率の力と徳と見識と、これに伴ふ實踐とを必要とする。良き部下のない限りは、人間一人の爲し得ることには限度がある。エヂソンの天才もさることゞら、この多數の有能なる部下の協力をも見逃してはならない。

かういふ研究方面の指導者としては、我國では東北金屬研究所の本多光太郎博士の如きは、最も賞讃さるべき一人者であると私は思ふ。よき指導者こそは、現實には大きな仕事を爲し、尙その上に將來の國を負ふべき有能者を澤山に作り出す實である。

一四、健康と精力

長壽と健康とはエヂソン家の遺傳である。曾祖父は百四歳、祖父のジョンも百二歳、エヂソンも亦長壽であつた。

父サムエルが或る事件の爲に、カナダから合衆國に脫れた時に、强健無比の體質であつたので、不眠不休、一食も攝らずに、百八十哩をひた走りに走つて、漸く安全の地に身を置くことが出來たといふことである。エヂソンの精力と健康とは全く遺傳である。彼は晝夜ぶつ續けに

働くくらゐは平氣であつて、青年時代電信技手になつた時など、晝間は別の仕事をする爲に、わざわざ夜勤を志望して、一つの身體を二重に使つたりした。

エヂソンは自らの勞働時間に就て、斯う言つた。「五十五歳までは一日十九時間半づゝ働くことにしてゐたが、一九〇二年以來それを十八時間に減じた。それを近來段々年を取つて來たのと妻が喧しく言ふので、氣を付けて、ずつと減らした」と。それは彼が七十六歳の時のことであつた。聞いてゐた一人が、「ずつと減らしたと言はれますが、何時間に減らしたのですか」と尋ねると、彼は平然として「十六時間にしました」と答へた。

エヂソンの睡眠時間はこのやうに少い。その代り寢る時にはぐつすり睡る。熟睡が彼の精力の泉の一である。彼は青年時代から夢を見たことがない。これは彼の健康に負ふのであると私は思ふ。彼の一時間の睡眠は、普通人の二時間にも三時間にも相當するのだ。

エヂソンは言ふ。「私は仕事に眞劍に精力を集中すると同様に、眠る時にも眞劍に集中的に睡る」と。つまり何事も三昧に入ることは非常に必要なことであるが、これは誰にでも出來ることではない。

元來人間の頭腦といふものは、一定の限度（その限度は金屬その他の材料に於ては彈性限度

と稱するが）以内では、一時に一事だけ考ふる場合は疲勞するものでない。殊に一事に集中して所謂三昧に入る時は頭腦は、却つて休まるものであると私は信じてゐる。これに反して一事を考へつつ、他の一の雜念を思ひ浮べる時は、頭腦は二の自乘卽ち四倍にも疲れる。若し三つの事に同時に頭を使ふならば、恐らくは三の自乘卽ち九倍にも疲勞するであらう。

かう云ふ意味で、私は碁を頭腦休養の爲に打つ。つまり圍碁は凡ての他の雜念を去つて三昧境に入らしむることが出來るから、心機を轉換して休養するに宜しい。

エヂソンの場合は仕事をすることが三昧に入ることとなのである。彼は仕事を夢中にやる。然し頭腦の彈性限度に近づいて、一度疲勞を感ずると、惜し氣もなくこれを放り出して、直ちに他の研究に取りかゝる。而してこれに又全精力を傾注した。「自分が比較的短時日に多くの發明を完成することが出來た一つの原因は、この仕事の轉換が自分には自由自在だつたからである」とエヂソンは言つてゐる。くよくよと一事を何時までも考へないのは、頭腦の明晳新鮮な人でなければ出來ない。

一五、心の餘裕

エヂソンの心には餘裕があつたとエヂソン傳の著者は言つてゐる。

「誰もがエヂソンの怠けてゐるのを見たことはなく、誰もが彼の急いでゐるのを見たことがない」

急がず、怠らず、一定の歩調をもつて悠々迫らず、力强き歩みを進めるところに、巨人の面影があるのである。餘裕のない人は「忙がしい」、「忙がしい」を口癖のやうに言つて、如何にも仕事に追ひ廻されてゐるやうな人が往々にある。私はこれは大嫌ひである。學生の時分他人から、「あいつは勉强家だ」と言はれるやうな勉强はしたことがなかつた。然し怠けた譯でもなかつた。寧ろ學校を卒業して三十餘年後の今日の方が餘計に勉强してゐると思ふ。それ故に自分はエヂソンのやり方に大に共鳴する。

エヂソンが七十歳の誕生祝の日に、七十歳後の老後の暮し方を質問せられた時に、「人が七十歳になつて、一日の暮し方に退屈を覺ゆるに到つたとすれば、それは彼が、頭腦の活動的な青壯年時代に、興味を感ずべき筈の無數の事物を閑却してゐた證據である。頭腦を働かせて居さへすれば、老後讀書にも默想にも研究にも、時間が足りないくらゐ問題がある筈だ」と、答へた由である。眞に同感に堪へない。

徳富蘇峰翁なども全くエヂソン黨の尤なるもので、八十歳を超えた今日、尙日もこれ足らずに寸刻を惜しんで著作に、講演に勵んで居られる。吾々の如き凡俗でさへも、常に感ずることは、時間の惜しいことであり、そして爲し度いことが餘りにも多いのだ。

エヂソンは又多方面に趣味を持つてゐた。彼が機智に富み、ユーモラスであつたことは有名である。彼は又鉛筆でちよい〳〵漫畫を描くのが上手であつた。人と話しながらでも、その人の似顔を描いて見せたりした。かと思へば人の聲色を眞似るのが得意で、わざと紐育の魚屋などの下卑た言葉を使つては、周圍の人々に腹を抱へさせたりした。

或る日エヂソンの精力のことが問題となつて、能くもあんなに身體が續くものだと言はれた時に「それは私が何にでも趣味を持つてゐるからですよ。だから何時でも何か研究してゐられるのです」と答へた。彼は凡ゆる學問、あらゆる事物に興味を有し、又勉强もしてゐた。

凡ての構想や直感や觀察が、人の體驗に基づく限り、かく多方面に趣味を有することが、結局は多數の發明ヒントを掴む基本ともなるものである。それと同時に多趣味は人間の內容を豐富にし、又その人の人生を愉しくもする。全然趣味を有せざる人の人生は寂しい。

一六、エヂソンの人生觀

天才が一人で、世の中に殘す貢獻の如何に大であるかは測り知ることが出來ない。就中エヂソンの貢獻は桁外れに大きい。例へば電燈電話關係の事業だけでも、如何に今日の文明に貢獻してゐるであらうか。

活動寫眞のみでも、映畫一週間の觀客の數は、演劇一年間の觀客の數よりも多いといはれたのは十年も前の話である。今日は音樂と演藝を享樂するにも、蓄音機と映畫の力を借りる場合が多くなつた。何れもエヂソンの殘した賜物である。

彼は「人は働け、自然の秘密を探つて、それを人間の幸福の爲に利用せよ。物事はその光明の方面に於て眺めよ」と言つた。奉仕こそは彼の人生觀なのである。彼は鑛山事業に失敗した時でも、「私達はそれをする間に多くの事を習得した。それらは何時かは誰かの利益となつて現はれるに違ひない」と。

又エヂソンは七十七歳の誕生祝の時に、「……私は大抵の諸君が生れぬ前から働いてゐた老人であるから、一言諸君に忠言を呈し度い。それは諸君が社會の公僕たることを忘れてはなら

ないといふ事、そして決して金錢慾や勢力慾に驅られて、折角公共の爲に盡し得る力を有し乍ら、これを充分に發揮することが出來ぬやうなことのないやうにと言ふことです」と述べてゐる。

一九一三年雜誌インデペンデントが「米國中で最有益にして、殆ど缺く可からざる人」十人を一般投票によつて求めた所が、總投票の八十七%はエヂソン一人に集つた。雜誌社でエヂソンにこれに就て感想の寄稿を乞ふたところが、彼の返事の中に、「貴誌の投票に就て、私に關する分は何卒何も記さないで頂き度い。斯ういふ事を殘されると、自分が見え坊になりはしないかと懸念であります」と書いてあつたといふことである。

この巨人より、この謙遜な言葉を聽くと、私共は實に恥ぢ入るのである。奉仕する者の態度は、謙抑でなければ、その功の價値を減ずる。反省一番せねばならない。彼の扁々たる政治運動屋の自家宣傳などは、三文の價値も無くなるやうに思はれる。

一七、天才は國の寶

前歐洲大戰の當時一九一五年七月七日、エヂソンは海軍卿から長文の手紙を受け取つた。そ

の要旨は、海軍焦眉の急務は戰局に鑑みて、米國の發明的天才の力を充分に利用するの外ない。故に海軍省内に發明改良に關する一局を設けて、部内並に民間發明家の考案を取纒め度いと思ふ。就てはこの發明局は賴るところはエヂソン貴下一人の援助のみであるから、若し貴下の援助を得ることが出來なければ、この案全體を放棄する心算であるといふのであつた。

エヂソンも遂に出馬を承認し、同年十月七日海軍省内に、合衆國海軍顧問局が設置せられて、彼は初代の局長になり、後に總裁となつた。

彼は最初に國家資源の大規模の調査をして、これを軍需工業原料に轉化しようとした。これに費した時日は五ケ月間であつた。エヂソンは自分の研究所の仕事は全部助手等に任せて、自分は二ケ年間全く海軍の仕事に沒頭、その間米國海軍に採用せられた極めて有益な發明は三十九件に達した。潜水艦發見裝置、船體急轉換法、荷物船をして潜水艦の襲擊を避けしむる策戰計畫、衝突マット等々何れも重要なものであつた。然し一九二三年のエヂソンの誕生日に、彼は新聞記者に向つて「自分は戰時中四十五の發明を完成し、何れも完全に立派なものであつたが、海軍當局はこれを握りつぶした。どうも役人といふものは民間の者に口を挿まれるのを好まぬらしい」と話してゐる。

今や我國は米英を對手として、前古未曾有の大戰に從事してゐる。生産擴充と新兵器等の發明は眞に國家の急務である。既に政治、技術各方面に於て官氏の委員會等は多數に作られてゐるが、兎角この種の會は形式的に流れ、實質的效果の殆ど認められないものが多い。殊に官界に於ては、民間の意見を虛心坦懷に取り入れることは、種々の關係上中々困難であると思はれる。エヂソンの如き、人も許し我も許す巨人の成案でさへも、米國の如き自由の國に於てさへ採用には相當の反對があつたやうである。吾々は他山の石として、國民全部が一心同體となつて、この非常時局に對處すべき決意を新にし、凡ゆる着想を活かして荊棘の道を開拓して邁進し度いと思ふ。

國民體位改善の根本策

一、低下する國民體位

近來國民の體位が著しく低下して來たことは事實であつて、壯丁の徵兵檢査の結果に就て見るも、その跡が歴然たるものがある。濱松市の或る町の如きは、本年の檢査に於て百三十餘名の壯丁中、甲種合格は僅かに十二人にしか、過ぎなかつた如き例さへある。聯隊區の或る係官が筆者に向つて、是非一度徵兵檢査を見に來て貰ひ度い。この有樣では國家の前途が眞に憂慮に耐へ無いからと話されたことがある。

一方肺結核の蔓延も甚だしく、結核撲滅の聲は到る所に叫ばるゝに至つた。全く結核は亡國病とさへ呼ばれて居る。或る人々は結核患者の激增するのは、少年の間から工場で過激の勞働

をするが故であると斷定して居る。

過日或る教育者と話して居つたが、この人は結核は幼少年時代の偏食の結果であると主張して居つた。之は恐らくは厚生省の宣傳ビラ等を見ての議論ではなかつたかと思ふ。

何れにしても、天下の識者が皆異口同音に、國民體位の低下の問題を歎じて居るのである が、さて眞に其の原因を突き止めて、之を矯正すべき根本對策を考へて居る人が無い。結核の原因は、決して少年時代から工場で勞働するからと云ふ樣な簡單な理由からでも無く、又偏食といふ如き例外的原因からのみでも無い。そこには他に、もつと本質的な、もつと根本的な大原因があるべき筈であると思ふ。

結核豫防對策調査會の報告に依る時は

一、學童に就ては、六大都市の全學童の中、一〇%が罹患者で、ツベルクリン陽性反應は、大阪が甚だしく四五%、東京は三五%となつて居る。

二、中等學生では、東京市の中學生のツベルクリン陽性反應は六〇%、罹患者は一〇%である。

三、大學、專門學校生徒に於ては、ツベルクリン陽性反應は大阪市八七%、東京市七五%

で、平均が八〇%、罹患者は大阪一七%、東京七%平均一二・三%に達し、殊に在學中の死亡者、退學者の半數以上が悉く結核に因つて倒れてゐる。といふ。

之によつて見ると、學童や學生は全部工場勞働者で無いに拘らず、罹患者やツベルクリン反應者が、以上の如き高率を示して居るのは、工場勞働が決して結核の主原因で無い證據である。又全學生を通じて過半が肺患關係者であるといふことは、偏食が肺患の主原因で無い事を示す。何となれば、偏食兒童の數はそんなに高率でないからである。

果して然らば、結核罹患や體質低下の主たる原因は何處に存するであらうか。

二、盆栽育成式育兒法

植物の成長に就て見るに、その幼少時に發育の不充分であつたものは、後の成育が非常に惡くなる。盆栽の例を取つて見るに、小さき苗木又は幼木の間に、之を傷めつける時は、將來その盆栽を地に下しても、過去に於て加へられた痛手の爲に、普通の木の如くすらすらとした成長を許さない。本來ならば數百年の生命を保ち、數十尺の高さに生長すべき松樹であり乍ら、盆栽の松は幼時の榮養不良や、凡ゆる方法で傷めつけられた結果の爲に、痩せ且つ萎縮して、

而も頗る短命に終る結果となるのである。

之と同様に人間も、折角完全なる健康児と生れても、若し盆栽の如くに、幼少の時に無闇にいぢり曲げられ、傷つけられるならば、其の兒は時としては早逝し、時としては發育不良となり、又は虚弱兒となり、生來の健全なる發育を成し得ない結果となるべきことは明かである。私は我國の青少年の結核的素質や、虚弱な體位は、實は斯の如くして培はれるのであらうと信ずる。端的に言へば我國の育兒の方法が當を得て居らないと考へる。

今日の育兒法は、日本人の大部分を、云はゞ盆栽的人間として作つて居るのであつて、活潑なる自然のまゝの大木を作ることは、今日の如き育兒法に依つては、殆ど不可能なのでは無いであらうか。この意味から、國民體位低下の根本原因は、實に育兒法の不充分なるに因ると斷定するに憚らない。乳幼兒死亡率の高いのは勿論、消化器患者の多いのも、呼吸器患者の多いのも、大部分は主なる發足點を茲に有すると考へる。

以下私は、斯かる斷定を下す理由と、この缺陷を是正すべき根本策に就て、些か愚見を述べて見たい。

三、合理的育兒法

筆者の知つて居る一兒童は、生れた當時は頗る健康で、生き〳〵とした赤坊であつた。一年半位の間は一回の病氣すらした事が無く、肥え太つてすらすらと成長した。然るに離乳時に、ふと消化不良症に罹つた。二、三ケ月にして消化不良症は全快したが、夫れ以來は體質が以前とは打つて變り、顏色も悪くなり、所謂虚弱兒型となつてしまつた。斯う云ふ例は到る所に見る。離乳時の消化不良は、幼兒の成長過程に於て止むを得ざる階段であるかの如く諦めて居る人さへ往々見るのである。乳幼兒育成法の誤謬の第一歩はかう云ふ點から始まると思ふ。

歐米に於ては育兒法に就ては、科學的に既に研究し盡されて居るといつてよい程、確とした一定の標準がある。昭和八年筆者が歐米旅行をした時、船中に丁度離乳期頃の赤坊を連れた一英國婦人が居つた。或る朝私は一人の友人と共に、甲板上に朝の散歩をして居ると、丁度その いたいけの赤坊が、甲板上に倒れて一人で泣いて居つた。子供好きの友人は、可憐な赤坊を抱き上げて之を慰めて居つた。其所へ丁度赤坊の母親が廻つて來た。禮を述べるかと思ひの外、婦人はいきなり友人にどなりつけた。「そんな事をするから子供をスポイルしてしまふ」と叫

びながら、幼児を引つたくつて、泣き叫ぶのも構はずに甲板に放つて置いて、さつさと行つてしまつた。友人と私は顔を見合せて、苦笑したことであつた。

西洋で暮した人は、西洋人が幼児の育て方に如何に嚴格であるかを知つて居る。彼等は子供を抱いたり、あやしたりすることは、育児上の罪惡の如くにまで思つて居る。託児所を見學しても、幼児を乳母車や搖籠に載せてをるが、抱いてあやすことだけは嚴禁せられて居る。要するに幼児を餘りに構つたり、玩弄物視することは、丁度植物に手を掛けて盆栽化すると同樣に、幼児を神經質とし、こせこせした虛弱児、意氣地無しとしてしまふと信ぜられるのである。

ソ聯邦に於て某託児所を見學した人の話に依ると、乳幼児の寒さに對する抵抗力を增さんが爲に、之を乳母車に乘せて寒中零下三十度に及ぶ屋外に出す由である。それには乳幼児の目鼻を除いて頭まで溫く包んで、最初は五分次には十分といふ如く、慣るゝに從つて外に置く時間を延長して行くのである。これは煖房裝置の整つた溫かい屋内のみで育てると、幼児は風邪にかゝり易いからである。斯ういふ研究せられたる科學的育児法は、國民體位向上の上に最必要なることゝ思ふ。

數年前私は孫を消化不良症で、築地の聖路加病院に入院せしめたことがある。始めての經驗

である私は、西洋人の病院の嚴格なのには一驚を喫した。

先づ自宅から着て行つた衣類はおしめの末に到るまで全部病院のものと取代へてしまつた。そして未だ一歲餘にしかならない乳呑児であるのに、母親や女中さへ附添ふことを絶對に許さない。看護婦も病院でつけて呉れる。外部から母親が面會に行つても、一日に午後の一定時に一回だけ授乳を許すのみで、その時すら母親が入室する時には、消毒した白い上衣を着せられる。

最初乳児が母親から離される時は、息も絶える程に泣き續けるが、病院では一向に頓着しない。吾々日本人は「こんなに泣かしてよいのであらうか」と案ずるのであるが、斯うして二日間も放つて置けば、自然に泣かなくなる。さう云つた先を見透して居るから、病院では幼児を泣かす事を平氣なのであるが、之を押し通すだけの辛棒と理智とが必要である。幼児の帶には紐を着けて、寢臺の兩方の手欄に結び着けて、落ちぬ樣にしてある。寢臺の上には日を慰むる爲に、玩具が吊してある。

或る時、附添ひの看護婦が、このぶら下げてある玩具を取り外して、孫をあやして居つた。丁度そこに看護婦長が巡廻して來てこの看護婦をひどく叱責した。而して「幼児をあやした」

といふ廉で、遂に彼女は病院を馘首せられてしまつたのである。

私はこの病院の仕方を見て、一般に日本人の育兒法が如何に非科學的で、不注意で、不規律であるかを痛感せしめられた。そこには、殆ど研究も根據も工夫も無いのである。否ありとしても幼稚で問題にならない。私は他の一人の孫を、その後東京帝大の小兒科病院に入院せしめたことがある。又慶應醫大の病院に入れたこともある。尙東京その他の市中の病院の事、大凡そのやり方を聞いて知つて居る。然るにそれ等何れの病院に於ても、幼兒の看護法や育兒法に、確固不動の公式を有し之を實行して居るものは皆無といつても過言で無い。附添人も患者の勝手であり、食事も或る程度まで自由であり、間食も自由不規則で、畢竟入院といふことは單に診療「便宜の爲に、病院の一室に泊り込んだに過ぎない有樣である。西洋人の病院が子供の三度のおやつまでも、病院の負擔で規則正しく與へる注意深さと比較すれば、全く問題にならないと思ふ。之では我國は科學の國、醫學の國と到底謂ることは出來ない。或は聖路加病院などは入院費が高いから手が行屆くのだと辯解する人があるかも知れない。然し、それは決して經費の問題では無い。

四、無衛生の環境

一方、我國人一般の衛生思想の幼稚な爲に、赤痢とか疫痢とか胃腸障碍等の小兒病が、乳幼兒を傷めることも甚だしい。最近一年間に、筆者の長男の住む濱松市某町の隣組內で、疫痢の爲に三人の幼兒が死んだ　餘りに屢々町內で疫痢が頻發するので、無氣味に感じて、彼は他に轉居し度いと言つて居る。然るに最近また他の町內に住む知人が、五歲になる小兒を疫痢の爲に亡くしてしまつた。その同じ町內で、他に三人の幼兒が殆ど相繼いで同病で死亡したといふので、この人も何所かに移轉し度いと言つて居る。斯うして疫痢を逃げ廻つて居れば、遂に市中に安住の地は無くなつてしまふであらう。斯う云ふ衛生狀態は單に濱松だけに限るのでは無くして、全國の各都市が、皆大同小異といつて宜しからう。

之が根本的解決は下水その他の衛生施設の完備に俟つの外無いが、然し市民の衛生思想も一層高めなければならない。醫師も亦餘りに衛生に對して不注意であり、怠慢でもあることが多い。要するに一般市民も、指導者も、衛生や、疾病の豫防、驅逐、治療等に對して、確固たる方式を持たないといふのが、我國の根本的缺陷では無からうか。

その結果として、何れの家庭に於ても、幼兒は生れた當時健全であつても、そのまま無雜無病に生育するといふことは、寧ろ例外的少數であつて、大部分の幼兒は幼少の時代に健康にひゞを入らせる。つまり體質を傷物とするのである。之では折角の完全な苗木も萎縮せざるを得ない。

健全なる發育を圖る方法は、植物の例に就て言へば、盆栽を鉢より地面に下して、生育の環境を自由とし、善き肥料を與へ、充分なる榮養を與へてやれば宜しい。

五、育兒訓の制定

財團法人結核豫防協會は、昨昭和十五年春以來厚生大臣を會長に結核豫防對策調査會を設けたが、その第一部會では「學生、生徒、兒童の結核」に對して對策を得たといふので、十二月四日總會を開いて、左記の對策を決し、厚生、文部兩省へ建議の上、その實施に勉めることゝなつた。その對策といふのは

一、文部省が「學校身體檢査規定」により國民學校より大學まで實施して居る身體檢査法を改善して、科學性あるレントゲン照射、ツベルクリン反應に依る集團檢診の實施によつて、結核の早期發見につ

とめる。

二、罹患者には休學をさせ、療養、保養をさせ、勤勞奉仕にも不適當者は免除する。

三、校内に完全な健康相談所を設ける。

四、學習時間と宿題、入學試驗、勤勞作業、運動競技等について、保健教育を徹底さす。

五、寄宿舍、夜間通勤の再檢討。

六、教職員結核患者の除去。

以上を實行して、學園より完全に結核を放逐しようといふのである。

これを見るに、要するに既に結核になつたものゝ手當であつて、國民の大部分を蝕む結核の根本的撲滅策とはならないであらう。尙體位向上等に就ても體育、教育制度の改革、運用の改善、食餌問題、生活樣式の問題、その他樣々な要件が考へられるのであつて、これ等は夫れ夫れに重要な意義を持ち、何れも忽せにする事は出來ない。だがもつと拔本的に考へて、濁流を清めむと欲するならば、源に遡つて泉を清めねばならない。要は根本に遡つて、結核菌に犯されざる强健なる體質、すらすらと伸び得る害はれざる體質の育成、保有と云ふことが、絶對的に必要であらう。

然らば所謂根本對策はどうしたらばよいか。それは西洋人の例に述べた如く、育兒上最良と

考へらるゝ軌範、標準を作り、之に依つて全國の幼兒を養育するのである。この軌範を假に育兒操典又は育兒訓と名づける。恰も軍に於て步兵を敎育するには步兵操典があり　砲兵、航空兵を敎練するには夫れ〴〵砲兵操典があると同じく、育兒の典範として國民に廣く之を知らしめ且つ據らしめるのである。前述した聖路加病院の育兒法違反看護婦が、遂に解雇せられたといふ一事でも、西洋人が育兒法の解釋に就て如何に嚴格であるかゞ窺はれる。かう云ふ一定の育兒上準據すべき根據によつて、母は勿論、父も、醫師も、看護婦も皆訓練せられる時、日本人の體格は根本的に是正せられる機會が到來するであらう。

昭和八年外遊の際、ローマでファシスト女學校を見學したことがある。その育兒室にはちやんと子供の養育に必要な凡ての道具が並べられてあつて、寢臺の位置を窒のどの邊に置くか、子供の布團は如何に着せるか、枕の高さ、寢衣、おしめ、乳母車のこと等、人形の模型を使用して、實地の訓練をして居るのを見て、私はその實際的な敎育に感心したことがある。

育兒操典が出來たならば、斯樣にして將來の母たる女學生から敎育してかゝる。斯くて育兒の方法が國民一般の常識となるまで普及せらるゝ時、不合理なる溺愛育兒法は跡を絕ち、眞の强い母性愛より生れた正しい育兒法が出來、こゝに始めて、自然のまゝのすくすくと伸び擴が

る喬木の如き、日本民族が生れ出づるであらう。

昨年大島大使が、ドイツに出發するに當つて、ベルリン會々員四十名許りがドイツ大使から大使館に招かれたことがある。京濱在留のドイツ人有力者四、五十名も接伴として同席した。大使館の應接に入つた時、體格が偉大で精力に充ちたドイツ人の群の間に、吾々貧弱な體軀の日本人を見出した時に、私は丁度喬木の林の中に交つた雜木のやうな悲哀を感じたのであつた。

喬木となるべき養育訓練、それはよく考へられたる「育兒操典」卽ち「子育ての草紙」の編成と、その忠實な實行以外には無いと私は信ずる。文部省は「禮法要項」を制定したが、それとは比較にならない程緊急なことは、實は育兒操典の編成であると確信し、之を强く天下に向つて主張し度いと思ふ。

昔ある公卿が、曲りくねつた庭木を非常に愛して居つたが、ある時羅生門に雨宿りして居ると、ふとそこに寄り集つてゐた多數の乞食を見て居る間に、世の中に滿足なものゝ姿ほど善いものは無いと悟つて、今までのひねくれた庭木を皆捨てゝしまつたといふ話を讀んだことがある。吾々は國民の低下した體格を見て居る時に、果して何を悟り何を爲すべきであるかは、育

はずして明かであらう。須く權威ある專門家を糾合して、速かに完全健康なる兒童を育成すべき育兒操典を先づ作つて、國民體位向上の根本を確立すべきである。

指導者と先見

一、指導者

嘗て私の會社で社員の松茸狩を催した事がある。早朝集合場所たる驛前の廣場に行つて見ると、買切バス二十臺が並んで待つて居る。皆は二十團に別れて、このバスに分乘して行く手筈なのであつた。三々五々集つて來た人達は其所此所に團集してゐるが、各自の所屬團の集合場所が分らないので間誤ついて居る人が多かつた。

私は世話係に、直ちに團旗を立てるやうに命じたが、五分間を要せずして、人々は皆夫々の所屬番號の團旗の下に集つてしまつた。そして皆は秩序整烈とバスに分乘する事が出來たのであつた。

この例に依つても、吾々は大衆を動かす時に要するものは、先頭に樹立する旗印であり、適切なる旗印を以てする時は、大衆は之を一定の方向に動かすことの容易なるを知る。之無くしては人々は去就に迷ふ。何となれば大衆は自らの意志を有しないから、己の行く可き道を知らないからである。誰か先頭に立つ人を要する。この先頭に立つ者こそ指導者であつて、その持てる旗印が所謂指導精神なのである。

一般に指導者とは、一の命令系統又は指導系統の上位又は先頭に立つ者をいふのであるが、この定義は唯形式上の指導者を指す。廣い意味の指導者なるものは、或る社會又は團體の精神的方面に就てもあり得る。この指導者は形の上に於て、その社會又は團體の上位に立たなくとも、少くともその精神的方面に於て、その社會又は思想群の先頭に立つ。偉大なる哲人、宗教家等は之である。彼は思想的に常に群を拔いて大衆の上に立ち、先頭に立つて、一世を指導する事が出來る。

故に廣義に解する場合は、指導者には小は數人の指導者から、大は一國家又は全世界を指導する如き大指導者も、全人類の思想を、時代を超越して指導する如き大哲人もあり得るのである。端的に言へば、誰人も大なり小なりの指導者であるといひ得る。即ち一家の主人は、少くともその一家族の指導者であり、一係の主任者はその係の指導者である譯でめる。だから指導者と指導精神とは誰にも必要である。

二、指導精神

形式上の指導者が其の器に非ざる時は、彼は單に號令者となり、命令者となるのみである。今茲に一人の旗手が先頭に立つて、一隊を引率して行軍をすると假定する。若し彼が自分の行く可き目標を知らなかつたり、又は之を見失つた場合を想像すれば、彼は一隊の號令はするが、既に指導者では無い。即ち一隊が山中に迷ひ入つた時、前途の見透しが出來ない者が先頭に立つたとしたならば、全隊は道を失つて混亂に陷つてしまふ。即ち彼は指導者では無いといふ事になる。

前途の見透しこそは指導者に最必要なもので、畢竟「指導精神」といふも之に外ならない。見透しがつく故にのみ、人を指導することが出來るとも言へる。形式上の指導者にして同時に指導精神を有する者、言ひ換へれば、指導精神の所有者が形式上の指導者となつた時、その人は始めて眞の意味に於ける指導者たり得るのである。かの操守無くして、徒らに大聲呼號する

者の如きは、號令者であつても指導者では無い。

指導精神は先見に基いて、その方向に人々を指導すべき指針である。地圖や磁石無くして山中深く踏み入る時は、日が暮れ霧が深くなれば、道に迷はざるを得ない。この場合地圖や羅針盤は指導精神に相當する。吾々が高山や深谷を探檢するには、地理を研究し、必要な糧食、防寒具、雨具、その他萬端の準備をして行く。この準備と研究無くして、漫然と山中に踏み入るならば、夫は無謀といふ可きであらう。斯う云つた無鐵砲な似而非指導者は畢竟國を誤り、社會を毒し、國民に禍する。

昔の小學讀本に「京の蛙、大阪の蛙」といふ話が載つて居つた。或る時京都の蛙が大阪見物に、大阪蛙が京都見物に出かけた。夫々目的地に着いて、高い所に上つて背伸びをしてあたりを見廻した。京都の蛙は「大阪の景色は京都と少しも變りが無い」と言ひ、大阪の蛙も亦「何だ、京都の町は大阪の町と同じでは無いか」と云つたといふ話である。つまり蛙の眼は頭の後向に着いて居るから、立ち上つて見る時は、前方が見えないで後方が見える。だから京の蛙が大阪を見たと思つたのは、元の京都であり、大阪の蛙が京都を見たつもりが、實は大阪を見て居たといふ譯である。

蛙が若し自己の眼が、後向に着いて居ることを自覺して居れば問題は無いのであるが、夫を氣付かぬ所に悲しむべき誤りが存在する。

彼等は自分では未來を見てゐる心算でも、實は通り過ぎた過去で無ければ、目には入らない。凡ての事が過ぎ去つて後から氣が付くのである。

世の所謂指導者にして、若し蛙の如き人があつたならば禍である。その爲す所は凡て後手々々と手後れになり、常に他の後塵を拜し、又模倣の外に出づることは出來ないのである。お互に反省せねばならない。

三、指導精神と指導者原理

事變以來新體制は政治經濟のみならず、文化教育の方面にまで取り入れられて來た。而してこの新體制を運用する爲に現在採用せられて居る原理が所謂指導者原理である。然るに指導者原理を以て、指導精神そのものであるかの如く思ひ違へて、遮二無二と形式的指導を押して行からとして居る者が少くなかつた。指導者原理は飽く迄も指導方法の原理、即ち指導者といふ者を上に立てゝ、國民を指導して行くといふ方法論であつて、如何なる方向に國家國民を推進す

べきかの根本理想卽ち指導精神が確立して居る時に、始めて指導方法論があり得るのである。

この精神は具體的で無ければならない。單に空虛なお題目であつてはならない。例へば滅私奉公といひ、一億一心といひ、八紘一宇といひ、生産力擴充といひ、又は大東亞共榮圏の確立といふ。之が現下の指導精神であると考へられ、何れも適切なる事項であつて、今日は兒童と雖、容易に之を口にする。然し唯之を口に唱へて國民を指導しようとしても、それでは空念佛に終る恐れが多分にある。

この事は現實を見れば直ちに思ひ當るであらう。一部商賣人は果して滅私奉公を實行して居るであらうか。否、却つて我利横行の事實を眼前に見る。一億一心であらうか。吾々は滿洲事變以來十年間に走馬燈の如く十三回の内閣更迭を見て來た。生産擴充は果して豫期の成果を擧げて居るであらうか等々考へて見ると、その原因は、この當面の難局が尋常一樣で無いのにも依るが、他にも原因が無ければならない。端的に言へば之は眞の指導精神を忘れて、形式的理念に賴り過ぎるが爲ではあるまいかと思ふ。

所謂指導者原理は何かといふに、或る新體制理論家は次の如く說明して居る。

〃總ての國家生活又は國民生活に於て、先づ特定の指導者が定まり、その指導者の創意と責

任に於て、全體の活動が指導せられ、推進せられ、他の多數者はこの指導に協力しつゝ、全體としての綜合的活動を推し進める點にある〃と。

之に依ると、指導者として選ばれた者が創意が無く、責任を負はない者であつたならば、指導者原理は結局空念佛となるのである。又曰く

〃指導者は民主主義に於けるが如き多數決の互選によるので無く、多數團體員の意向は充分に參酌せられるが、然し下からの選擧に依らず、上からの選任に依つて決定せられる。又その指導者は自己の創意と責任に於て、國民又は團體員に率先して、その活動を指導し目的に向つて推進して行く。舊來の如く多數者の決議に從つて、後より之を執行するのとは反對に、推進力となつて實踐的に之を指導する〃

〃他の一國民又は團體員は、その團體の協力者又は協力層として、指導者の指導に協力し、各自の責任を分擔しつゝ、全體としての綜合的活動を推しすゝめて行く〃と。

之に依ると、指導者は上から選任せられ、自らの創意と責任を以て指導し、一般はその範に隨つて指導者に協力することゝなるので、指導的たる者の責任は實に重く、若し創意無き不適任者が之に當る場合は、指導者原理は根本に成立の理由を失ふ。隨つて行動が形式的となり、

一歩を誤る時は獨善に陥る理由が明かになる。

要するに指導者原理の眞意を解せずして、精神を忘れ手段の末に墮する時は、遂に目的を見失ひ、枝葉末節に走り、國民を徒らに勞せしめ、無用の混雜に導く恐れがある。

所謂形式主義の弊は、經濟統制に於ても往々その例を見る。根本の精神を忘れて、手段に用意の周到を缺き、所謂「統制の爲の統制」に墮する如き場合はその結果は所期する目的と逆行することさへあり得る。

四、指導者の素質

指導者は團集の上位に立ち、又は先頭に立つて大衆を指揮する者である以上、その判斷は眞に正鵠であり、着想は明敏なる先見に據らなければならない。若し目算を誤る場合は、その指揮下の部下を混亂と窮乏に陥らしめ、甚だしきは之を死地にさへ陥らしむる場合もあり得る。殊にその指導部下の大なる場合、例へば政治を主宰する大臣宰相が、先見を缺いて居る場合は、國を擧げての混亂と窮乏に導く事がある。ギリシヤの政府が英國に唆かされて、遂に獨、伊の爲に國を亡ぼされたる如きは、當局者の不明の好例である。須く隱忍して時期を待つべき

では無かつたか。

之に反して達識と先見とを有する指導者は、國運を躍進せしむる事が出來、又國民もその引率の下に、安んじて坦々たる大道を進むことが出來る。後者の例としてはムツソリーニやヒツトラー等を擧げ得る。

ヒツトラーは一九三四年、全ドイツ國の宰相となり、爾來年を逐ふてその聲望は旭日昇天の勢を示した。ドイツ人は「今日は」の挨拶の代りに「ハイル・ヒツトラー」をさへ呼び交す。昭和九年私の知合のベルリン大學の一學生たるドイツ青年が、夏休暇實習の爲に來朝した序に、濱松に來訪した事がある。「君の國では見やうに依つては皇帝以上とも思はれるヒツトラーの事を何と呼ぶのか」と尋ねて見た。青年は言下に〝フユーラー〟（指導者）と答へた。〝なる程、本當の指導者だ！〟と私は心の中で頷いた。實際ヒツトラーの「我鬪爭」を讀み、又彼の過ぎ來つた經路を見ると、指導者といふ言葉は、彼に文字通りに當てはまる。

ヒツトラーは人の知る如く、身を持する事が謹嚴で、獨身、菜食、禁酒、禁煙を守り通し、一身をドイツに捧げて居る。燃ゆる如き愛國心に、世界大戰敗殘のドイツ國民を率ゐ、謂々たる獅子吼と鐵の如き意志と、クンクの如き實行力とを以て、ナチス政策二十五箇條を着々實行

に移して來た。彼の政策は朝令暮改せねばならぬやうな杜撰なものでは無かつた。そゝ透通る如き先見には感服せしめられる。

先づ共産主義を排し、國民の純血を圖らむが爲に、猶太人を放逐し、ナチス精神の確立は云ふに及ばず、少青年團、親衛隊、突擊隊等を組織し、之に依つて國民思想の統一を謀つた。當時より既に獨ソ戰が彼の腦裡に描かれて居つた事を思ふ時、その深慮遠謀に驚かされる。爾來僅かに數年を出でずして、偉大なる世界一の空軍や機甲部隊等を完成し、指導經濟組織を築き上げ、工業力を躍進せしめ、着々新歐洲の建設の準備をした。

斯くて凡ゆる準備の成るを俟つて、彼は電擊的にその國策に向つて、矢繼早に突進したのである。その後の經過に就ては、今更茲に述べる必要もあるまい。

要するにヒットラーの如きは眞の意味の指導者であると思ふ。その指導精神の善惡は別として、彼の唱ふる所は空念佛で無くして實行である。模倣で無くして獨創である。追隨で無くして先見である。右顧左眄に非ずして直往邁進である。膠着に非ずして臨機應變である。漫然不用意で無くして、水も漏らさぬ用意である。無駄に非ずして最高の能率である。一方に抑制すると共に他面に於て育成するを忘れない。吾々はヒットラーの如きに於て、眞の指導者の備ふ

可き素質の多分を見出す。

我國民は上御一人に歸一しまつるのであつて、ヒットラーの如き獨裁者の存在は絶對にあり得ないのであるが、唯指導者は如何なる點に注意せねばならないかの參考とはなるのであらう。

五、指導と先見

天才的指導者は、何れの國、何れの場合に於ても、容易にその出現を望むことは出來難い。然し苟くも國民指導の地位に立つものは、少くとも明敏なる先見を持たなければならない。そして常に大局を見て、正鵠なる判斷を下し、遠大なる構想の下に、周到なる用意を以て國民を指導せねばならない。指導の貧困は國民の進路を迷はせ、迂廻させ、無益の混亂と犧牲とを負はしめ、延いては國運の進展を阻害せしめる。

今、我國に於ける物價の問題を檢討して見る。昭和十一年秋に於て、愈々生産擴充の實行期に入つて來たが、當時生擴に應ずる鐵鋼增産の用意が無く、且つ鐵鋼價格を豫め停止するの用意を缺いた爲に、鐵鋼の價格は一兩月にして、忽ちに數割の暴騰を來した。これは實に時局下容易ならぬ現象であつた。筆者は當時（昭和十一年十二月十八日）直ちに日本製鐵會社當局者

を訪問して、鐵鋼價格の暴騰は單に鐵鋼のみでなく、他の生擴用資材全部の價格の暴騰を誘發し、賣惜しみ、買溜め等の思惑を惹起せしめ、國策たる生擴を阻害し、延いては一般生活費の暴騰をさへ來す恐れあるが故に、如何なる手段を講じても、鐵鋼價格の昂騰を阻止せられたいと懇請した事がある。

若し指導者が先見を有して居つたならば、生産擴充方針の内定と同時に、之を發表するに先立つて、物價停止令を發布して置く可きであつた。その時期は遅くも昭和十一年秋までを遡ぶ可きであつた。之を爲さなかつたが爲に、鐵價は十二年一月末には前年の二倍となり、他物價も暴騰して、遂に工作機械類の四倍を筆頭として、二倍又は三倍の暴騰を來した物品は枚擧に遑が無いほどになつた。

之を放任して置くに於ては豫算の遂行にも支障を來すであらうし又國民生活の安定を脅かす恐れさへ生じたので、昭和十四年九月十八日に到つて、始めて物價停止令を出し、更に十五年七月七日に到つて、所謂七・七禁令を出し、爾來幾多の苦心と手數を重ねて、尤大なる「公定價格表」の決定を實施したのである。然し公定價格は一方に於て粗惡品を最高許可價格まで引上ぐるやうな逆效果をさへ往々見るに至つた事は周知の事實である。その間物資の不圓滑、闇取引の續

出、物價訂正の爲の手數、公定又は協定價格の凹凸に因する混亂等が、實に多大であつた。

ドイツに於ては一九三六年即ち四箇年計畫實行の發表に先立つて、物價の停止令を先づ發令した。當時經濟界は大體順調であつたので、各商品間の物價の不公平もなく、且つ業者にも需要者にも何等迷惑を及ぼす事もなく、極めて自然に低物價政策は運んで行つた。試みに一九三二年以來のドイツの物價表を示せば

年次	總平均物價指數	卸賣物價	生計費
一九三二年	一〇七、九	九六、五	二二〇、六
一九三三年	一四九、九	九三、三	一一八、〇
一九三　年	一〇九、二	九八、八	二二一、二
一九三五年	一一一、九	一〇一、八	二二三、〇
一九三六年	一一三、八	一〇四、一	二二四、五
一九三七年	一一五、一	一〇五、九	二二五、一
一九三八年	一一五、二	一〇五、七	二二五、六
一九三九年	一一六、二	一〇六、九	二二六、二
一九四〇年	一一九、六	一一〇、〇	二三〇、一

の如くで、實に過去九年間に於ける物價の昂騰は僅かに一一・二%、生計費の騰貴は僅かに

九・五%に過ぎないのである。而もこの間殆ど何等の混雑も無駄も無かつた事を考ふる時は、先見ある指導の如何に國家、國民の幸福に影響することが大であるかを知る事が出來よう。

次に財政に就て猶一例を述べて見よう。

國費の大部分の財源を公債に頼る事は、結局は政府の借金を増加する一方、國民の手にある金はそれだけ増加し、物價騰貴やインフレーションの因を作る。而も最後に國家の借金を負ふものは國民の外には無いのであるから、寧ろ早期に於て増税を實行して、財政を健全にし、同時に購買力の吸收を爲すべきものであると私は事變の初期に於て、唱へたのであつた。私は増税の遲かつた事を遺憾に思ふ。

ドイツに於ては國債を主財源として戰費を賄ふことを避けて、早く増税を斷行し、購買力を吸收する事を忘れなかつた。その結果昨年度國費六百億マルク中三百億マルク、即ち五〇%を税に依つて賄つて居る。我國の一五%に比して格段の差である。嘗てドイツは世界大戰後のインフレーションに依つて破産した失敗に鑑みて、今回の擧に出でたものであらう。

國債の問題は現在に於ける物價並にインフレーションに影響を有する事は勿論であるけれども、最大なる影響は戰後の整理に於て顕而に現はるゝ事は疑ひない。故にドイツは戰後を透見

して、累を將來に殘さざる遠慮より出發して居ると私は信ずる。前世界大戰後の我財界の整理が各國に比して後れた事は周知のことである。

以上私は物價と國債との二例に於て、指導に先見の必要なる所以を示したが、政治、經濟、社會施設その他各方面に於ても同樣に指導に先見を要する事は言ふまでも無い。

こゝに猶一例として米の問題を擧げて見よう。大東亞戰爭以來米の自給問題は朝野の注意を惹く一問題となつたが、それまでは外米依存の念が強く上下を支配して居つた。最初昭和十四年夏の大干魃のあつた秋、朝鮮に於ては一千萬石の減收が起り、內地諸地方にも相當の減收があつて、結局政府が同年十一月一日に第二回米作豫想を發表した當日、私は計算をして見ると米は何うしても七百萬石足りない。折から政府は生産擴充に懸命になつて居る際であつたから、若しこの爲に大切な船腹を使用して、外米一千萬石を運ぶことゝもなれば、唯さへ不足勝ちの船腹に愈不足を來たし、のみならず當時我國の金貨は益々減少して、手持正貨は殘り少くなつて産金奬勵に日も足りない有樣であつたから、若し外米買入れの爲にこの金貨を失ふならば二重の損失であると考へたので、十一月十三日當時の陸相畑大將に逢つて、外米輸入を斷念することを進言した。

それには日本人が全部米を一割だけ節約すれば宜しい。米の消費總額を一割節約すれば年約一千萬石の差が出て來る。それには日本人が全部飯を一日十杯食べる者は九杯にする。私の如く五杯食べる者は四杯半とすれば宜しい。故に即時米の切符制を實行して、一割節約を圖られい。之に依つて節約する金貨三―四億圓は、そのまゝ軍需生産擴充の工作機械や資材の資金に充當すれば、我生産擴充を倍加することは容易であるが、若しぐづぐづして居れば、米國に註文中の諸物資の輸入資金は枯渇して仕舞ふであらうと熱心に主張した。

陸相も大に賛意を表し、相當の努力をせられたやうであつたが、遂に反對する方面もあつて、この案は實行せられず、僅かに國民精神總動員の一割節米運動となつて、お茶を濁したのである。精神總動員で有志が一割の節米をしても、その效果は言ふに足りない。假に百萬人の有志がこれを實行しても、節米は僅かに年十萬石にしか上らない。一億人が法律の力によつて、全部例外無しに一割節米をするからこそ、年一千萬石の節米が出來るのである。

さてその結果は、私の豫期した如く、四億圓の金貨は殆ど外米の輸入に費消し、外國より購入すべき工作機械等の輸入資金は無くなり、兎角する間に遂に米英は機械類等の輸出を禁止してしまつた。若し當時四億圓の金貨を全部工作機械その他の輸入資金に向けて居つたならば、

或は今日の生産力は三割か四割、若しくは倍加して居つたかも知れない。である。その後時世の變轉に依つて、今日は全國に亙り米一人二合三勺當りの配給に事足りて居ることを思ふ時、當時に於て先見と英斷の無かつたことを國家の爲に今でも遺憾に思ふのである。

六、指導に對する渇望

秀でた指導者を要することは官たると民たるとを問はない。また大と小とを問はない。

私は或る席上で、有名な某能率技師の講演を聽いたが、その話に依ると、從來多數の官民工場に顧問技師として仕事に携はつて、從業員と逢つて懇談して見ると、その人々の共通の不平は、〃自分達は平素善い指導をされて居らない〃といふ事であるといふ。その意味は〃能率の專門家等の話を聞かされて見ると、こんな進歩した仕事の仕方があるのに、自分等は今まで、上役の誰からも教へられたことが無かつた〃といふ意味である。

若し學校を卒業した新入の社員等が、會社に入り工場に入つて、當初から唯先輩の社員達の舊式な、お座なりの仕方を、見やう見眞似で仕事するのでは、全く物足りないに相違ない である。之では本當の進歩に望まれない。故に近來一流會社　銀行等では、新入社員を集めて、

半ケ月、一ケ月又は場合に依つては數ケ月間の養成をする。擔當の課長、係長等が、夫々分擔して、社の方針、事務の概念、執務の方法等に就て講義とか指導とかをする。然し之とても、ほんの當初の概論的指導に過ぎないのであつて、事に應じ時に當つての眞の指導は、生涯を通じて爲さなければならないのである。が然し斯う云つた指導者は世間に極めて稀にしか見當らない。

官界に於ては實業界に於けるよりも、指導は概して一層稀薄である。尤も軍隊だけは例外である。新卒業生の新米の官吏は、少數の例外を除いては、從來少しも特別の訓練を受くる機會が無く、成行に任せて仕事をさせられた。その執務振りが思ひ思ひであつて、舊式なのは寧ろ當然と云はれる。

吏道刷新には、先づ官吏の奉公の精神、執務の能率、綱紀、訓練等々に就て、確固たる具體的指導方針を確立して、新採用者を之に依つて、少くとも民間會社以上に訓練指導するを要すると思ふ。舊態依然たる吏道では、幾多の新法令が制定せられても、運用の妙を發揮して、所期の目的を達する事は困難では無からうか。

近來統制事務等に於て、屬僚などが枝葉末節に拘つたり、又は法令の所期する目的と逆行するやうな取扱ひが往々あるやに聞くのは遺憾である。これ等は大局的判斷を下して、常識的に處理するやう一層指導に注意すべきであらう。

法令の效果は國民全部に及ぶ。故に法の運用が當を得なければ、その結果は一億國民が負はねばならない。隨つて當局者は一億倍の責任を感じて指導に當るべきである。

向上心に燃え立つた人々は、誰でも自分を指導して呉れる人を欲求する。これ等を親切に指導するのは先輩の責任である。

戰地から歸還した人が、軍隊生活を終へて世の中に出て、自分等を指導して呉れる人が無いのが寂しいと云つて居るといふ話も聞いたことがある。これ等の例から見ても、眞面目な青年が皆指導者を切實に要求して居ることを知る事が出來る。青年は正しき指導に依つて、その人生を完成し得る。もつと大きく云へば、國民は一人殘らず、眞の大指導者を渇望してゐるのである。若し國民が善く指導されて居らぬとすれば、それは政治家の責で無ければならない。我國民を以て頭から指導し難い國民であるとするならば、それは大なる思ひ違ひであると私は思ふ。

七、事業經營と指導

事業の成績の擧るのも、技術の進歩するのも、其の事業が國家に貢獻するのも、これらは皆指導の任に當る人のやり方如何に依る。

（イ） 技術者と指導

往年吾々の會社で、或る一工場の能率が甚だ低く、その爲に請負作業に從事して居る工員の收入は少く、製造は納期に後れ、會社の信用は傷くといふ有樣で、各方面から非難があつた。課長は自ら方法を示さずして、「能率を高めよ」と徒らに工員を叱つた。工員から「自分等の工場だけ收入が少くて困る」とか、「課長は工員を叱つてばかり居て困る」とか云ふ不平さへ度々聞いた。私は課長にも と工場の能率を上げて、工員の收入を增してやるやうにと話した。それには只工員を叱つてばかり居ないで、如何にすれば能率が上るかを課長自身で研究、工夫をして、工員を敎へてやらねばならぬ。工員は假令二十年、三十年勤續して居つても、自分の工場から外に出る機會は殆ど無く、外國の書籍や雜誌は勿論、內地の本でも餘り勉强する餘暇も無い。又他の進步した同業工場を見學する便宜さへも無いのだから、斯う云ふ人を責め叱るよりも、中で最進步した頭の持主たる課長自身が、最能率的な方法を考へてやつて、その方式に工員を敎へ導くのが君の役目であると懇々話したが、遂にこの課長には之が出來なかつ

た。止むを得ず課長を取り替へることゝした。

新しい課長は製造方式をすつかり變へてしまつて、所謂大量生產式方法を自分で工夫した。卽ち千種類にも及ぶ各種各樣の小註文を、悉く傳票に依つて豫め整理してしまつて、同種の註文だけを纏めては、一日中ぶつ通しで大量生產式作業をするやうにした。この爲に從來の如く千種にも及ぶ少量の註文品を一々作る生產方式に比して、非常に無駄の手數が省けるやうになり、工員は從來よりも非常に樂をして、而も能率は舊來の二倍にも達するやうになつた。眞の指導者は最良の公式を作り出して、部下に敎へて之に隨はしめる。

（ロ） 事業主と指導

統制下に於ける用意の不足は、又一つの惡現象を生じ來つた。それは惡質の商賣人が許されたる最高價格の範圍內に於て、最惡の商品を製造したり販賣したりする事である。その原因は物價公定の際、品質に對する規格が不完全であつたのに存する。近來の代用品が概して品質が粗惡であつて、之が爲に只さへ不足な物資を如何に多量に浪費して居るかは想像に餘りある。

最近私は或る絹絲紡績工場を見學した。屑繭を原料として紡績する時に之にスフを三割程混入して居る。屑繭の原料は豐富であるといふに拘らず、原價を低下する爲にスフを混紡するの

であるが、その爲にこの絹紡を以て製織せられた銘仙とか富士絹等は、壽命が餘程低下するものと考へられる。斯う云つた事は、當業者の僅かの利益を增さむが爲に、國家の資材を遠かに多量に浪費するのであつて、遺憾に堪へ無い。こゝに事業經營者が、國家的見地に立つて、少しの犧牲を忍ぶやう指導したならば、斯う言つた問題は立所に解決することであると思ふ。

私の會社でこの正月に、二千四百坪程の工場を新築した。そのスレート葺の屋根が、この夏の大雨で六百五十箇所ほど雨漏りがした。雨を防ぐ爲に作つた屋根が漏つては問題にならない。アスベスト資材が不足であるといふ口實はあらうが、雨の漏るスレートは何と云つても商品では無い。

堅牢なるスレートならば、三十年經ても雨は漏らない。半年で漏るやうな商品は、國の物資の浪費である。寧ろ工業家の良心を疑ふ。若し會社經營の主腦者が、指導精神を有して居るならば、斯う云つた粗惡品を製造することは出來ない筈である。かう言つた方面にまで指導の貧困を見るのは遺憾なことである。

（八） 保證付の商品

過般ドイツのユンカース飛行機會社の一重役が二人の技師と共に工場見學に來た。その時四

色のシャープ鉛筆を土產にとて私に與れた。このシャープ鉛筆は一見堅牢であつて、國產の一ケ月か半年で毀れる品物とは格段な差である。箱を開いて見ると、ドイツ語の說明書に七十五萬何千番といふ製造番號が入つてゐて、「本品は材料及び製作の不良に依る破損　對しては、十年間無料修繕を保證する」旨記してあつた。

物資不足を口實として、代用品は粗惡品の代名詞なるかの如き感ある我國の現狀と思ひ合せて、私は感慨無量のものがあつた。

願はくは日本の指導者も、國民も覺めて貰ひ度い。ドイツ人も亦吾々と同じく前古未曾有の大戰に死力を盡して居る最中なのである。

八、結　　語

最後に私は本會の會員諸君に一言希望を申述べる。それは指導者が高遠なる理想と雄大なる構想を有する場合と、只目前の小事に沒頭して居る場合とに於て、その結果に如何に大なる差違が生ずるかに注意せられむことである。

ドイツは前歐洲大戰の際、四圍を敵に包圍せられて、物資の窮乏はその極に達した。然るに

「艱難汝を玉にす」と云ふ、その言葉の如く　ドイツ人は窮乏を打開すべき道を賢明に切開いた。卽ち彼等は硝石の不足を空中窒素により、ゴムの不足を人造ゴムに依り、石油の不足を液體燃料の製造完成に依つて補ふ事が出來たのである。それは間に合せ物の代用品では無かつた　世界は啞然として、化學ドイツの偉大さに目を見はつたのである。

我國は聖戰五年、その間日本の技術者は何を完成したか。ドイツが自力に依つて、二十餘年前に完成した液體燃料も　人造ゴムも、種々のヒントや助力を受けつゝも、今日猶未だ充分の成果を擧げる事が出來ないで居る。獨創と眞劍なる努力の無い所には、結局は模倣と偸安とがあるのみである。

ドイツ人が眞理を探求し、技術に精進する間に、日本の技術者の多數は、雨の漏る瓦や、實用にもならない粗惡な「代用品」の製作に沒頭して居つたのでは、國民の恥辱である。假令何千何萬の人が、聲を大にして科學推進を唱和して見ても、退いて根本に培ふことを忘れて居ては、それは善男善女の南無阿彌陀佛のお題目ほども利き目が無いのではなからうか。

時局の前途は、國運を賭するほどに重大であるが、同時に平和の時期もやがて來る事も考へねばならない。戰後に來るべき商工戰は、戰前に比して一層激烈であるべき事を覺悟して、先

見を以て周到なる準備をしてかゝらなければ、我國の產業は亡びてしまふ。私は技術指導の大任を擔ふ會員諸君が、雄大なる構想の下に、健闘を續けられむことを祈る。

（昭和十六年九月　工業化學會東海支部委會式特別講演）

國民の社會的訓練

考へさせられる事實

我國民一般の公德や社會道德に關する訓練は、一等國民として、遺憾ながら未だ甚だ不滿足であるといはなければならない。玆に私は出來るだけ卑近な日常の例をとつて國民の社會的訓練について述べて見たいと思ふ。

我青少年の中には、今でも公德の何たるかを一向に辨へない人が往々にしてある。實はその方の教育や訓練が學校でも家庭でも殆ど忘れられてゐる。他人の借家が明いてゐると中の障子を滅茶々々に破つてしまふ子供がある。或は電燈に石を打ちつけて割つてしまふ者がある。現に東海道線濱名湖のコンクリート橋の裝飾電燈などは、二十餘りも石を打ちつけて割られてあるのを見る。國家が國民全部の費用で、公衆のために作つた國道の電燈を、自分で打ち破ると

いふことは一寸考へられないことであるが、これが事實であるのは情ないことだと私は思ふ。昨年滿洲、北・中支に四十日の旅行をしたが、街燈の石で割られてゐるのは新京で二つだけ目についたのみであつた。この點だけで見ると滿支人の公德も馬鹿には出來ないとも考へられるのである。

過般自分は東海道の由比の海岸に一泊したが、曙朝昔の廣重の繪にある由比宿を見物するため舊東海道を歩いて行くと、海上山讃德寺といふ小さいけれど、洵に閑雅な法華寺に來た。庭もよく掃除が行屆いて居り、海を見晴らす裏手の墓地には、朝から線香の煙が漂つてゐて如何にも奥ゆかしい。こゝのお坊さんは洵に殊勝な人だと感心しながら、又山門の石段を降りて來ると、驚いたことには、白墨で大きくク・ソ・ボ・ウ・ズと落書がしてあつた。これが爲に閑雅なこの寺の環境と、私の折角の感興とは何も彼もぶち壞されてしまつた。洵に心なき仕業であると思ふ。

ドイツ人の子供は往來を歩く時の作法まで教へられて居る。目上の人と歩く時には自分が左側に並ぶべきこと、そして必ず對手の人に歩調を合せて歩かねばならないこと、又外國人に行き逢つてその顏を見たいと思ふ時には、正面よりのぞき込んではいけない、一旦行き過ごして

から後を振り返つて見なければ無作法だといふやうなことなど。かういつた行儀・作法・禮儀といふものが如何に社會を住みよい、上品なものとするかは、想像し得ると思ふ。

公德は思ひやりから

七・八年前のことであつた。三重縣のある片田舍の青年四五十人が徴兵檢査を受けに某市に出て來て旅館に一泊をした。然るに旅館の待遇が氣に喰はなかつたといふので、風呂の中に小便をしたり、又夜具の中に大便をしてそのまゝ上から布團を被せて、宿を出たとかいふことで、一同は警察に引張られて、大目玉を喰つたといふ記事が新聞に出て居つた。隨分亂暴な話であつて、青年のいたづらにしても度が過ぎて居り、甚だ非紳士的であり、無責任であり、無教養であることが思ひやられる。勿論こんな狂氣じみたことは極端な例ではあるが、たとへ一萬人に一人でもかういふことを考へる人の出て來ることは、社會道德の觀念が薄く、公德に對する訓練が不充分である證據と言はなければならない。

馬鹿か氣狂ひでない限りは、誰か自分の家の座敷の電燈に石をぶつゝける人があらう。又自分の家の風呂の中に小便を垂れる者があらうか。要するにこれ等の人達は自分のものならば大

切にするが、他人の物となれば、損害や迷惑を掛けることは一切構はないといふ洵に卑怯な心掛けである。

小便壺の中に煙草の吸ひ殼を平氣で捨てるやうな人は、私の會社では採用しない。何となればかういふ人は、後からこれを掃除する人の苦痛を少しも考慮しない無責任な、やりつ放しの人であるからである。公德は要するに他人に對する思ひやりから始まる。

大人にも公德心の缺乏してゐる人が往々にある。例へば質のよくない酒呑が、他人の嫌がらせをやつたり、又は醜態を演ずるやうなのは悪い習慣である。近來は悪酒呑は非常に減つて來たことは事實であるが、酒を飲むのに、醉ふまで飲まねば承知せぬといふ考へ方は、特にこの非常時には國策上からも斷然改むべきものだと信ずる。支那人もよく酒を飲むが、醉つて他人に迷惑をかけることは聞かない。西洋にも醉つ拂ひは殆ど見ない。私は外國で暮したり旅をした三年間に、ベルリン郊外のベルダの櫻見に出かけた時に、ただ一回だけ、一人二人酒に醉つたドイツ人を見たことがある。然しこれも上機嫌で他人に迷惑を掛けるやうな性質の悪いものではなかつたのである。

交通道德未だし

交通道德に至つては一層改善を要する點が多いと思ふ。大都市では電車の切符に乘替の時間から行先までも鋏を入れてさへも、誤魔化す人が往々にあるさうである。外國では切符は大抵買ひつ放しであり、國に依つては電車賃は、乘客が自動機に白銅貨一箇づゝを自ら入れて乘る。下車の時に一々切符を集めなければならないやうでは、交通道德の水準は未だ低いといはなければならない。

往來の眞中や歩道の通行妨害となる位置に、自轉車などが一杯に置いてあるのは困りものである。置く時に少しく注意して呉れたならば、通行人は大いに助かると思ふ。荷物自動車の營業者が、ガレッヂの中で荷物の積込みをすべき筈なのを、往來の一部を平氣で仕事場として、交通の妨げをしてゐるのは日々見る街頭風景である。かういふことも少しく取締を嚴にし、お互に氣をつければ、容易に改め得ることだと思ふ。

今日は交通難時代で、電車も汽車もみな超滿員で混雜を極める。一列勵行は多くは閘札口や出札口だけの話であつて、東京などではラッシュ・アワーの時には女までが窓から潜り込む者

さへあつて、寧ろ悲慘な感がする。斯ういふ場合は冷靜に考へて見れば、ゆつくり構へても結局乘れるだけの人數は乘れ、又皆が急いでも乘れるだけの人數しか乘れないのであるから、急いで混雜するだけ損だといふことになるのであるが、人々は、他人は乘り後れても、自分だけは後れまいとし、人が立つ時、自分だけは席を得たいと考へるところに排他的我利の心が現はれる譯である。故に自分は立つてゐると初めから腹を定めて掛れば、急ぐ必要はないといふことになる。交通道德は各人が自分の運命に從順に公平に服するといふ覺りから始まると思ふ。勿論交通機關が不足といふことが最大原因であるが、乘客の方も考へ直す必要があると思ふのである。

昭和八年自分が二度目の外遊をした折、ベルリン郊外のテンペル・ホーフといふ飛行場で、ヒットラーが勞働祭の行列を檢閲するといふので見物に行つた。この飛行場はベルリンの町に接してゐるので、集つたものが總計百萬人と稱され、參加者と見物人とで飛行場も一杯に埋つてしまつた。町から此所に出る道は幾十筋もある。私の歩いて行つた道は偶々飛行場入口の直前で巡査が一人綱を引張つて、後から後から引切なしに詰め掛けて來る通行人を一時通行止めをやつた。注意して見てゐると、私の前の一人のドイツ人が何か一言文句をいつた。すると巡

査は一言だけ「規則で止めるのです」"Alles Gesetz!" といふと、その後は誰一人一言半句も文句をいはずに、大人しく待つて居つた。ドイツ國民の規則や命令に從順なのには全く一驚した。これが日本であつたならば隨分文句があることであらうと想像したことであつた。

現に過日東京の日本劇場で、蘭印の映畫が公開せられた時、開場の三時間も前から數千人の群集が詰め掛けて、二十人ばかりの巡査がこれを整理しようとしたが及ばない。そこで丸の内警察署長が五十人ほど巡査を連れて來て、擴聲器を通じて演說をして、辛うじて群集を取靜めることが出來たといふので、新聞紙上でも一時大分問題になつたことがある。醜態といはなければならない。

又先年京都驛で、海軍水兵が入團するのを見送りに來た人々が、餘りの混雜に陸橋からなだれ落ちて、遂に七十一人ばかり踏み殺された事がある。

先年長崎ではラッシュ・アワーの渡船に、定員の二倍以上も乘つて、遂に船が灣の中で沈沒したやうな椿事があつた。かういふ無訓練は社會の不幸であるのみならず一等國の恥辱でもあると思ふ。

嘗て或る中學校の校長が、岩手縣の盛岡中學校を見學に行つたところが、急に雨が降り出した。然るにこゝの中學校の生徒は落着いて平氣で歩いてゐたさうで、「岩手縣からは大人物がよく出るといはれるが、中學生の時分から流石に人間が鷹揚に出來てゐる」と感心したと、その校長から聞いたことがある。

お互に電車やバスに少しぐらゐ後れても、問題でないのみならず、押し合はずに秩序を保つて行けば、却つて混雜しないで早く乘降が出來るのであるから、それくらゐの心の餘裕を持ちたいものだと思ふ。パリーの電車停留所には到着順の番號札を自動機から各自取るやうにして混雜を防いでをるが、これ等もよい思ひ着きだと思ふ。

人間的訓練の缺乏

公德を辨へない人達の中には又次のやうな不都合なことをする人がある。それは都市で區劃整理をやつたり、新しい道路をつくる時に、他の人はみな立退いてしまつても、自分一人だけ最後まで頑張る。立退料も土地の買上評價も、他の人並よりもよくして貰つても、なほ且つ頑張り通して居るのである。これがために道路工事は仕掛けたまゝ半年も一年も立往生をして、市や市民の迷惑はこの上もない。勿論立退きは誰しも苦痛とする場合が多いこととは察しられ

るのであるが、堂々たる人でありながらかういふことをする者が往々あるのは恥づべきことである。公共のためには當然人並の犠牲は負はねばならない場合に、自分一人だけ我利を通す如き者には、社會的制裁といふものがなければ、社會はよくならないであらう。

タクシーなども、この頃は車が少くなつたのとガソリンの配給が少くなつたのとで、主客轉倒して、客の方が頼んで乘せて貰ふ有様である。ただ大阪市内のタクシーだけは自動車會社經營者の訓練宜しきを得てゐるためか、どの運轉手でも客が乘る度毎に「有難う御座います」といふ挨拶をする。當然のことが珍らしがられる程に、今日、人間の訓練や道德が乏しくなつたことは、洵に歎ず可きことではあるまいか。

現代の主客轉倒はタクシーの場合のみではない。物資の缺乏に名を借りて商品の品質を粗惡にしたり、値段を上げたりしてゐるものが少くない。私は公定相場といふ名稱が元來間違つてゐる、これは當然最高許可價格といふべきものであつて、從來安かつたものをこの價格以下で賣ることは少しも支障がないのみか、寧ろ當然公定價格以下であるべきものだと信ずる。例へばコーヒー一杯が十五錢といふ公定相場であるからとて、帝國ホテルの如き立派な場所で飲むコーヒー一杯と、田舍の喫茶店で飲むコーヒー一杯とが同じ値段であるべき筈は絶對にないの

である。公平に考へて、設備や品質を考慮に入れる時は、一方の値段は他の二分の一又は三分の一でも充分だと思はれる。それを最高値段まで殆ど全部が引上げてゐるといつたのが現狀ではないであらうか。洵に不可解なる時代相であると私は感ずる。國民が自重しないならば、自ら惡性インフレーションの原因をつくり、國の經濟を惡くする恐れが多分にあるのである。なほ甚だしいのは　賣惜しみ、闇取引等をさへする人もあることは衆知のことであつて、吾々は何が滅私奉公か、何が公益優先かと、かういふ人々に尋ねたい。今日我國が公益優先や一億一心を強く主張する所以は、眞に國民が之を實行するに非ざれば、この未曾有の大時期を乘り切り得ないが故である。故に吾々は國民の中に一人の國策違反者をも存在せしめてはならない。闇取引等にも、中には氣の毒な事情の人も無論あらう。然しこの非常時の國策に反して私利を謀るといふことは、如何なる事情があつても許さるべきでないと信ずる。

國家への積極的奉仕

私は本書に「路上の拾ひ物」といふ短篇を載せて置いた。

一人のお婆さんが街の中を歩いて居つたが、ふと何か道に落ちてゐるガラスの破片を見付け

てこれを拾ひ、紙に包んで、そつと帶の間に挾んで行つたといふ話である。若しガラスの破片が自分の家の座敷や廊下に落ちてでもゐようものならば、どんな横着者でも、「子供や家族が怪我をしては」と、すぐに拾つて片づけるであらう。然るに同じガラスの破片が、自家の門より一歩でも外に落ちてゐたとしたならば、「他人の子供が怪我でもしては」といつて、片づける人が果して幾人あるであらう。

この心理を解剖すれば、人間は利己的であつて、自分や自分の家族の怪我は好まないが、他人の怪我までは構つて居られないといふ淺ましい心が奥にひそんでゐるのである。お互に考へねばならぬことである。

若し各人が世の中の不正を正し、道に落ちた邪魔物を人のために除けて行くならば、社會は今日よりも遙かによく、且つ遙かに幸福な、住みよいものとなるに相違ないのである。善き國民は國の法律を守るといふだけでは足らない。善き市民は國家に對し積極的に奉仕及び正直の生活を捧げなければならない。

惡しきことせねば足れりと思ふらし善きことせずて生きる甲斐やある

吾々の社會は「すべてが各人のためであり、各人がすべてのためである」ことを心より會得

して、眞に　上御一人に對する忠誠・祖國愛・同胞愛・社會愛に目醒むる時に、他人と自分との間の距離は縮まり、終極は自他一如の境地に到り、奉仕をせずには居られなくなる。かくて眞に積極的な心からの奉仕が出來るであらう。

仕事する間も、職業を通じて奉公しようと念願する人には、闇取引や暴利の誘惑は少しもなく、正道を踏みはづす如き心配は毛頭ない。否、仕事自身が奉仕の機關なりとさへ吾々は思ふのである

心の新體制

ヒットラーはドイツの大學生に決鬪を許し、「汚されたる名譽は血をもつて償へ」といふ綱領を示してゐる。それは男子たるものは自己の名譽を重んぜよ、名譽を汚されて引退つてゐるやうな國民では國家が盛んになつた例がないといふのである。悲しい哉、我國の現狀は〝花より團子〟といふ現金主義が、世の中を風靡して、名譽は捨てゝも、間金は出しても、金儲けをしたいといふ腐つた心を持つた人が少くない。これでは國家の前途は危いのである。「名譽を重んぜざる國の興隆する例なし」といふヒットラーの言葉は名言である。

畏くも青少年に賜はつた　御勅語の中にも特に廉恥を重んぜよと宣はせられてある。吾等の祖先たりし武士は命に代へても名を惜しんだものである。吾々國民は須く反省一番しなければならない。

然らば國民的道德の訓練は何處から始めるか。私は、先づ青少年から始めなければならないと思ふ。ヒツトラーもムツソリーニも、少年團や青年團を作つて、これ　祖國愛と純潔と犧牲との精神を植ゑつけた　彼等指導者は如何に國民を指導すべきかを知つてゐる。故に一方においてよく働かせ、一方においてはよく慰安せしめ、歡喜力行せしめて居る故に國民は元氣が横溢して居るのである。

目下ドイツに滯在中の陸軍航空總監山下中將が去る二月六日以來、半ケ月間歐洲の西部戰線を見學して歸つた直後、新聞記者團に話した言葉の中に、「第一線は勿論、占領地域においても、ドイツ軍の軍規は極めて嚴正で、訓練が行屆いてゐるのに感心した。これは單に、軍の規律訓練の問題だけでなく、國民全體の敎養の問題だと思ふ。以て吾々の範とすべき點であらう」と結論して居る

我國運の將來のために、又お互によりよき社會、住みよき社會をつくらむがために、將また

大東亞の指導者として恥かしからぬ國民的品位を築き上げむがために、國民全部が心の新體制を樹てて、社會的訓練を完成せむことを私は冀つて止まない。（昭和十六年一月）。

天才養成論

一、緒言

前古未曾有の大東亞戰爭に直面して痛感することは、政治、經濟、科學各方面における眞の大指導者、大組織者の出現に對する要望である。われわれの現在置かれてある事態を正視し、見透して、綜合的な大方策を樹立し　國民をして紆餘曲折なく向ふべき道に直往邁進せしむることが各方面とも必要であると思ふ。

例へば技術に就て例を取つても、新兵器が一戰毎に戰場に出現して、昨日の兵器は明日の用には供し難かつたり、またたとひこれを用ひてもその能率は新兵器に化して遙かに劣るといふのでは味方の損害は徒らに大となる。逆に敵米英を擊破して、彼等をして戰意を失はしむるた

めには、味方の兵器は敵に比して遙かに優秀なることを要求する。かういふ意味において科學の天才の出現を翹望する。

大東亞戰は地理的の關係上、敵の心臟に觸るゝことが容易でないとすれば、好都合に運んでもこの戰爭は長期に亙るを覺悟せねばならない。かくの如き長期戰に對し、少き資源を以て、如何に大量の生產を擧げ續けるか、また銃後經濟の諸組織を如何に巧妙に運營するかといふ命題は、これ亦天才的經營家、技術者の手腕と先見に俟たねばならない。

また大東亞戰が廣袤幾千キロに亙る各國の民族を網羅し、これ等をして各々その所を得しめ、將來我國を中心とする眞の大東亞圈を確立する大方策は、構想力において、思考力において、萬人に傑出した人の腦力に俟つべきであると思ふ。衆智を集める意味の各種委員會も必要であるが、一人の天才の頭腦の閃きは時として幾千萬の人を以ても替へ難い甘みがある。かゝる意味から大なる天才の出現は、國民に強く渴望せられてゐるのである。

勿論今日の急に直面して、遽かに大人物を作ることは到底不可能ではあるが、國家百年の計として、將來を負ふべき各方面の天才を養成すべく、一日も速かに着手することが必要であると思ふ。

二、天才の價値

抑々一國の文化はこれを團集としての文化と代表的偉人傑士の最高級制作とに分つことが出來る。前者は廣さまたは量を示し、後者は高さまたは質を示す。第一次歐洲大戰前の露國の如きは國民の八割五分は無學文盲であつて、我國における兒童就學率の九割數分であるのと比較すれば文化普及の差は實に霄壤も只ならざるものがあつた。それにも拘らず、露國が世界人の腦裡に、最高文明國の一として印象づけられたる所以のものは、單に白人崇拜といふ因襲的觀念によるのみでなく、實にその國の産出した偉大な天才によつて造られたる文化の質によつたのに外ならない。彼のトルストイ、ゴーリキー、ツルゲニエフ等の世界第一流の文學者、メンデレエフの如き世界第一位の化學者、クライスラーの如き音樂家等の輩出が、露國文化の名聲を世界的　高からしめたことは誰人も否定することは出來ない　實に彼等十數または數十人の創作の聲價は、低級なる團集としての露國文化の不評を償つて餘りあつたものである。

之によつて之を觀るに、天才はその國の文化の高さを示すメートルになるといへよう。豊太閤の大明征伐は、日本民族も彼所までは達し得るといふ高さを示し、元の急必烈の歐洲遠征は、

有色人種も決して征服慾において白人種に劣らざることあり得るを示すもので、民族のために萬丈の氣焰を上げたものと言ひ得る。

科學も藝術の世界も全く同樣であつて、人類全體の經營の多くは、少數の天才の創造の蓄積を普遍化せしむるに過ぎない。

一の偉人が出現して一の時代を作り、大衆は常にこれに率ゐられて次第に一歩づつその創造物の高さまで引き上げられ、遂に今日の文化に到達したものである。この意味において天才は小にしては國家民族の寶であり、大にしては人類の指導者であり、また恩人ともなる。

三、天才の意義

人は賢愚や能不能に拘らず、生來固有する特性を有すると同時に、その經驗教養環境等から得た後天的特性を具有する。この兩者の特異性が相交つて所謂個人差を形成するのである

宇宙開闢以來生を享けたる、または享けつゝある千萬億の人類は、その面貌が凡て異る如く、その個性も異るのであつて、所謂個人差は一人の例外もなく存在する。而して個人差が善き意味において異常に發達したものは、廣義における天才と稱することが出來る。

しかしながら私がここに論ぜんとする天才は、普通の秀才とか所謂天才とかいふ小天才の意味ではなくて、眞に國家社會の至寶として萬人の崇敬に値する底のものである。所謂不世出の才である。その才たるや天品のものであつて、努力訓練または教養のみに依りて得られたる、また得ることの出來る底のものではない。卽ち素質において先天的に異常のものであることを要する。換言すれば磨かれざる以前においてその質がダイヤモンドであることを要する　これを喩へばエヂソンの發明能力の如く、世界の全人類の發明智腦の總和を以てしても猶ほ且つこれに及ぶことが出來なかつた類である。

天才の企及し難い點は量の問題でなくて質であり、廣さでなくして高さである。五尺六尺の身長者を平地に何人並べてもいづれも團栗の丈比べに過ぎない。九尺の大男一人は唯一人である。つても、猶ほ且つ全世界の凡ての人類の上に一頭角を拔んでてゐる。高さは廣さを以てこれを置換することは出來ない、量はこれを以て質に代ることを許さない。天才の貴い所以はその一人が何千萬の凡人を以て代へ難い點にあるのである。かくの如き素質を有する所謂磨かざるダイヤモンドを見出して、これを研磨成形せんとするが本論の目的である。

四、天才の出現

天才は天賦の力であるが故に、これを人爲によりて造ることは出來ない。卽ち後天的の教育や訓練または努力によつてのみこれを達成することが出來ないことは前述した通りである。しかしながら天才の素質があつてもこれに教養を施さなければ、その力を伸ばし得ないことはいふまでもない。砂中に埋れたダイヤモンドは、原石の儘では瓦や石と外觀上何等選ぶところがない。故に天才も往々に埋れたまゝ世間に見出されずして終ることが多いのである。

元來寶石や貴金屬はその產出が少いと同じやうに、天才はこれを得ることが容易でない。所謂絕世の天才は、數百年に一人か二人出て來るに過ぎない。一代の天才兒でもその數は極めて少いのが常である。しかし一時代に生存する人間の數は甚だ多いのであるから、いづれの時代、いづれの國にも多少の天才を求むることは難くない。天才であつて自らその才を知る機會を得ずに終るものが少くない。また時として偶然の機會に世に現はるゝこともある。

現代でも我國民の間に恐らくは幾十幾百の大小天才があるに相違ないと思ふ。圍碁の一例を取つて見ても、十歲で初段格に達しない者は終生高段者にはなり得ないといふほどであるから、

たとひ名人とまで達しなくとも高段者（五段以上をいふ）は、これを圍碁の天才と言つても過言ではないであらう。その高段者の數が現に三十餘名に達するのであるから、碁の一例から類推しても他の各方面においても幾多の天才があるであらうことは想像に難くない。

五、從來唱へられた　天才教育

從來も天才主義教育なる語は屢々唱道せられたが、その所謂天才主義教育の內容を見るに、一言にしていへば、從來の劃一的教育並に詰込主義的教育を排して、自由主義の教育を施し、また可及的兒童の才能、性格に適應した對人教育を施すといふのにあつたやうである。その教育の對象たる兒童の選拔の一事に至つては、全く顧みられなかつた。故にこの組織の下においては、最善の場合でも、所謂天才と稱しても單に所謂「秀才」といふ程度のものであつて、眞の天才　得られなかつた。多くは尋常一般の兒童を集めて、これに自由教育を施し、中で成績の特に優秀な者はこれを選拔して一級を飛ばして上級に編入するとか、或は尋常五年卒業後、直ちに中學校に入學せしむるとかいふ程度であつた。そして爾後の專門完成教育に就ては殆ど顧みられるところがなかつた。かういふやり方では結果において單に國民學校または中學校の

卒業年限を、一二年間短縮する以外に殆ど何等の收穫も得られないのである。

尤も個人差に順應して教育を施すこと自體は、望ましいことであることは異論のないところであるが、これによつて天才を養成し得ると思ふものがあるならば、それは大なる誤りである。若し眞の偉人天才を養成せんと欲するならば、その教育の方法は自ら別個の構想に依らなければならない。

六、天才　育論

前節で私は、從來の所謂天才主義教育が、實は凡才の自由教育たるに過ぎないことを說いた。以下唱道せんとする天才教育論は、天才大成論ともいひ得べきもので、僅かに國民學校や中學や大學の教育を以て終りとせずして、天才が眞に大成するに到るまで徹頭徹尾終始一貫した大方針に據つて、眞の天才を育成せんとするのにある。區々たる才子乃至秀才は、われわれの目的とするところでなくて、現代における各方面を代表するに足る眞實第一流の素質を有する若き器を、嚴密なる方法によつて選別し、これをして凡ての後顧の憂ひを絕たせ、國家並に社會が完全なる後援者となつて、最善理想的の教育を施し、その才を大成せしめんとするのであ

る。その部門からいへば、社會のあらゆる方面を網羅する。卽ち思想家、政治家、宗教家、藝術家、理學者、工學者、發明家、事業家等いづれの方面たるを論じない。選拔の方法はあらゆる手段を費して萬々遺漏なきを期し、かうして得た優良なる才能は、これを國家または社會の公器と見なして、これに對して最善と考へられる理想的教育を施すのである。

(イ) 天才を選拔する方法

天下に天才の器を求むる方法に就ては、六ケしい制限をする必要はない。如何なる方法でも、眞の天才の種子を見出し得れば、それで宜いのであるが、試みに左に二三の私見を述べて見よう。

(一)試驗制　例へば數學、暗記物、文章等の如き通常の學習課目に屬する方面においては、國民學校、中學校等で教師が適當なる注意を拂つてをれば、生徒中最優秀なるものを見出すことは困難でない。かうして全國學校から、各校毎に十數年間に始めて見るといふやうな天才兒の候補者を求め、この全國から集めた候補者の中から、更に試驗その他適當なる鑑別法によつて、眞に一流に位するものを部門毎に選拔するのである。不幸にして天才と認むべきものがない場合は、強ひてこれを選拔することは避けねばならない。かくのごとくして逐に及第した俊

才中の俊才も進んで上級の教育を施しつゝある間に、所謂十の神童十五の才子となるものが有るかも知れない。故に常に爾後の經過に注意して見込みのないものはこれを飾ひ落して、最後の優秀者を得ることに努力するのである。

(二)競爭制　他の方面においては、競技の方法によつて隱れた天才を知ることが出來る。例へば運動方面の天才は全國的に各種の競技を催し、適當なる法則によつて選手を選出し、全國の選手を更に競技せしむることによつて、眞に全國の第一流者を選び出すことが出來る。彼の國際オリンピック競技會や、テニスにおけるデヴィス盃戰や、その他各種の世界選手權競技の如きはこの例である。また音樂家のコンクールの如きもこの例に入る。帝展、院展等の如き繪畫の展覽會において、時として畫の天才を發見し得る如きもこの例である。

しかしながら競技の場合には、既に半製または完成した者が首位を克ち得るのであるから、單に競技の順位のみによつて人々の能力を判斷してはならない。何となればわれわれの求めんとする者は、天才の未製品であつて、非天才の既製品ではない。卽ち將來の大家名人たるべき卵を發見せんとするのがわれわれの目的である。故に選拔の標準は普通の競技における審判とは自ら別個のものでなければならぬ。詳言すれば現在の技倆や成績よりも、年齡素質等に最大

の考慮を加へ、將來才能發達の可能性を觀破することを主眼とすべきである。

(三)懸賞制　競技制の一種であるが、賞を懸けて技を競はしめるのである。新聞雜誌等が賞を懸けて小說、論文等を隱れたる無名の作家より募集する如き方法も、時としては一種の天才拔擢の助けとなる。但しこの方法では、人によつては賞を欲せざるもの、または名を出すを欲せざるもの等があり得るから、これのみでは不充分である。

(四)屆出制　市町村吏その他大衆が、或る機會において秀俊の子弟の存在を發見または聞知した時は、これを中央の機關に通知または屆け出でをさせて天才發見の一助とするのである。

上述したところは數個の例に過ぎない。かういつたあらゆる方法を講じて、天下の隱れたるまたは埋はれたる天才を拔擢するのであるが、この際選拔の主たる標準としては、次の諸項を考ふべきであらう。

1、稀有なる天品の能力の所有者たる事

2、將來活動に堪へる體格を有する者たる事

3、年齡は教育に最適するものたる事

而して候補者が以上の資格に合格すべきや否やの判定は、國家の任命した智識經驗に富んだ最

高の專門委員會の愼重なる審議に俟つこととする。審判に當つて一切の情實を排すべきことは論ずるまでもない。

(ロ)　教育の方法

同じ天賦の才能でも教養訓練の如何によつて發達する度を異にすることは言ふまでもない。若し教育法が誤つてをつたならば絕世の天才も遂にはあらぬ方面に外れて、可惜才能を沒却してしまふであらう。圍碁や劍道を學ぶ時に、所謂我流で練習する時は、惡い習癖が出來て、遂に終生これを矯生することが困難で、到底大成を期することが出來ない。故に眞に將來の大成を期せんとするならば必ず正規の定石または型を良師に手ほどきして貰ふの外はない。そして相當の基礎的教養の出來た後は、天才は必ず自己の獨創に入り得るのである。普通の子供の教育でも家庭教育や教師の良否によつて子供の成績が左右せらるゝことは、われわれの日常目擊するところである。況んや感受性の絕大なる天才においては、眞にその器を大成すると否とは廣義における教育の當否が、大なる關係を有すべきことは想像に難くない。孔子は「後生恐るべし」と言ひ、また「四十、五十にして聞えざるは恐るゝに足らざるなり」といつた。これは若年者は將來の發達が恐るべきものがあるが、中年以後の努力では天才を大成し難いことを言

つてゐるのである。

天才をして才を發揮せしむるには、これを發揮せしむるの機會と環境とを與ふることが必要である。土中に埋れたダイヤモンドは、やがて年月を經るに從つて發掘せらるゝ機が必ず來るであらうが、生命を有する人類のダイヤモンドは、これを發掘するに時期を以てしなければ、遂に光輝を發揮せずして朽ちてしまふのである。況んや人の感受性の最旺盛な時期は極めて短期であつて、適切な時期に教育を施さなければ、如何なる天才も時期を失して遂にその天賦の才能を發揮することが困難となる。

例へば音樂、語學、運動、圍碁等の如きは、中年以後に如何に練習しても、幼少時代に教養を經たものに到底太刀打することは出來ない。蓋し幼少時代は感受性が最も強く、習熟も速かであり、且つ修得したるものが第二の天性となるけれども、中年以後においてはこれが出來ない。この故に天才教育においては、幼少時代からその師となるものは、常に求め得べき最善の者を選びその教育の方法も、天賦の才能を發達助長するに最適當なものたることを必要とする。必ずしも正規の學校の課程を踏む必要はない。寧ろ正規の劃一教育は天才教育には害こそあれ益はない。昔から音樂や圍碁の眞の天才と言はれた人は、凡て五、六歳から大家の門に入

つて專門の教育を受けてゐるものが多い。二十歳近くまで普通教育を受けて、それから專門教育に入る如きやり方では、絶對に天才は大成し得るものではない。

天才教育は學校を卒業したことを以て終末としないで、最後の仕上げまでを成し遂げてやる。その形式の如きは如何やうでも宜しい。一例を擧ぐれば理論物理の研究に向ふ者ならば、相當の基礎が出來た後は、我國斯界第一位の定評ある某々博士に就かしめるとか、更に進んでは世界第一位の物理學者の直接指導の下に研究を進めさせる。若し科學的工場管理の實際を學ばしめようとすれば、世界第一の模範工場に實習せしむるといふやうに、最善の道、最善の師、最善の計畫をたどつてその才を大成せしめるのである。これを一言にしていへば理想的なる各個教育を施すのである。かくのごとく教養を經たものが愈々實社會に出でる時は、國家は喜んでこの種天才に地位を與へ、これを聲援し、これを指導者と推し立て、これに據つて國家社會の大事を成就するやうにしなければならない。

七、結　論

假りに上來述べ來つた如き方法によつて、各部門にわたつて隱れたるまたは現はれたる天才

を集め來つて、十年二十年後にその數が二十人でも三十人にでも達したとしたならば、而してまた彼等がその大成した創造的才能を實社會に應用し、而も社會各方面の援助を得て自由にその手足を伸ばして、一世を指導し得るとしたならば、多難な我國の前途に幾多の光明を投ずることは必ずしも難事ではないと信ずるのである。或はこれによつて恰も明治維新の革新の如く劃期的進歩を齎すことが出來るならば、國民の幸ひはこれに過ぎるものがないであらう。若し左程の效果が得難い場合でも、有爲なる人材を養成することは決して徒爾でないことを思ふならば、われわれは天才教育が國家の緊要事たることを痛感するのである。

この天才教育に必要な資金は、被教育者の數に關係するのであるが、恐らくは數百萬圓を十數年にわたつて徐々に支出すれば足りると思ふ。金額としては一の大きな研究所や、試驗場の經常費にも及ばない。若しこれによつて天下の人材を養成し得るならば、その得るところは費すところに比して實に大であらう。而もこれは次の時代の天才に皆適用するのであるから、戰時平時を問はずその效果は期して待ち得べしと思ふ。

本計畫の效果の大小は、要するに得る人材の良否によつて定まるものであつて、或る意味においては一の冒險たるを免れない。―かしながら社會には單なる金錢上の投機にさへ、百萬金

千萬金を投じて惜しまないものがある。邦家のために有益無害而も有望なるこの冒險に一指を染むることは徒爾でないと思ふ。「一家百年の計は樹を植うるにあり」と古人は言つたが、われわれは「邦家百年の計は天才を遺るにあり」といひたい。願くは國家または天下の有志が、天才養成に對する國家的組織または機關の實現に一日も速かに着手せられむことを。

昭和十九年三月十五日印刷
昭和十九年三月二十日發行
出版會承認番號 い三三〇二二五號
（五、〇〇〇部）

著者略歷
明治四十三年東京帝大工學部卒。
日本樂器株式會社社長。「人生建設」
その他の著あり。

勝利の生產
定價（本體）貳圓五拾錢
特別行爲稅相當額 貳拾錢
合計 貳圓七拾錢

著者 川上嘉市
發行者 肥田正次郎 東京都芝區新橋四ノ四六
印刷者 櫻井忠三郎 東京都芝區新橋三ノ二〇
發行所 株式會社昭和刊行會 東京都芝區新橋四ノ四六 振替 東京三九一三〇番 電話芝（43）四八一一番 會員番號 一一二五九一
配給元 日本出版配給株式會社 東京都麻布區淡路町二ノ九

八紘印刷株式會社（東東1203）印刷

新刊

町田辰次郎著

皇國勤勞觀と産業報國運動

産業報國運動を発潑ならしめる爲に日本獨自の指導精神卽ち一つの體系づけられた勤勞觀を確立し之を我が國の生産活動部面に働く一人々々の腦裡にはつきりと扶植せしめることは今日喫緊の急務でなければならない。

賣價 一圓五七錢
送料 三〇錢

好評

醫學博士 藤井尙久著

中年期の醫學

國民醫學叢書

中年期に特に多い病氣、例へば血壓亢進、腎臟炎、動脈硬化 糖尿病、肥胖症、脚氣、黴毒 癌、胃潰瘍、結石症、結核、心臟瓣膜症、肝臟硬變、神經衰弱、老眼等について說き、飲酒、喫煙、喫茶についても注意を述ぶ。

賣價 二圓一八錢
送料 三〇錢